

令和5年度 文部科学省

「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業」

(「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業)

アンケート報告書

令和6年2月

千葉大学 教育学部 幼児教育教室

実施期間：2023年7月1日～2024年2月29日

実施機関：千葉大学教育学部 幼児教育教室

砂上 史子 教授

中道 圭人 教授

駒 久美子 准教授

淀川 裕美 准教授

鈴木香代子 特任研究員

前田 恭花 技術補佐員

目次

第1章 千葉大学教育学部学校教員養成課程乳幼児教育コース「幼児教育☆サマーセミナー」 参加者アンケート結果報告	
第1部 高校生アンケート	1
第2部 在校生アンケート	12
第3部 附属幼稚園教諭アンケート	19
第4部 まとめ	24
第2章 千葉乳幼児教育研究会 幼児教育の「今」を語り合おう！—国の動向と保育現場の声— 参加者アンケート結果報告	25
第3章 リトミックワークショップ参加者アンケート結果報告	41
第4章 千葉乳幼児教育研究会 オペラシアターこんにやく座うたのワークショップ 参加者アンケート結果報告	64
資料	81

第1章 千葉大学教育学部学校教員養成課程乳幼児教育コース「幼児教育☆サマーセミナー」

参加者アンケート結果報告

【サマーセミナー概要】

- ・日時：2023年7月29日（土）1回目：13：00～14：30 2回目：14：30～16：00
- ・場所：千葉大学教育学部附属幼稚園
- ・対象：高校2年生、高校3年生
- ・内容：乳幼児教育コース教員の研究紹介・附属幼稚園紹介・園見学・在校生との交流



乳幼児教育コース教員の研究紹介



附属幼稚園教諭による幼稚園紹介



園見学



在校生との交流



園見学（園庭の遊具体験）

- ・アンケート回答者：高校生 60 名、在校生 32 名、附属幼稚園教諭 6 名

※ 以下の結果では「未記入」の回答は除いて分析を行った。各項目で「未記入」の数が異なり項目全体の回答数が異なることから、同じ回答人数であっても割合（%）が異なっている場合がある。また、割合は小数点第1位を四捨五入していることから回答人数が異なっても割合が同じ数値になっている場合がある

第1部 高校生アンケート

I. 回答者について

(1) 高校生の参加状況

回答者である参加した高校生（以下、高校生と記す）の参加状況を表 1-1 に示す。

表1-1 高校生の参加状況

	(名)		
	1回目	2回目	合計
高校生	35	26	61

表 1-1 から、1回目は 35 名、2回目は 26 名、合計 61 名の高校生が参加した。このうち、60 名がアンケートに回答した（回収率は 98.3%）。

(2) 高校生の性別

高校生の性別を図 1-1 に示す。

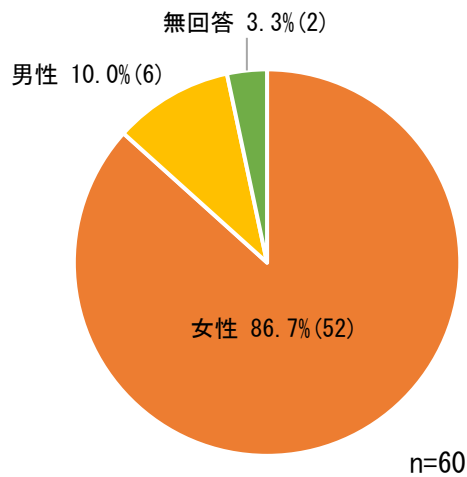


図1-1 高校生の性別

図 1-1 から、高校生は女性が 86.7% (52 名) で、男性が 10.0% (6 名)、無回答が 3.3% (2 名) であった。

(3) 高校生の学年

高校生の学年を図 1-2 に示す。

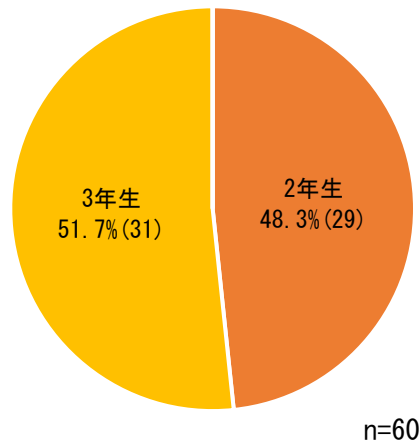


図1-2 高校生の学年

図 1-2 から、高校生の学年は 2 年生が 48.3% (29 名)、3 年生が 51.7% (31 名) であった。

(4) 高校生の幼児教育に関する就職希望状況

高校生の幼稚園教諭や保育士等の幼児教育に関する就職希望状況を図 1-3 に示す。

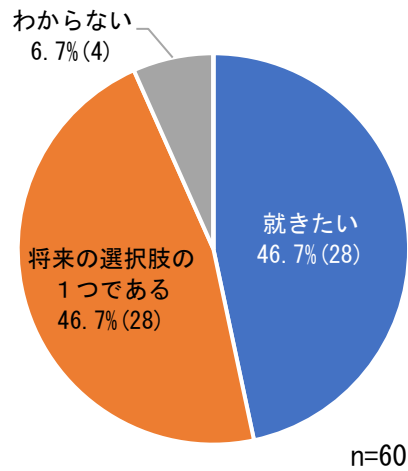


図1-3 幼児教育に関する就職希望

図 1-3 から、高校生の幼稚園教諭や保育士等の幼児教育に関する就職希望状況は「就きたい」と「将来の選択肢の 1 つである」がそれぞれ 46.7% (28 名) で、次いで「わからない」が 6.7% (4 名) であった。

(5) 高校生の幼児教育に関する職業に関心をもったきっかけ

高校生の幼児教育に関する職業に関心をもったきっかけを図 1-4 に示す。

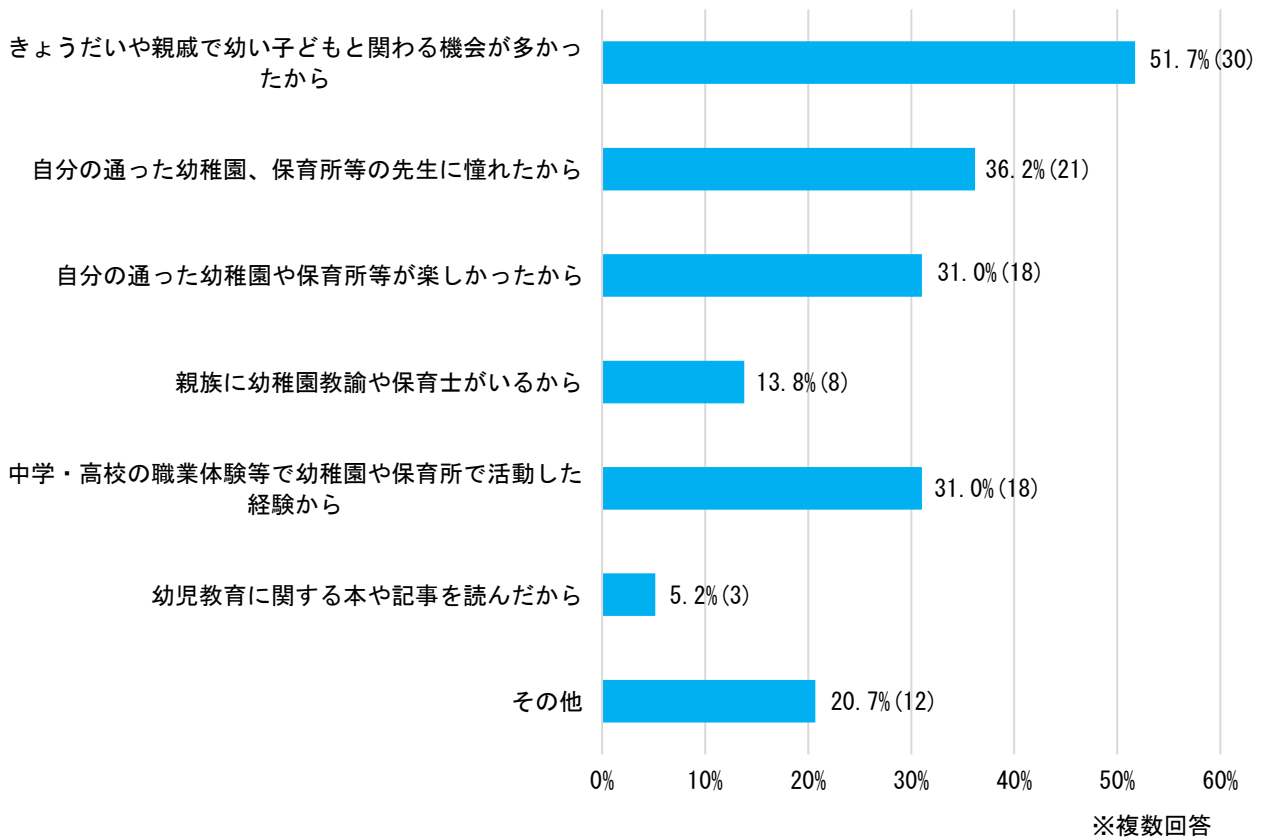


図1-4 幼児教育に関する職業に関心をもったきっかけ

図 1-3 で「就きたい」「将来の選択肢の 1 つである」を選択した高校生が幼児教育に関する職業に関心をもったきっかけを図 1-4 に示す。図 1-4 から、回答の多かった順に示すと、「きょうだいや親戚で幼い子どもと関わる機会が多かったから」51.7% (30 名)、「自分の通った幼稚園、保育所等の先生に憧れたから」36.2% (21 名)、「自分の通った幼稚園や保育所等が楽しかったから」「中学・高校の職業体験等で幼稚園や保育所で活動した経験から」それぞれ 31.0% (18 名)、「親族に幼稚園教諭や保育士がいるから」13.8% (8 名)、「幼児教育に関する本や記事を読んだから」5.2% (3 名) であった。

「その他」20.7% (12 名) の自由記述の回答では、「子どもが好きだから」(同様の回答 計 5 名)、「子どもと関わる仕事をしたいから」(同様の回答 計 2 名)、「子どもの発達に興味があったから」(1 名)、「ボーイスカウト活動で年少スカウトと触れ合い、子どもの可能性を感じたから」(1 名) のように子どもに関わる理由、「特技(ピアノ)を生かせると思ったから」(1 名)、「リトミックや子どもに関わる音楽について学びたかったから」(1 名) のように自身の得意分野に関わる理由、「保育士の資格があるとできる仕事がたくさんあるから」(1 名) のように、就職の選択肢の幅の広さに関わる理由が挙げられていた。

この結果から、幼い子どもと関わった経験や自身の幼稚園・保育所等の経験、中学高校での職業体験など、実体験が幼児教育に関する職業への関心をもつきっかけにつながっていると言える。

Ⅱ. 「幼児教育☆サマーセミナー」への参加について

(1) 「幼児教育☆サマーセミナー」をどのように知ったか

高校生の「幼児教育☆サマーセミナー」を知った方法を図 1-5 に示す。

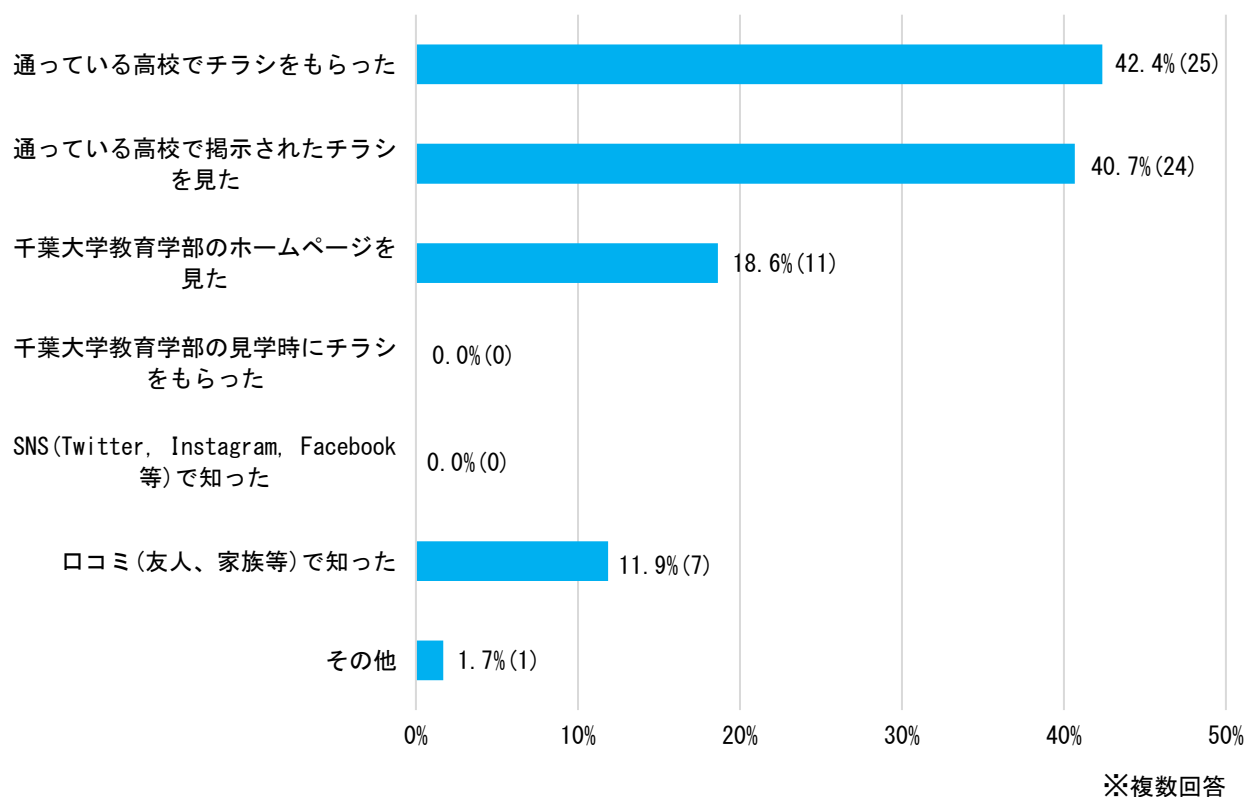


図1-5 「幼児教育☆サマーセミナー」をどのように知ったか

図 1-5 から、「幼児教育☆サマーセミナー」を知ったきっかけを多かった順に示すと、「通っている高校でチラシをもらった」42.4% (25名)、「通っている高校で掲示されたチラシを見た」40.7% (24名)、「千葉大学教育学部のホームページを見た」18.6% (11名)、「口コミ (友人、家族等) で知った」11.9% (7名)であった。「その他」1.7% (1名)の自由記述の回答では、「担任の先生に教わった (回答のまま)」という理由が挙げられていた。

この結果から、高校生への周知には主に高校へのチラシ配布が有効であると言える。

(2) 「幼児教育☆サマーセミナー」への参加した目的・理由

高校生の「幼児教育☆サマーセミナー」に参加した目的・理由を図 1-6 に示す。

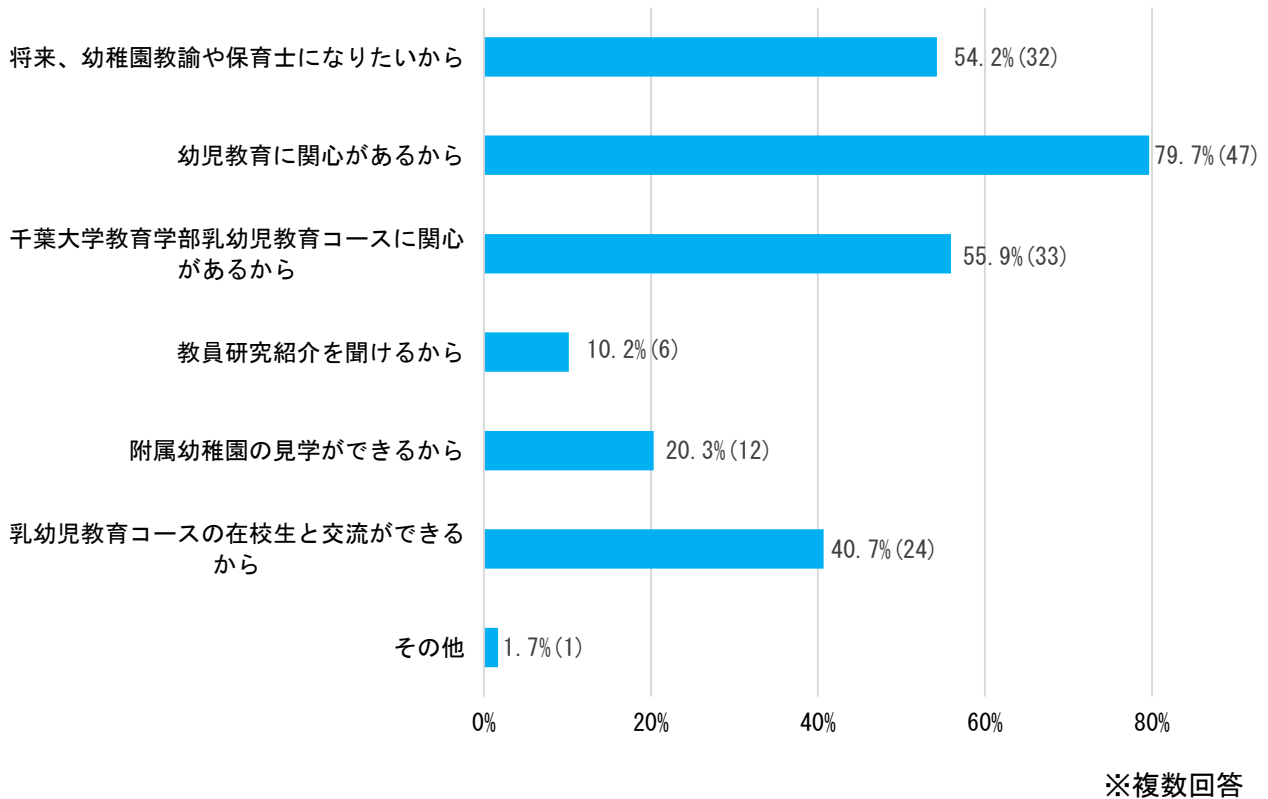


図1-6 「幼児教育☆サマーセミナー」への参加した目的・理由

図 1-6 から、「幼児教育☆サマーセミナー」への参加理由を多かつた順に示すと、「幼児教育に関心があるから」79.7% (47 名)、「千葉大学教育学部乳幼児教育コースに関心があるから」55.9% (33 名)、「将来、幼稚園教諭や保育士になりたいから」54.2% (32 名)、「乳幼児教育コースの在校生と交流ができるから」40.7% (24 名)、「附属幼稚園の見学ができるから」20.3% (12 名)、「教員研究紹介を聞けるから」10.2% (6 名)であった。「その他」1.7% (1 名)の自由記述の回答では、「友達に誘われたから」という理由が挙げられていた。

この結果から、幼児教育への関心とともに、幼児教育の「職」への関心や千葉大学乳幼児教育コースへの関心も、高校生が参加する目的になっていたと言える。

Ⅲ 「幼児教育☆サマーセミナー」に参加した感想について

(1) 「幼児教育☆サマーセミナー」の内容

高校生の「幼児教育☆サマーセミナー」の内容に関する満足度を図 1-7 に示す。

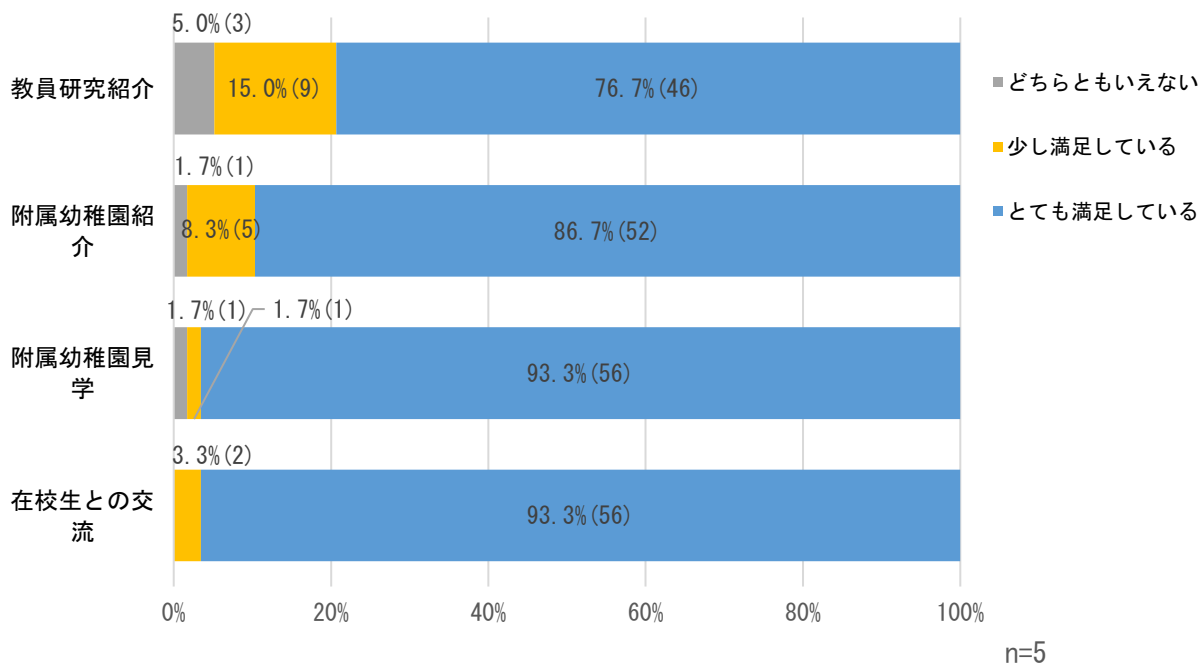


図1-7 「幼児教育☆サマーセミナー」の内容について

図 1-7 は、「幼児教育☆サマーセミナー」の内容にどのくらい満足したかを尋ねた結果である。「まったく満足していない」「あまり満足していない」が選択された項目はなかった。「とても満足している」の割合の高い順に示すと、「在校生との交流」「附属幼稚園見学」それぞれ 93.3% (56 名)、「附属幼稚園紹介」86.7% (52 名)、「教員研究紹介」76.7% (46 名)、であった。

この結果から、「幼児教育☆サマーセミナー」のいずれの内容についても、高校生のほとんどが満足していたと言える。

(2) 「幼児教育☆サマーセミナー」の感想

高校生の「幼児教育☆サマーセミナー」に参加した感想を図 1-8 に示す。

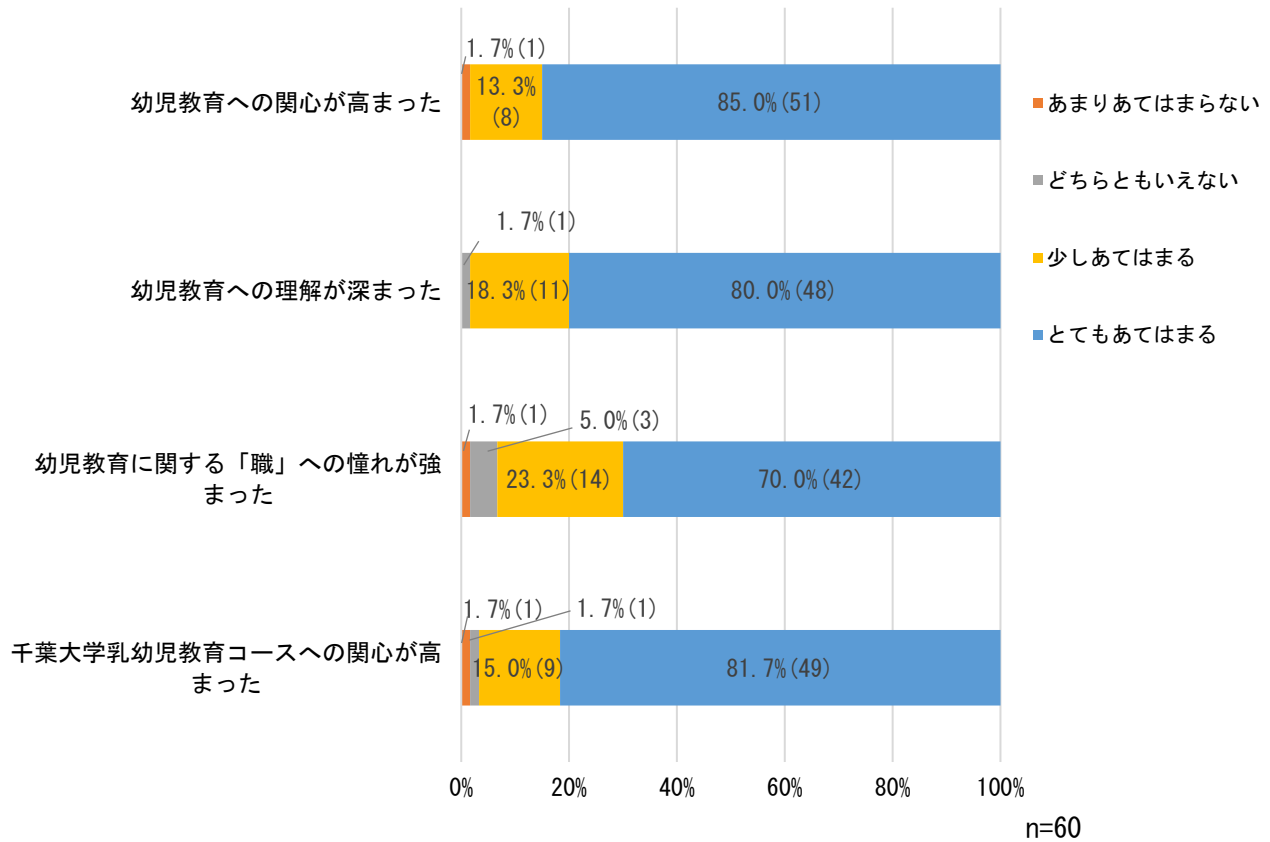


図1-8 「幼児教育☆サマーセミナー」の感想について

図 1-8 は、「幼児教育☆サマーセミナー」に参加した感想である。「とてもあてはまる」の割合の高い順に示すと、以下の通りとなった。「幼児教育への関心が高まった」85.0% (51名)、「千葉大学乳幼児教育コースへの関心が高まった」81.7% (49名)、「幼児教育への理解が深まった」80.0% (48名)、「幼児教育に関する『職』への憧れが強まった」70.0% (42名)であった。

この結果から、「幼児教育☆サマーセミナー」への参加を通して、高校生のほとんどが幼児教育への関心を高め、幼児教育に関する「職」への憧れを強めていたと言える。

Ⅲ 自由記述

(1) 「幼児教育☆サマーセミナー」に参加して、特に印象に残ったことや要望等

高校生の「幼児教育☆サマーセミナー」における特に印象に残ったことや要望等の自由記述の内容を、表 1-2-①②に示す。

表 1-2-① 「幼児教育☆サマーセミナー」の印象や要望等（高校2年生）

学年	自由記述	教員研究紹介	附属幼稚園紹介	園見学	在校生との交流	意欲	学び	要望・その他
2	実際に園を見学させていただいたのだから幼児教育への関心が深まりました。			園見学を通して幼児教育への関心が深まった				
2	こんなに雰囲気がよくて、明るい幼稚園はあんまりないなって思いました。こんな幼稚園に自分も通いたかったなと思いました。たくさん話を聞いて良かったです。			明るい幼稚園で、自分も通いたかった				
2	高校生にも難しい遊具があって、子供の身体能力に驚いた。			高校生にも難しい遊具があった 子どもの身体能力に驚いた				
2	遊びの幅を広げる工夫が印象に残りました。						遊びの幅を広げる工夫が印象的だった	
2	取れる資格が明かしくなってきた。	取得できる資格が分かった						
2	自分は保育園に通っていたので、幼稚園があまりどう動くのかわらなかったけど、自主的な動きが多くあってとても興味深かったです。						幼稚園の生活を知ることができた	
2	先生が子どもに対して遊びの提案をしたり、サポートをしないということが大切だということが印象に残りました。		幼稚園教諭の関わり					
2	在校生に話を聞いてよかった				話を聞くことができ良かった			
2	ネットでは調べきれなかったことを実際にきけてよかった。いろんな入試があると知って、もっといろいろしらべたいなと思った。					もっと調べたいと思った		インターネットでは得られない情報を聞くことができた
2	子どもの自主性や運動能力向上をはかる遊具や教室のづくりに驚きました。自然を主とした広場が魅力的でした。			子どもの力を伸ばす環境に驚いた 自然豊かな環境に魅力を感じた				
2	自分が園児だったころを思い出せたり、教育方針などにすごく興味がわきました。	教育方針		園児だった頃を思い出した				
2	幼児教育コースのこと以外にも在校生の方から、入試について聞けたり、留学についても聞けたりしたので良かったです。				幼児教育コースのこと以外の話（入試や留学）も聞くことができた			
2	参加していなければ聞くことのできなかった貴重なお話を在校生の方から聞くことができ、とてもためになった。また、話を聞いたり質問していく中で、千葉大学乳幼児教育コースに行きたいという意欲がより強くなった。				参加しなければ聞けなかったであろう貴重な話を聞くことができた	進学したい思いが強くなった		
2	自分が幼稚園に通っていた頃は先生に助けてもらうことが多かったけど、今日見学してみると、幼児が自主的に遊ぶ遊具や場所を選ぶのを見て感銘を受けました。			子ども主体の保育に感銘を受けた				
2	実際に在校生の方とお話して教育実習のことや大学の雰囲気などよく知れたと思います。優しい方ばかりでとても感謝しています。				実習や大学の雰囲気を知ることができた			
2	園内が思ったより広くて、充実していたことが印象に残りました。			環境が広く、充実していた				
2	“自由”を大切にすることが理由が知れて遊びを通して学ぶことの魅力に気づかされました。	遊びを通して学ぶことの魅力						
2	幼稚園に設置されていたアスレチックが想像していたものよりも難易度が高くて驚きました。			遊具の難易度に驚いた				
2	実際に園見学ができて、質問も少人数でできたのですごく楽しかったです。授業の様子も見たいと思いました。			園見学が楽しかった	少人数で質問できて楽しかった			授業の様子も見たい
2	遊具がとてもおもしろかったです。すごい遊具の幼稚園でした。先輩方がすごい楽しい人たちで良かったです。			遊具が面白かった	在校生と関わったのが良かった			
2	園庭の遊具1つとっても細部まで幼児のことを考えてつくり込まれていて、自分が通っていた時こんなにくさんの大人が自分たちのことを考えてくれていたんだと思うとなんか感動しました。在校生の方からお話を聞ける機会はなかなかないのでたくさんリアルなお話を聞いて楽しかったです！			子どものことを考えて作られた遊具に感動した	在校生のリアルな話を聞くことができた			
2	幼稚園見学をして、園児の自主性を大切にされてる工夫が沢山あるところが印象的でした。			工夫された子ども主体の保育が印象的だった				
2	・幼稚園と保育園の違いがわかりわかった。（在校生に教えてもらった） ・にわとりがいたこと、園内がユーモア！遊具がたくさんあっていいなと思った。			楽しい雰囲気や園庭環境が良かった			幼稚園と保育園の違いが分かった	
2	教育系の仕事に興味があるので、実際に働いている先生や、学生さんたちの話を聞いてよかったです。子ども主体の活動が多いことに驚きました。進路をどうするかずっと迷っていたので、いろんな話を聞いて、進路決定の参考になって良かったです！			子ども主体の保育に驚いた	話を聞くことができ、進路決定の参考になった			
2	遊具がスリル満点で楽しい。			スリルのある遊具が楽しかった				
2	幼児教育にも様々な内容の学問があると知ってより興味がわいた。子どもたちの気持ちを大切に育てるという考えが遊具などに工夫して出されていてすごかった。			子どもの力を伸ばす工夫が施された遊具があった			幼児教育に関わる様々な学問について知ることができた	
2	大学生と園児が関わっている動画や写真をもっと見たい。							在校生と園児が関わっている映像や写真を見たい
2	参加する時間を間違えてしまい、セミナーに参加できないと思いきや、在校生のお姉さんたちに優しく対応していただいたため、安心して受けることができた。将来の選択肢に入る職業を目指している人たちから詳しく話を聞くことができたため、参考になった。ありがとうございました。				在校生が優しく、安心した	将来の職業選択の参考になった		
2	乳幼児教育に関心を更に持てました。						乳幼児教育への関心が高まった	

表 1-2-② 「幼児教育☆サマーセミナー」の印象や要望等（高校3年生）

学年	自由記述	教員研究紹介	附属幼稚園紹介	園見学	在校生との交流	意欲	学び	要望・その他
3	学生さんの意見をたくさん聞けてとても楽しかったです。				在校生の意見を聞くことができた			
3	子ども達の自由な発想を大切にされた道具が遠らなことに感動しました。			自由な発想を大切にされた道具に感動した				
3	子どもたちの成長に合わせた道具や環境づくりがされていて、見学中も遊んでいる幼児を想像しながら回っていました。			幼児の姿を想像しながら見学した				
3	在校生との交流が印象に残りました。				在校生との交流が印象に残った			
3	広さにあっとうされました。在校生との関わりが良かった。			園庭の広さに圧倒された	在校生との交流が良かった			
3	道具に細かい工夫があり、幼児に考える力をつけるようになっていることが印象深かった。			考える力を育てる道具が印象的だった				
3	自由な幼稚園の校風が素敵でした。道具で遊ばせてもらって、自分たちがかよっていた園と比べてみて、「無限大」という言葉がピッタリだなと思いました。先輩方が質問に丁寧に答えて下さってありがとうございました。すごくためになりました！ありがとうございます！！			自由な雰囲気素敵だった	質問に丁寧に答えてもらった			
3	ふんいきが良く、とても良い時間を過ごせました。在校生の方々と交流が印象に残りました。				在校生との交流が印象に残った			雰囲気良かった
3	在学生の方にお話をたくさん聞けたのでよかったです。				たくさん話を聞くことができて良かった			
3	幼稚園見学を通しての学びがあった。ありがとうございます。			園見学を通して学びがあった				
3	幼稚園に設置されている道具がすごく工夫されていて、幼児の教育にすごく役立つ形だったことに驚きました。年齢ごとに教室の内が違っていたところも面白かったです。			幼児の発達に合った道具に驚いた年齢毎の環境の違いが面白かった				
3	附属幼稚園だからこそ育て方 設置されている道具			附属幼稚園ならではの道具・教育方針が印象的だった				
3	幼稚園の先生が道具を園児に合わせて選られていることがとても新鮮だった。在学生の方が幼稚園との距離が近い、と思ってしまう。		附属幼稚園と大学生の関係性	幼児の発達に合った道具が印象的だった				
3	在校生の皆さんが附属幼稚園の設備や仕組み、先生の工夫などについて詳しく、分かりやすく教えてください、学びがより深まりました。また千葉大学ならではの魅力もたくさんおっしゃっていて、よりこの学校・コースで学びたいという意欲が強まりました。				在校生が附属幼稚園の環境や保育者の援助についてわかりやすく教えてくれた	千葉大学ならではの魅力を感じて、進学したい思いが強くなった		
3	遊びが中心という自分が体験したことのない教育方法でとても楽しかった。		遊びを中心とした保育					
3	幼稚園の見学が楽しかったです。			園見学が楽しかった				
3	子どもの安全性だけを考えるのではなく、挑戦させることや自分にはまだできないと自覚させるような道具がたくさんあったことが印象に残りました。在学生の方々がとても優しく楽しく見学することができました。			挑戦型道具が印象に残った楽しかった	在校生が優しくした			
3	千葉大学の教育学部に入りた意欲が強くなった。千葉大学の生活を想像するのが楽しみなった。					千葉大学教育学部に入りた意欲が強くなった 千葉大学の生活を想像することが楽しみなった		
3	園見学や在校生への質問などで、千葉大学乳幼児教育コースのことや、幼稚園のこと、大学生生活などたくさん知ることができ、在校生との交流で受験についても聞けたので不安がなくなりとてもよかったです。				千葉大学乳幼児教育コース、幼稚園、大学生生活などたくさん知ることができた 在校生との交流で不安がなくなった			
3	どの先生も、学生さんもすてきな笑顔で、ほんとうに毎日楽しそうだと感じて、より入学したいと思った。					入学への意欲が高まった		
3	在校生の方々に話を聞いて、もっと入学したくなった。				在校生の話を聞くことができた	入学への意欲が高まった		
3	3歳の子のいすやトイレが小さくてびっくりしました。自由に登ることができる道具が、自分でもきついに子どもたちが工夫して登ることができるというので、小さい子の可能性に気づかされました。			子どもの力を伸ばす環境に驚いた				
3	自由がたくさんあり、想像していた幼稚園の形と違って驚いた。			想像とは異なる自由な雰囲気に驚いた				
3	幼稚園の仕事についてくわしく知れたのしかったです。						幼稚園での仕事を知ることができた	
3	在校生の方から直接印象が聞けてとてもよかったです。				在校生の話を聞くことができた			
3	教員研究紹介の短い説明でしたが、とても興味を持ちました。在校生との交流では優しく質問にこたえてくださり嬉しかったです。ありがとうございます。	興味をもった			在校生が優しく質問に答えてくれた			
3	幼稚園の指導目標がそれぞれの園で違うことを知り、さらに千葉大学附属幼稚園の目標がすごくいいなと思いました。在学生の方々とたくさんお話しできてよかったです。		幼稚園の指導目標		在校生の話を聞くことができた			
3	在校生の方々とお話を聞くことができて、幼児教育について関心が高まりました。また、千葉大学にとっても興味を持ちました。また幼稚園の外の道具が印象に残りました。			道具が印象に残った	在校生の話を通して、幼児教育に関心が高まった	千葉大学に興味をもった		

表 1-2-①②は、「幼児教育☆サマーセミナー」に参加して、特に印象に残ったことや要望等に関する自由記述の内容をまとめたものである。回答者の感想は「教員研究紹介」「附属幼稚園紹介」「園見学」「在校生との交流」「意欲」「学び」「要望・その他」に分けて整理した。

表 1-2-①の高校 2 年生の印象等について、「教員研究紹介」では、「取得できる資格がわかった」(1 名) という内容があり、教員からの説明により取得可能な資格・免許への理解が深まっていた。

「附属幼稚園紹介」では、幼稚園教諭としての専門性や幼稚園教育の魅力が挙げられていた。

「園見学」では、「子どもの力を伸ばす工夫が施された遊具があった」(同様の回答 計 2 名) など、子どもの運動能力の伸長や主体性等を考慮した園庭遊具等の環境や保育の在り方に楽しさや驚きを感じていた。

「在校生との交流」では、「参加しなければ聞くことができなかつたであろう貴重な話を聞くことができた」(1 名) など、在校生から直接入学後の具体的な話を聞いたり、HP 等では分からない大学生生活の雰囲気を感じたりしており、在校生との交流は高校生には魅力であることがうかがえる。

「意欲」では、幼児教育に関わる職業について理解が深まったり、進学への思いが強まったりしたことがうかがえる。

「学び」では、保育者の専門性や制度等の幼児教育への理解が深まる契機になったといえる。

「要望・その他」で挙げた、「授業の様子も見てみたいと思いました」(1 名) や「大学生と園児が関わっている動画や写真をもっと見たい」(1 名) からは、在校生との交流を通して、さらに大学生生活に関心が高まったことがうかがえる。

一方、表 1-2-②の高校 3 年生の印象等について、「教員研究紹介」としては、教員の研究に興味をもったとの意見が挙げられていた。

「附属幼稚園紹介」では、「在學生の方が幼稚園との距離が近い、とってすごいと思った」(1 名) など、附属幼稚園での学びを深めている在學生に憧れを抱いたり、附属幼稚園の遊びを中心とした指導目標に共感を示したりしていた。

「園見学」では、高校 2 年生同様、子どもの発達等を考慮した園庭遊具や園庭環境の意図に楽しさや驚きを感じていた。また、高校 2 年生より、自由な雰囲気を感じとったり、子どもの姿を想像したり、より具体的に理解しようとする姿が見られた。

「在校生との交流」では、大学の制度や、幼児教育、大学生生活等について在學生から直接話を聞くことができ、高校生の幼児教育に対する関心を高めたり不安を払拭する契機にもなったりしたことが分かる。

「意欲」では、「どの先生も、学生さんもすてきな笑顔で、ほんとうに毎日楽しそうだと感じて、より入学したいと思った」(同様の回答 計 6 名)「千葉大学の生活を想像するのが楽しみになった」(同様の回答 計 2 名) 等大学への魅力を感じ、入学への意欲が高まったとの意見が挙げられた。大学入試を直前に控えた高校 3 年生ということもあり、より具体的な進路に対するビジョンをもって参加していることがうかがえる。

「学び」では、幼稚園での仕事に触れる契機になったといえる。

「要望・その他」で挙げた、「ふんいきが良く、とても良い時間を過ごせました」(同様の回答 計 1) は、「幼児教育☆サマーセミナー」での雰囲気の良いさを感じていたことが読み取れる。

この結果から、園見学や在校生との交流を通して、高校生は幼児教育への関心や保育者養成校への進学意欲を高めていたと言える。

第2部 在校生アンケート

I. 回答者について

(1) 在校生の参加状況

回答者である参加した在校生(以下、在校生と記す)の参加状況を表1-3に示す。

表1-3 在校生の参加状況

	(名)		
	1回目	2回目	合計
1年生	10	10	20
4年生	12	11	23※
合計	22	21	43※

※のべ人数。4年生12名のうち11名は1・2回目両方参加

表1-3から、1回目は1年生10名、4年生12名の計22名が参加した。2回目は1年生10名、4年生11名の計23名の在校生が参加した。尚、4年生12名のうち11名は1・2回目両方に参加した。従って参加した在校生の総数は32名(1年生20名、4年生12名)である。この全員がアンケートに回答した(回収率100%)。

(2) 在校生の性別

在校生の性別を図1-9に示す。

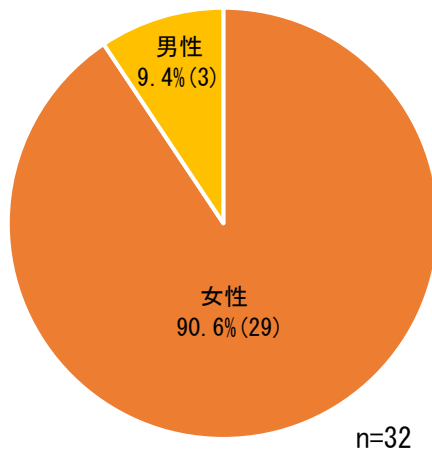


図1-9 在校生の性別

図1-9から、在校生は女性が90.6%(29名)で、男性が9.4%(3名)であった。

(3) 在校生の学年

在校生の学年を図 1-10 に示す。

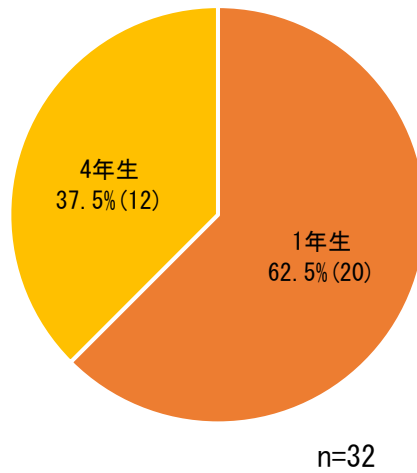


図1-10 在校生の学年

図 1-10 から、在校生の学年は1年生が 62.5% (20 名)、4年生が 37.5% (12 名)であった。

(4) 在校生の幼児教育に関する就職希望状況

在校生の幼稚園教諭や保育士等の幼児教育に関する就職希望状況を図 1-11 に示す。

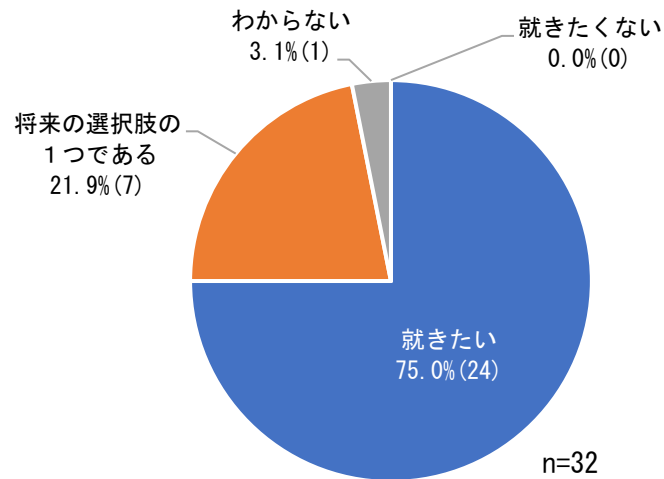


図1-11 幼児教育に関する就職希望

図 1-11 から、参加した在校生の幼稚園教諭や保育士等の幼児教育に関する就職希望状況は「就きたい」の 75.0% (24 名) が最も多く、次いで「将来の選択肢の1つである」が 21.9% (7 名)、「わからない」が 3.1% (1 名) であった。

(5) 在校生の幼児教育に関する職業に関心をもったきっかけ

図 1-12 で「就きたい」「将来の選択肢の 1 つである」を選択した在校生が幼児教育に関する職業に関心をもったきっかけを図 4 に示す。

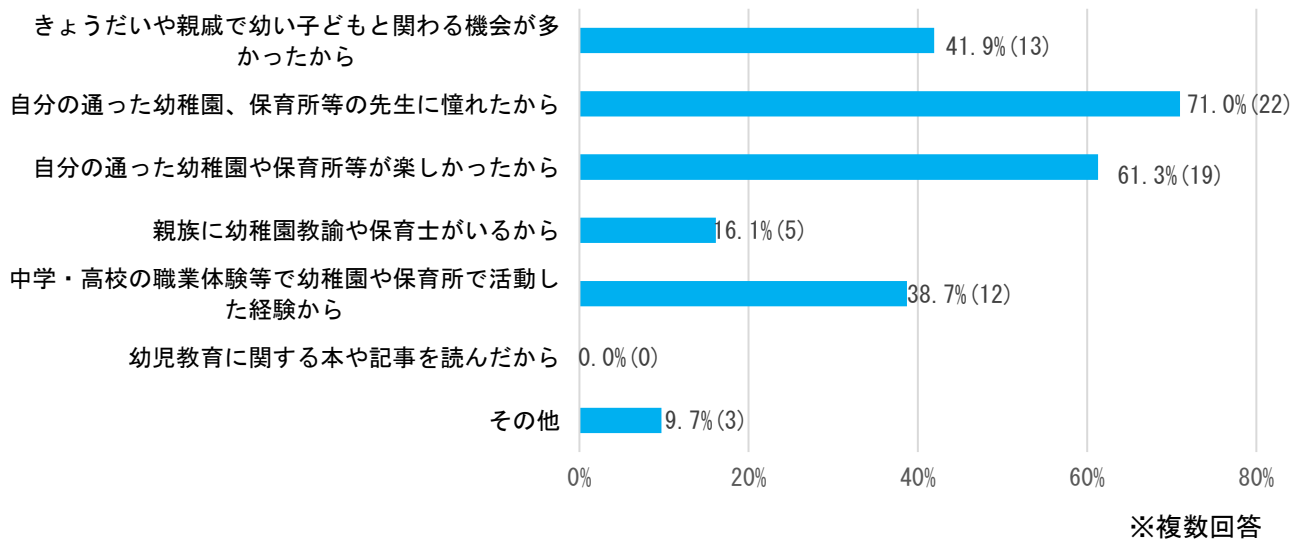


図1-12 幼児教育に関する職業に関心をもったきっかけ

図 1-12 から在校生の幼児教育に関する職業に関心をもったきっかけは、多かった順に示すと、「自分の通った幼稚園、保育所等の先生に憧れたから」71.0% (22 名)、「自分の通った幼稚園や保育所等が楽しかったから」61.3% (19 名)、「きょうだいや親戚で幼い子どもと関わる機会が多かったから」41.9% (13 名)、「中学・高校の職業体験等で幼稚園や保育所で活動した経験から」38.7% (12 名)、「親族に幼稚園教諭や保育士がいるから」16.1% (5 名)であった。「その他」9.7% (3 名)では、「子どもをかわいと思うから」「友だちに幼い子どもたちが多くて、遊ぶのが楽しかったから」「子どもたちが遊んでいる様子を見て、その成長をより見たいと思ったから」という理由が挙げられていた。

この結果から、自身の幼稚園・保育所等での経験や幼い子どもと関わった経験、学高校での職業体験など、実体験が幼児教育に関する職業への関心をもつきっかけにつながっていると言える。

I 「幼児教育☆サマーセミナー」に参加した感想について

(1) 「幼児教育☆サマーセミナー」の内容

在校生の「幼児教育☆サマーセミナー」の内容に関する満足度を図 1-13 に示す。

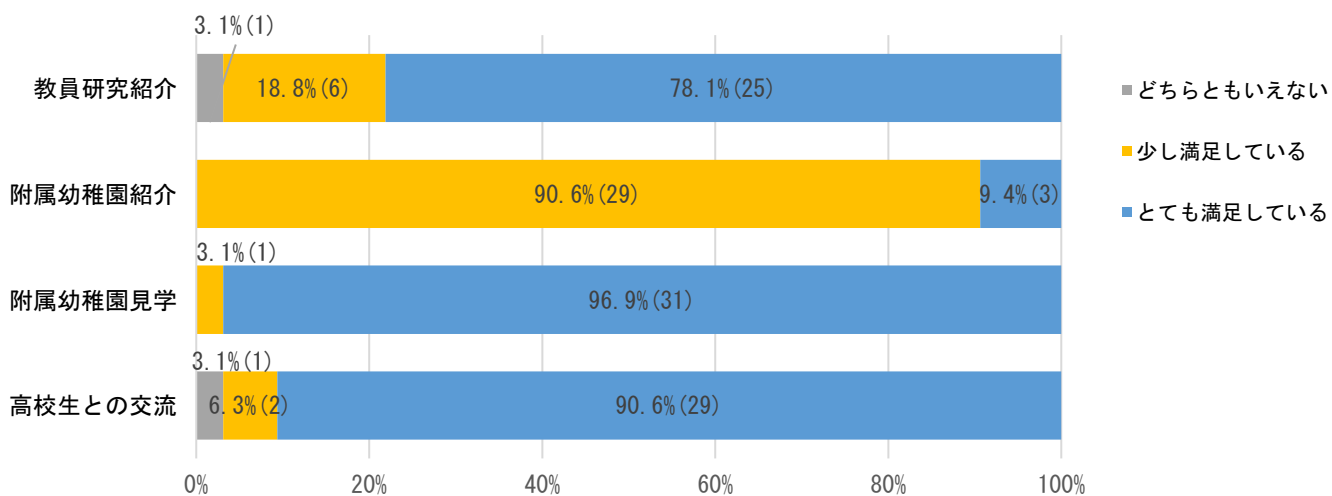


図1-13 「幼児教育☆サマーセミナー」の内容について ⁿ⁼³

図 1-13 は、「幼児教育☆サマーセミナー」の内容にどのくらい満足したかを尋ねた結果である。「まったく満足していない」「あまり満足していない」が選択された項目はなかった。「とても満足している」の割合の高い順に示すと、「附属幼稚園見学」96.9% (31名)、「高校生との交流」90.6% (29名)、「教員研究紹介」78.1% (25名)、「附属幼稚園紹介」9.4% (3名)であった。

この結果から、「幼児教育☆サマーセミナー」のいずれの内容についても、在校生のほとんどが満足していると感じていたことが分かる。

(2) 「幼児教育☆サマーセミナー」の感想

在校生の「幼児教育☆サマーセミナー」に参加した感想について、図 1-14 に示す。

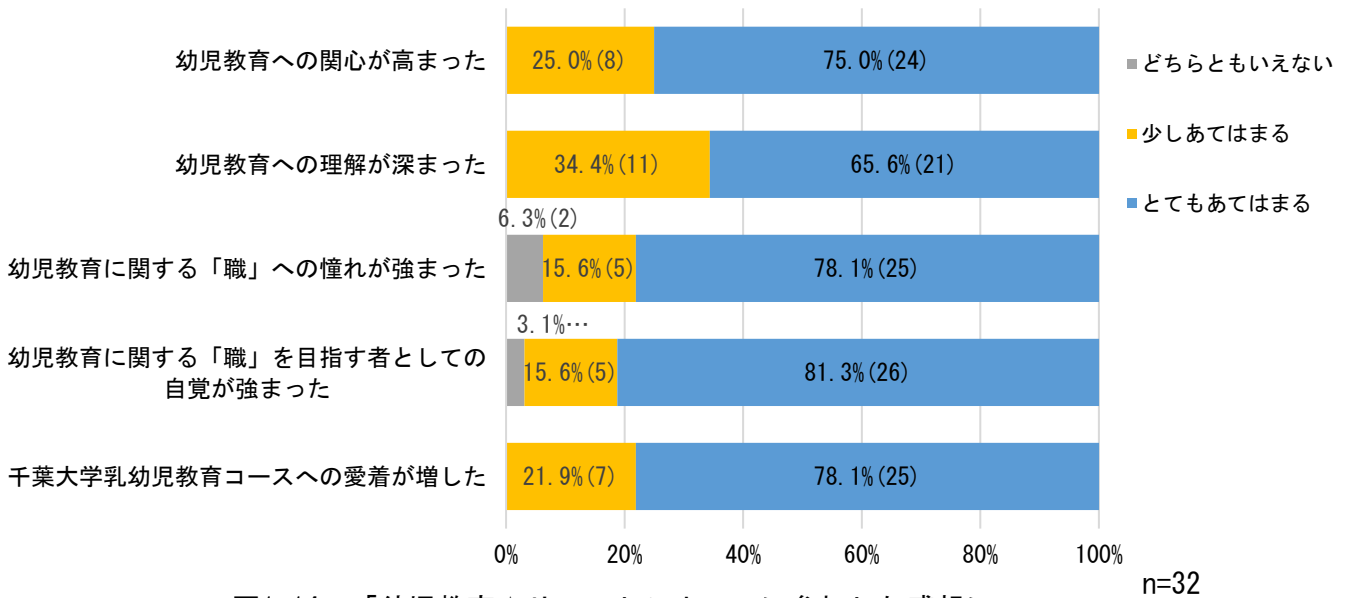


図1-14 「幼児教育☆サマーセミナー」に参加した感想について

図 1-14 「幼児教育☆サマーセミナー」に参加した感想である。「とてもあてはまる」の割合の高い順に示すと、以下の通りとなった。「幼児教育に関する『職』を目指す者としての自覚が強まった」81.3% (26名)、「幼児教育に関する『職』への憧れが強まった」「千葉大学乳幼児教育コースへの愛着が増した」それぞれ78.1% (25名)、「幼児教育への関心が高まった」75.0% (24名)、「幼児教育への理解が深まった」65.6% (21名)であった。

この結果から、在校生のほとんどは、「幼児教育☆サマーセミナー」への参加を通して幼児教育への関心を高め、幼児教育に関する「職」を目指すものとしての自覚を強めていたと言える。

Ⅲ 自由記述

参加した在校生の「幼児教育☆サマーセミナー」における特に印象に残ったことや要望等を、表 1-4 に示す。

表 1-4 「幼児教育☆サマーセミナー」の印象や要望等

学年	自由記述	附属幼稚園紹介	園見学	高校生との交流	意欲	学び	要望・その他
1	園見学をして、実際に遊具で遊んでみると、この大きなを幼児が登るのかと思 い、子どもの力はすごいと感じた。高校生の方々と話して、自分がこれまで学ん できたことを言葉にして伝えることで振り返ることができよかったです。また、 高校生の時に抱いていた乳幼児教育コースへの憧れを思い出すことができました。		遊具で遊んでみ て、子どもの力は すごいと感じた	学んできたことを 伝えることで振り 返りができた 乳幼児教育コース への憧れを思い出 した			
1	観察実習で見ることもなかった場所を見て、4年生の説明・先生の説明を聞くこと ができたので、新しいことを知れた。外にある遊び場は、子どもが考えて自由に遊 べるようになっていたので、とても印象に残った。	附属幼稚園の環境に ついて、先輩や先生 の説明を聞くことが できた					
1	アスレチックを実際にやってみて、その難しさに驚いた。実習計画を立てるときに は、もっとあらかじめ理解を深める必要があると思った。		アスレチックの難 しさに驚いた		実習前の準備		
1	附属幼稚園についてより詳しく知る機会になってよかったです。	附属幼稚園を知るこ とができる					
1	まだ観察実習でしか附属幼稚園にきていなかったので、知らなかったことを私た ちも知る事が出来るとても良い機会になりました。また、高校生もとても明るく、 話している時に笑ったり、相づちを打ってくれたりしたのでとても話しやすかつ たです。	附属幼稚園を知るこ とができる		高校生が話しやす い雰囲気を作っ てくれた			
1	4年生の先輩のお話を聞いて、私自身も良い経験になりました。					4年生の話聞くこ とができる	
1	4年生の方の話聞いたこと。					4年生の話聞くこ とができる	
1	幼稚園内の遊具やつくりについて、まだ知らなかったことがたくさんあったため、 新しい発見をできてとても良い機会だった。	附属幼稚園の環境に ついて学んだ					
1	園にある遊具や、保育室のつくりなど、先輩方の説明を聞き、子どもたちが想像以 上に自由に好きなことをしていることを知り、印象に残っている。	附属幼稚園の環境や 園での子どもたちの 生活について学んだ					
1	私達も普段4年生の先輩方に話を聞く機会がないので、今回サマーセミナーに参加 して、4年生の先輩方から実際に話を聞いたり、高校生の視点からの質問に対する 解答を聞くことができたので、とても参考になった。					4年生の話聞くこ とができる 高校生の質問に対 する回答から学ん だ	
4	高校生からの質問があまりでなかったので、もっと雰囲気を作ってあげられたらよ かった。私自身、附属幼稚園見学に行けたら（高校時代）よかったのと思った。 具体的に感じられて良いと思った。	附属幼稚園の環境 を実際に見ること ができるのが良い		高校生からあまり 質問が出なかった 雰囲気作りができ ればよかった			高校生の時に附属 幼稚園を見学した かった
4	高校生と話すごうできて、受験当時のことを思い出したり、改めて自分が幼児教 育を目指したきっかけを思い出したりすることができた。			高校生と話して受 験当時のことや幼 児教育を目指した きっかけを思い出 した			
4	附属幼稚園の環境の面白さを改めて感じました。	附属幼稚園の環境 の面白さを改めて 感じた					
4	もう少し高校生から話をききたかった。						もう少し高校生の 話を聞きたかった
4	高校生との会話を通して、自分自身の幼児教育に対する思いを明確にすることが でき、たいへんよい機会だった。			高校生との話すこ とで自分の思いを 明確にすることが できた			

表 1-4 は、「幼児教育☆サマーセミナー」に参加して、特に印象に残ったことや要望等に関する自由記述の内容をまとめたものである。1 年生の印象等は「附属幼稚園紹介」「園見学」「高校生との交流」「意欲」「学び」に該当する内容があった。また、4 年生の印象等は「園見学」「高校生との交流」「要望・その他」に該当する内容があった。

表 1-4 から、1 年生の印象等について、「附属幼稚園紹介」では、「附属幼稚園の環境や園での子どもたちの生活について学んだ」（同様の回答 計 5 名）とあり、まだ観察実習でしか附属幼稚園に行ったことのない 1 年生にとっては附属幼稚園について学ぶ良い機会になっていたことが分かる。

また、「園見学」では、実際に遊具を体験してみて、遊具の難しさから子どもの力を感じ、実習までに理解を深めたいという「意欲」にもつながっていた。

また、「学び」では、「4 年生の話聞くことができた 高校生に対する質問の回答から学んだ」（1 名）とあり、1 年生にとっては 4 年生の話聞くことができる貴重な「学び」の機会にもなっていた。

「高校生との交流」では交流が、自身が学んだことを振り返ったり、乳幼児教育コースへの憧れを思い出したりするきっかけとなったことがうかがえる。

4 年生の印象等について、「園見学」では高校生が附属幼稚園の環境を実際に見ることができることが有意義だと感じていることが分かる。また、自身が高校生のときに見学してみたかったという感想も抱いていた。「高校生との交流」では、「高校生と話して受験当時のことや幼児教育を目指したきっかけを思い出した」（1 名）など、1 年生と同様に高校生と話すことで幼児教育を志したときのことを思い返したりしていた。一方で、高校生からあまり質問が出なかったことを課題に感じたことも読み取れる。

この結果から、「幼児教育☆サマーセミナー」での園見学や高校生との交流を通して、在校生は附属幼稚園の園環境を改めて学ぶとともに、幼児教育の「職」への志を改めて意識していたと言える。また、1 年生にとっては先輩である 4 生の話が学びに繋がっていたと言える。

第3部 附属幼稚園教諭アンケート

I 回答者について

回答者である参加した附属幼稚園教諭（以下、附属幼稚園教諭と記す）の参加状況を表1-5に示す。

表1-5 附属幼稚園教諭の参加状況

	(名)	
	1回目	2回目
附属幼稚園教諭	7	6

表1-5から、1回目は7名、2回目は6名の附属幼稚園教諭が参加した。このうち6名は1・2回目両方に参加した。したがって、参加した附属幼稚園教諭の総数は6名である。7名のうち6名がアンケートに回答した（回収率85.7%）。

II 自由記述

(1) 「幼児教育☆サマーセミナー」を附属幼稚園で開催したことについての意見等

高校生等を対象にした「幼児教育☆サマーセミナー」を附属幼稚園で開催したことについて、附属幼稚園教諭の意見等を、表1-6に示す。

表1-6 「幼児教育☆サマーセミナー」を附属幼稚園で開催したことについての意見等

自由記述	高校生にとっての良さ	大学にとっての良さ	その他
幼稚園で行い、イメージをもってもらえたこと、緊張するであろうこのような会であっても和むのでは、と思いました。大学の教育学部を目指す高校生にとって大学に幼稚園があるというのは興味をもっていただけなのは、と思います。一方で、大学に入学するとまず大学の授業を受けることが主になるので、大学生活などについての話はどこかで聞けるのか？とも思いました。	幼稚園に対するイメージ形成 和やかな雰囲気の中での参加	大学に対する興味	大学生生活等の話を聞く機会の有無
他の大学との違いをアピールするうえで、附属幼稚園をつかっていただけることはありがたいと思います。学生獲得のため、今後必要だと感じました。		他の大学との違いをアピール	
高校生にとって、幼児教育の場に実際に足を踏み入れて話を聞ける機会というのはそうそうないので、良い経験となったのではないかと思います。	幼稚園に入る機会		
高校生が幼児教育施設に関わることは少ないと思うので、経験として良かったのではないかと思います。	幼稚園に入る機会		
幼稚園教員・保育士等の幼児教育に携わる進路を志す高校生にとって、進学だけでなく就職までを見通したり現場の雰囲気を味わったりすることができたという点で、とても意義があったのではないかと思います。	進学だけでなく就職までをイメージ 幼稚園の雰囲気を経験		
進路選択がその後の職業に結びつきやすい教育学部においては、幼稚園などの附属校園を実際見学できることは、そこで働く自分をイメージしやすくなるという点においてよいことであると感じます。	働く自分像をイメージ		

表1-6は、「幼児教育☆サマーセミナー」を附属幼稚園で開催したことについて、附属幼稚園教諭の意見等をまとめたものである。附属幼稚園教諭の意見等は「高校生にとっての良さ」「大学にとっての良さ」「その他」に該当する内容があった。

表1-6の「高校生にとっての良さ」では、「高校生にとって、幼児教育の場に実際に足を踏み入れて話を聞ける機会というのはそうそうないので、良い経験となったのではないかと思います」（同様の回答計2）という意見があり、実際に幼児教育の場に入る貴重な機会になったと捉えていることがうか

がえる。また、大学入学後だけではなく卒業後の自分の姿をイメージする機会にもなったと考えられる。

「大学にとっての良さ」では、大学の附属幼稚園での学びの機会があることを高校生にアピールできたという意見も見られた。

「その他」では、「大学に入学するとまず大学の授業を受けることが主になるので、大学生活などについての話はどこかで聞けるのか?とも思いました」という意見から、授業や大学生活についての伝達の機会を設ける場について触れている教諭もいた。

この結果から、附属幼稚園教諭は「幼児教育☆サマーセミナー」を附属幼稚園で開催することの高校生にとっての意義を感じていたと言える。

(2) 「幼児教育☆サマーセミナー」において幼稚園紹介、教員からの一言、園見学等で意識したこと等

高校生等を対象にした「幼児教育☆サマーセミナー」において、附属幼稚園教諭が幼稚園紹介、教員からの一言、園見学等で意識したこと等を、表 1-7 に示す。

表 1-7 「幼児教育☆サマーセミナー」において意識したこと等

自由記述	幼児教育	附属幼稚園	高校生	その他
高校生なので、自分の通った幼児教育施設を思い浮かべてもらえるように、意識しました。また、幼児期が大切であること、そこに関わる仕事は素晴らしい仕事であることなどを伝えられればと思いました。	幼稚園教諭としての仕事の魅力 幼児教育の重要性		自分の幼少期の 想起	
高校生はまず目の前に迫る受験、進路選択を目的に来ていると考え、受験勉強のモチベーションになるよう楽しんでもらうこと、そして他にはない魅力的な環境がある(教員がいる)と思ってもらえるよう心がけました。幼稚園が会場でしたが、学生同士の交流がメインになるよう、誘導と説明をするスタッフ的な役割を意識しました。		魅力的な教員の いる環境	受験勉強に対する モチベーション維持	高校生と大学生 同士の交流がメ インになるよう に配慮
まずは幼稚園、幼児教育、保育者ということに対してよい印象がもてるように、いきいきと働いている様子が伝わるとよいかと思い、自分の経験や思いを話しました。	幼稚園、幼児教育、 保育者についての魅力を経 験や思いを通して伝達			
幼稚園教諭という仕事の魅力が伝わればよいなと考えていました。	幼稚園教諭としての仕事の魅力			
昨今は「教員」や「保育」に対してネガティブなイメージにつながる報道(労働環境・保護者対応・待遇の低さなど)が多く、恐らく参加者のうちにも(もしかしたら在校生にも?)そのようなイメージをもちつつ進路選択で揺れている人がいるであろうことを念頭に、事実は否定しないながらも少しでもポジティブな面が伝わるように努めました。	幼稚園教諭の肯定的側面のア ピール		進路選択で揺れ ている人がいる ことを想定 事実を容認	
この仕事が大好きなので、仲間が増えてくれたらうれしいなと思ってお話ししました。園見学では、夢の城などの遊具に実際に触れてみる、やってみるという経験をしてもらえたらと思って声を掛けました(実際にやっているところを見せたりもしました)。いろいろなことに気軽に挑戦できる雰囲気になることを心がけました。	幼稚園教諭としての仕事の魅力	実際に遊具で遊 ぶ経験	色々なことに気 軽に挑戦できる 雰囲気作り	

表 1-7 は、「幼児教育☆サマーセミナー」において、附属幼稚園教諭が幼稚園紹介、教員からの一言、園見学等で意識したこと等をまとめたものである。附属幼稚園教諭の意識したこと等は「幼児教育」「附属幼稚園」「高校生」「その他」に該当する内容があった。

表 1-7 の「幼児教育」では、「幼稚園教諭という仕事の魅力が伝わればよいなと考えていました」(同様の回答 計 3) とあり、幼稚園教諭の仕事の面白さを高校生に直接伝える機会になったと言える。

「附属幼稚園」では、園庭遊具等の環境の良さを伝えられるよう意識し、「高校生」では、幼稚園を身近な場として感じ、入学への意欲をもてるよう意識していたと言える。

「その他」では、「幼稚園が会場でしたが、学生同士の交流がメインになるよう、誘導と説明をするスタッフ的な役割を意識しました」という意見があり、高校生や在校生が中心となって場を盛り上げられるようにしていた姿がうかがえる。

この結果から、附属幼稚園教諭は、高校生に幼児教育の「職」の魅力を伝えられるように、話しの内容等を工夫していたと言える。

(3) 「幼児教育☆サマーセミナー」における参加者や在校生の様子から感じたこと等

高校生等を対象にした「幼児教育☆サマーセミナー」において、附属幼稚園教諭が園見学時等の参加者や在校生の様子から感じたこと等を、表 1-8 に示す。

表 1-8 「幼児教育☆サマーセミナー」において参加者や在校生の様子から感じたこと等

自由記述	高校生	在校生		
		1年生	4年生	共通
遊具に挑戦したりなど、このような体験型のようなオープンキャンパスはあまりないので、それが千葉大を目指すうえできっかけになればよいな、と感じました。また、在校生が受付をしたり、一緒に話す機会をつくったことでより大学生になるイメージがもてたことと思います。在校生にとっても、実習で学んだことなどを相手に伝えるということは、仕事を語ることになり、あらためて整理されてよい経験になったのではないのでしょうか。	千葉大を目指すきっかけになる体験型オープンキャンパス 在校生との交流で抱く大学生になるイメージ		実習で学んだことを整理して伝える良い経験	
高校生も遊具を楽しんでいたのが印象的でした。この日の体験を家族や学校の先生、友達などに話すと思うので、園の特性や保育を行う上で大切にしたい考え方を広く伝える機会にもなってよかったと思います。4年生は就職試験もあるので大変かと思いますが、セミナーのお手伝いを通して1年生が先輩と交流する機会になっていた点が良かったです。高校生と交流したいという意欲ある在校生が各クラスにいと、交流の時間もより深まりそうだと思います。	遊具を楽しむ姿			1年生と4年生が交流する機会 高校生との交流に積極的な在校生を各クラスに配属
高校生という年齢、また初めての場ということもあり緊張している姿がありました。なかにはとてもうれしそうに環境を見ている子もいて、よかったのではないかと思います。また、大学生も、年齢の近い先輩として語ることは、自分自身を振りかえるきっかけにもなるかと思っておりますので、良い経験となっているのではないかと思います。	緊張している姿 附属幼稚園の環境に対する興味			先輩として語る ことが自身を振り返る機会
高校生は、物の小ささや遊具の物珍しさなど、様々なものに興味をもっていたように感じました。学生さんたちは少し緊張しているようでした。が、4年生は遊具や掲示物(自分たちが実習中に作ったもの)についての話や実習中の自分の経験など上手に話していて、さすが4年生！でした。1年生は、高校生と一緒に4年生の話聞いて自分たちも学んでいるようでした。	附属幼稚園の環境に対する興味	高校生と一緒に幼稚園教諭や4年生の話聞いて学ぶ	附属幼稚園の環境や実習中の経験を伝達	
参加者には、園庭遊具に取り組むなど積極的な人が多い印象を受けました。在校生は、1年生も園見学時には参加者と同様立場で教員や4年生の話聞いていて、ある意味で授業の一つようになっていたなあと感じました。実習等の前にこれだけ丁寧に園環境の説明を聞けるのは良いと思いました。	遊具を楽しむ姿	高校生と一緒に幼稚園教諭や4年生の話聞いて学ぶ		
とても緊張していたことと、「やってみる」ということが実際には難しいのだなということも感じました。自分がどんな保育者になりたいのかを4年間かけて考えたとき、きっと動き方も変わるのだらうなと楽しみに思いました。	とても緊張している姿 実際に行動することが難しい様子 なりたい保育者像を考えることで変化する動き方			

表 1-8 は、「幼児教育☆サマーセミナー」において、附属幼稚園教諭が参加者や在校生の様子から感じたこと等をまとめたものである。附属幼稚園教諭が感じたこと等は「高校生」「在校生(1年生)」

「在校生（4年生）」「在校生（共通）」に該当する内容があった。

表4の「高校生」では、「高校生も遊具を楽しんでいたのが印象的でした」（同様の回答 計2）や「高校生は、物の小ささや遊具の物珍しさなど、様々なものに興味をもっていたように感じました」（同様の回答 計2）という意見等があり、高校生が普段触れることのない幼稚園の遊具等の環境に魅力を感じている様子を回答していた。

「在校生（1年生）」では、「在校生は、1年生も園見学時には参加者とほぼ同じ立場で教員や4年生の話を聞いていて、ある意味で授業の一つのようになっていたなあと感じました」（同様の回答 計2）という意見があり、在校生（1年生）は高校生と一緒に幼稚園教諭や4年生の話を聞いて学んでいると感じていた。

「在校生（4年生）」では、附属幼稚園の環境や実習で学んだことを整理して高校生や在校生（1年生）に伝える機会になっていたようである。

「在校生（共通）」では、1年生と4年生が交流したり、これまで学んできたことを先輩として1年生や高校生に伝えたりする貴重な機会となっていた。また、各クラスに高校生との交流に意欲的な在校生を配属すると良いとの意見が見られた。

この結果から、附属幼稚園教諭は、「幼児教育☆サマーセミナー」を楽しむ高校生の姿や、高校生と在校生が一体となって参加していたことを感じていたと言える。

(4)「幼児教育☆サマーセミナー」の運営等において、気づいたことや今後に向けての意見等

高校生等を対象にした「幼児教育☆サマーセミナー」の運営等において、気づいたことや今後に向けての意見等を、表 1-9 に示す。

表 1-9 「幼児教育☆サマーセミナー」の運営において気づいたことや今後に向けての意見等

自由記述	準備・当日の運営	今後に向けての提案	
		開催	セミナー内容
人数を2回に分けて行い、少人数でよかったとも言えますが、スタッフの動きからすると1回にできればもう少し負担が減るかもしれないと思いました。 今年も幼稚園の教員全員が快く参加を了承してくれて良かったです。この時期いろいろな研修があるので今後そうかどうかはわかりません。土曜日ではない方がよいという意見もありました。 先生方、企画からご準備、とても行き届いていて素晴らしいと思いました。ほんとうにお疲れさまでした。	企画・準備が円滑	2回から1回にすることによる負担軽減 今後も全員参加とするのであれば土曜日以外の開催希望	
ここ数年で土曜日勤務が増えていて…可能でしたら土日ではなく平日開催になると助かります…。 準備や学生の動きはスムーズであまり負担を感じませんでした。ご配慮いただきありがとうございます。	スムーズ	土日以外の平日開催希望	
初めての開催ということもあり、職員がどういった立場で登壇すべきなのかや時程などが直前までつかめず不安なこともありましたが、実際に行ってみて、毎年続けていけるとよいのではないかと思います。 また、大学生がどのくらい答えていたのかわかりませんが、園職員がいる場面では、園の環境説明が主になってしまったかと思うので、もう少し、大学に入ったらどんな学びができるのかや実際に保育とはどんなことなのか、について知る機会があるとより良いのではないかと思います。	初めての開催による不安	継続的開催希望	大学の授業体験 幼児教育の伝達
お忙しい中、事前準備から運営、片付けまでお疲れさまでした。在校生が中心となって高校生に話をする形はとても良いなと思いました。(私たちは補佐的役割で、あまり出しゃばらないほうが良い) 高校生の「千葉大の乳幼児教育コースに行きたい」という気持ちや「幼児教育に携わる仕事に就きたい」という気持ちが膨らむように…という事を考えると、もう少し授業の楽しさがわかる催し(様々な授業の動画紹介や模擬授業など?)や直近の卒業生の話(仕事の楽しさや大学で学んだことがどういきているかなど)があると良いのでは、とも感じます。	在校生が中心となって話をする形式の良さ		授業の動画紹介 大学の授業体験 卒業生からの話
今回は『幼稚園』に強くフォーカスが当たっていたので、大学入学後の授業内容の説明や授業体験?のようなものが少しあるとよいのかもしないなと思いました。			授業内容の説明 大学の授業体験
とてもよく準備されていて、高校生さんたちも楽しい時間を過ごせたのではないかと思います。もっと子どもたちの姿を写真などで見せられたらよかったのかなと思いました。			附属幼稚園の子どもたちの様子を写真等で紹介
幼稚園で行い、イメージをもってもらえたこと、緊張するであろうこのような会であっても和むのでは、と思いました。大学の教育学部を目指す高校生にとって大学に幼稚園があるというのは興味をもっていただけなのでは、と思います。一方で、大学に入学するとまず大学の授業を受けることが主になるので、大学生活などについての話はどこかで聞けるのか?とも思いました。(表2の回答)			大学生活等の話を聞く機会の有無

表 1-9 は、「幼児教育☆サマーセミナー」の運営において、附属幼稚園教諭が気づいたことや今後に向けての意見等をまとめたものである。附属幼稚園教諭が気づいたことや今後に向けての意見等としては「準備・当日の運営」「今後に向けての提案(開催)」「今後に向けての提案(セミナー内容)」に該当する内容があった。

表 1-9 の「準備・当日の運営」では、初めての開催で不安もみられたが、在校生と高校生の交流のような企画・準備が丁寧になされ、セミナーが円滑に進んだことに触れている意見が見られた。

「今後に向けての提案(開催)」では、午前午後2回の開催を1回にすることで、負担の軽減につながることや、今後も継続的に開催しても良いとの意見も挙げられた。また、土日以外の平日開催を希望している附属幼稚園教諭も複数いたことから、開催日の検討が必要であることがうかがえた。

「今後に向けての提案（セミナー内容）」では、動画や模擬授業等で授業を体験できる機会を設けたり、幼児教育や大学生活等の説明をしたりすることについて提案があった。また、附属幼稚園の子どもたちの様子を写真等で紹介すると良いとの意見も見られた。

この結果から、附属幼稚園教諭は、当日の運営の円滑さを評価するとともに、今後に向けて開催曜日や時間帯、内容等に関する具体的な提案を挙げていた。

第4部 まとめ

「幼児教育☆サマーセミナー」に参加した高校生、在校生、附属幼稚園教諭のアンケート結果から、以下のことが言える。

- 高校生の「幼児教育に関する『職』への憧れが強まった」とする者、在校生の「幼児教育に関する『職』をめざす者としての自覚が強まった」とする者が大半を占めていた。
- 附属幼稚園での園見学や附属幼稚園教諭からの説明等を実施したことにより、高校生は幼児教育の具体的なイメージを持つことができた。
- 園庭の挑戦的大型遊具に登るなど、高校生、養成校学生、幼稚園教諭等が共に体を動かしながら、幼児教育の特質や面白さを肌で感じていた。
- 附属幼稚園教諭は、「幼児教育☆サマーセミナー」を附属幼稚園で実施する意義を感じ、高校生に幼児教育の「職」の魅力を伝えられるように話しの内容等を工夫していた。
- 幼稚園を会場にした「交流型オープンキャンパス」として実施した「幼児教育☆サマーセミナー」は、高校生と在校生の幼児教育への理解を深め、「職」への憧れや自覚を強めることに繋がった。

なお、課題としては、「高校生・既卒者への効果的な周知方法の検討」と「附属幼稚園の行事等を考慮した日程調整」が挙げられる。

第2章 千葉乳幼児教育研究会 幼児教育の「今」を語り合おう！—国の動向と保育現場の声— 参加者アンケート結果報告

【研究会概要】

- ・日時：2023年8月26日（土）14:00～16:00
- ・場所：千葉大学教育学部附属幼稚園
- ・対象：保育者養成校に通う学生、現職保育者（幼稚園教諭・保育士等）、幼児教育関係者等
- ・内容：

第1部 講演：幼児教育をめぐる国の動向

- ・横山真貴子先生（文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課 幼児教育調査官）

第2部 報告とディスカッション：保育現場の声

- ・鎌田悦子先生（鴨川市立長狭認定こども園 園長）
- ・高梨智子先生（浦安市立堀江認定こども園 園長）

参加者によるグループ討議



第1部 講演：幼児教育をめぐる国の動向



第2部 報告とディスカッション：保育現場の声

- ・アンケート回答者：参加者76名中62名（回収率81.5%）

※ 以下の結果では「未記入」の回答は除いて分析を行った。各項目で「未記入」の数が異なり項目全体の回答数が異なることから、同

じ回答人数であっても割合（％）が異なっている場合がある。また、割合は小数点第 1 位を四捨五入していることから回答人数が異なっても割合が同じ数値になっている場合がある。

I 回答者について

(1) 回答者の性別

研究会に参加した回答者の性別を図 2-1 に示す。

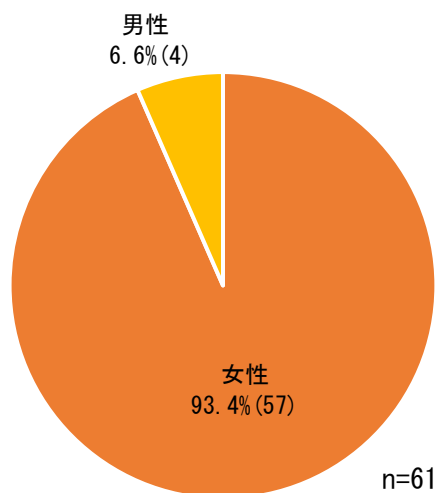


図2-1 回答者の性

図 2-1 から、回答者は女性が 93.4%（57 名）で、男性が 6.6%（4 名）であった。

(2) 回答者の立場

研究会に参加した回答者の立場を図 2-2 に示す。

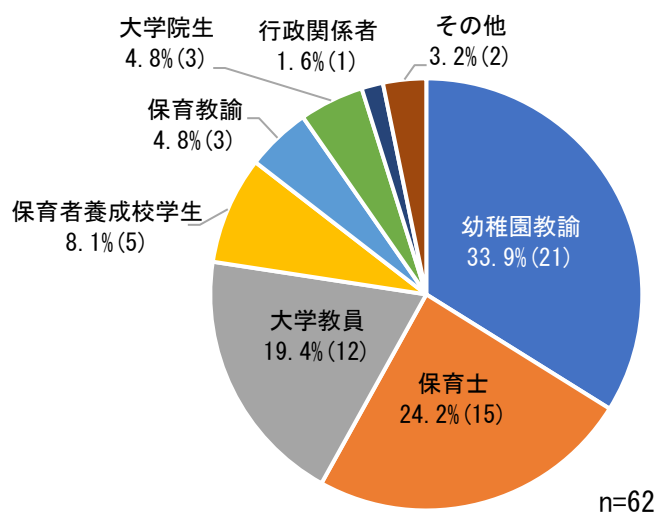


図2-2 回答者の立場

図 2-2 から、回答者は、「幼稚園教諭」が 33.9%（21 名）で最も多かった。その他は多い順に「保育士」が 24.2%（15 名）、大学教員が 19.4%（12 名）、保育者養成校学生が 8.1%（5 名）、「保育教諭」

「大学院生」がそれぞれ 4.8% (3 名)、行政関係者が 1.6% (1 名)、その他が 3.2% (2 名) であった。

(3) 保育者養成校学生の学年

回答した保育者養成校学生の学年を図 2-3 に示す。

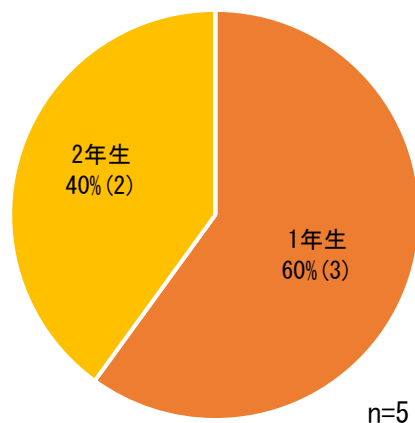


図2-3 保育者養成校学生の学年

図 2-3 から、回答した保育者養成校学生の学年は 1 年生が 60% (3 名)、2 年生が 40% (2 名) であった。

(4) 保育者の勤務先での役職

回答した保育者の勤務先での役職を図 2-4 に示す。

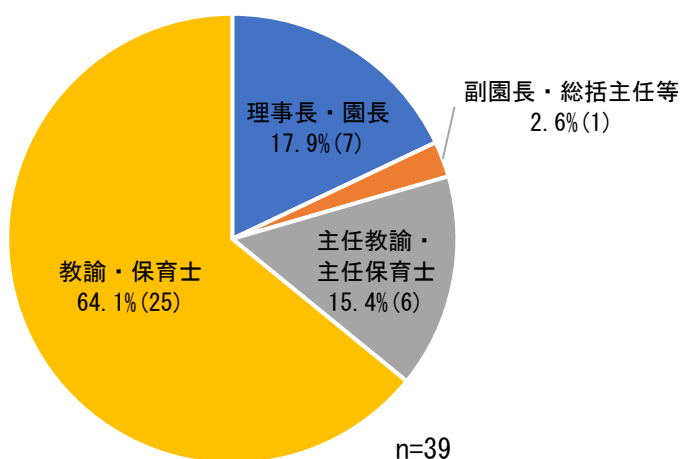


図2-4 保育者の勤務先での役職

図 2-4 から、回答した保育者の勤務先での役職は「教諭・保育士」64.1% (25 名) が最も多く、次いで「理事長・園長」が 17.9% (7 名)、「主任教諭・主任保育士」が 15.4% (6 名)、副園長・総括主任等が 2.6% (1 名) であった。管理職的立場にある保育者が約 4 割を占めていた。

(5) 保育者の経験年数

回答した保育者の経験年数を図 2-5 に示す。

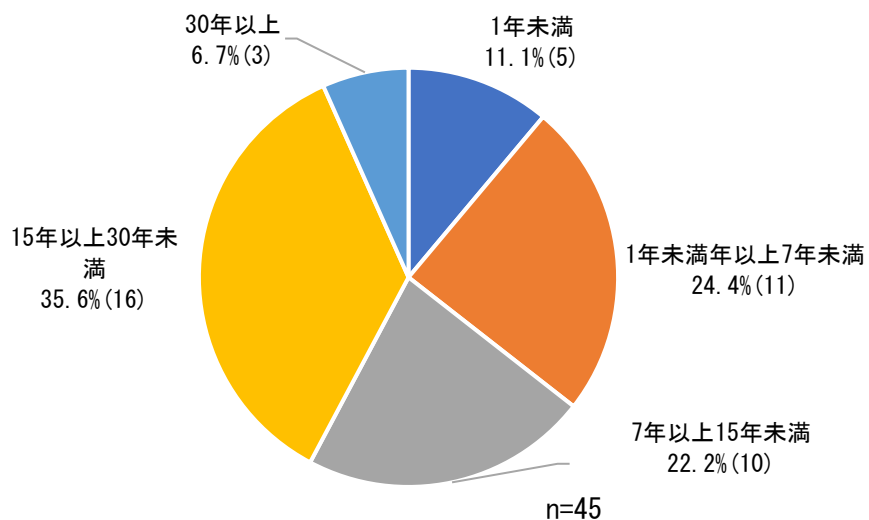


図2-5 保育者の経験年数

図 2-5 から、回答した保育者の経験年数は「15 年以上 30 年未満」が 35.6%（16 名）で最も多く、次いで「1 年以上 7 年未満」が 24.4%（11 名）、「7 年以上 15 年未満」が 22.2%（10 名）、1 年未満が 11.1%（5 名）、30 年以上が 6.7%（3 名）であった。新人から中堅、ベテランまでの多様な層の保育者が参加していた。

Ⅱ 研究会への参加について

(1) 研究会をどのように知ったか

回答者が研究会を知った方法を図 2-6 に示す。

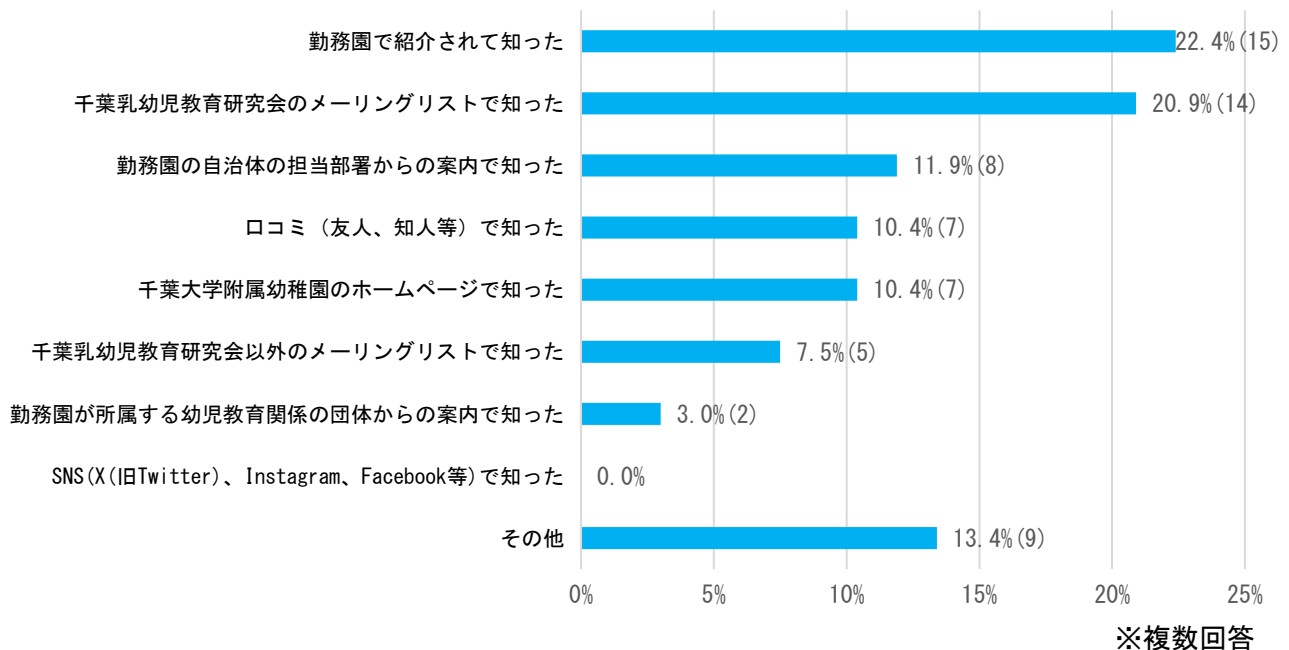


図2-6 研究会をどのように知ったか

図 2-6 から、研究会を知った方法として多かった順に示すと、「勤務園で紹介されて知った」22.4% (15名)、「千葉乳幼児教育研究会のメーリングリストで知った」20.9% (14名)、「勤務園の自治体の担当部署からの案内で知った」11.9% (8名)、「口コミ (友人、知人等) で知った」「千葉大学附属幼稚園のホームページで知った」それぞれ10.4% (7名)、「千葉乳幼児教育研究会以外のメーリングリストで知った」7.5% (5名)、「勤務園が所属する幼児教育関係の団体からの案内で知った」3.0% (2名)、「その他」13.4% (9名)であった。「その他」の回答の具体的な内容は、「大学教員からの紹介」(同様の回答 計5)、「千葉大学卒業生からの連絡」(同様の回答 計2名)、「連絡網」(同様の回答 計1名)、「講義で」(同様の回答 計1名)であった。

この結果から、千葉乳幼児教育研究会のメーリングリストのほか、千葉県内の自治体の関係部署や保育・幼児教育の関係団体を通じた広報を通じて研究会を知った回答者が多かったと言える。

(2) 研究会に参加した目的・理由

回答者が研究会に参加した目的・理由を図 2-7 に示す。

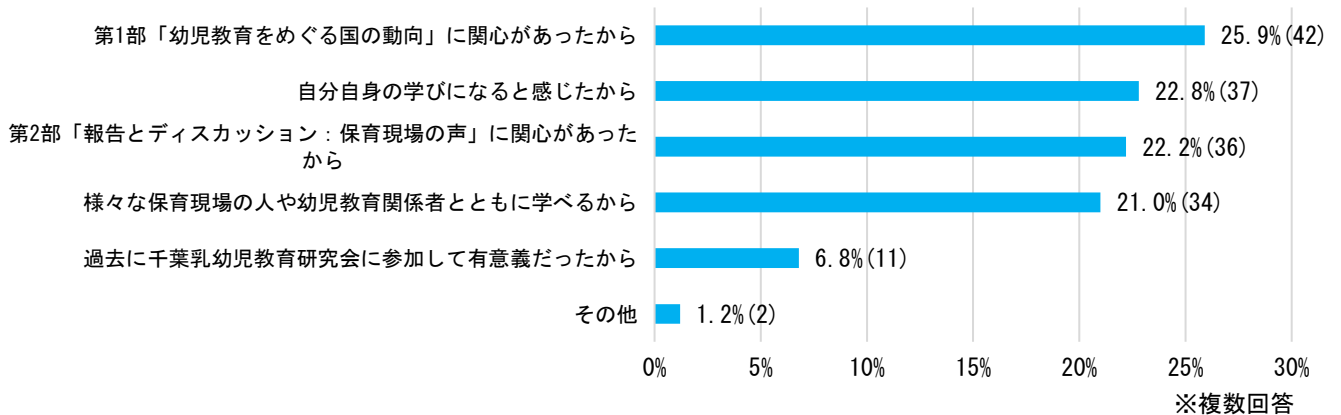


図7 研究会に参加した目的・理由

図 2-7 から、研究会に参加した目的・理由として多かった順に示すと、「第1部『幼児教育をめぐる国の動向』に関心があったから」25.9% (42名)、「自分自身の学びになると感じたから」22.8% (37名)、「第2部『報告とディスカッション：保育現場の声』に関心があったから」22.2% (36名)、「様々な保育現場の人や幼児教育関係者ととともに学べるから」21.0% (34名)、「過去に千葉乳幼児教育研究会に参加して有意義だったから」6.8% (11名)、「その他」1.2% (2名)であった。「その他」では「友人に誘われ、興味を持ったから」という理由が挙げられていた。

この結果から、第1部の「幼児教育をめぐる国の動向」に関する関心の高さがうかがわれるとともに、それと並んで、第2部の内容（「保育現場の声」）や方法（多様な立場や層の参加者によるディスカッション）も参加の目的・理由になっていた。

Ⅲ 研究会に参加した感想について

(1) 研究会の内容

回答者の研究会の内容に関する感想の結果について、図 2-8 に示す。

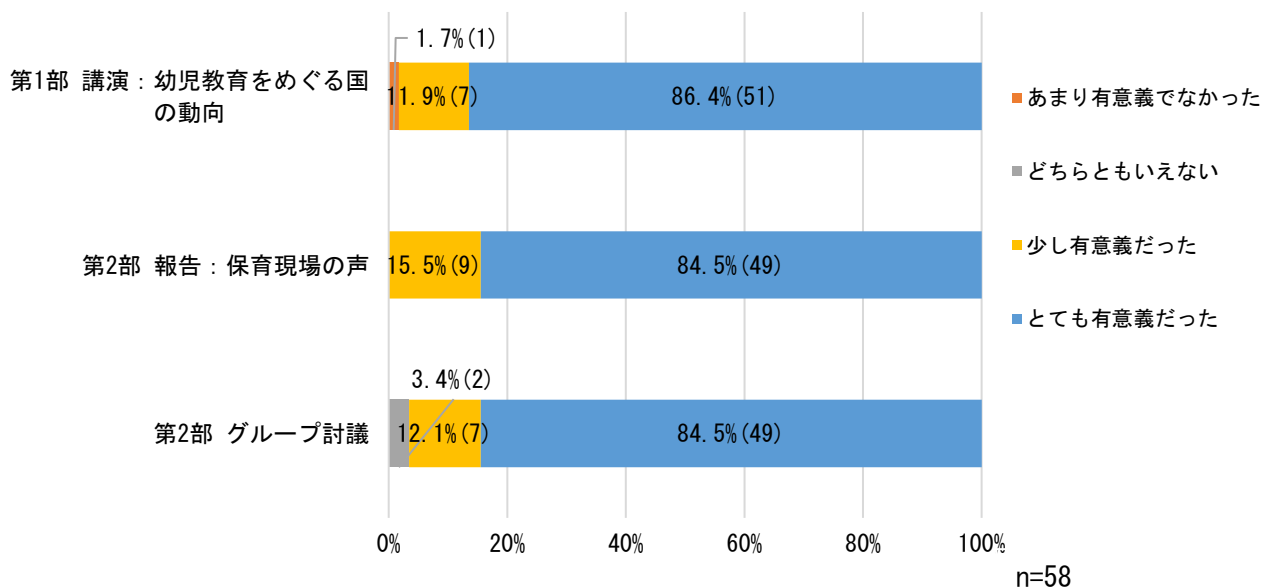


図2-8 研究会の内容について

図 2-8 は、研究会の内容がどのくらい有意義だったのかを、「第 1 部 講演：幼児教育をめぐる国の動向」「第 2 部 報告：保育現場の声」「第 2 部 グループ討議」それぞれについて尋ねた結果である。「まったく有意義でなかった」が選択された項目はなかった。選択肢の「とても有意義だった」と「少し有意義だった」を合わせた割合の高い順に示すと、「第 2 部 報告：保育現場の声」100% (58 名)、「第 1 部 講演：幼児教育をめぐる国の動向」98.3% (58 名)、「第 2 部 グループ討議」96.6% (56 名)であった。

この結果から、「第 1 部 講演：幼児教育をめぐる国の動向」「第 2 部 報告：保育現場の声」「第 2 部 グループ討議」のいずれも「とても有意義だった」と「少し有意義だった」を合わせた割合はほぼ 100% または 100%であったことから、参加者のほとんどが研究会に満足し、高く評価していたと言える。

(2) 研究会の時間について

回答者の研究会の時間に関する感想の結果について、図 2-9 に示す。

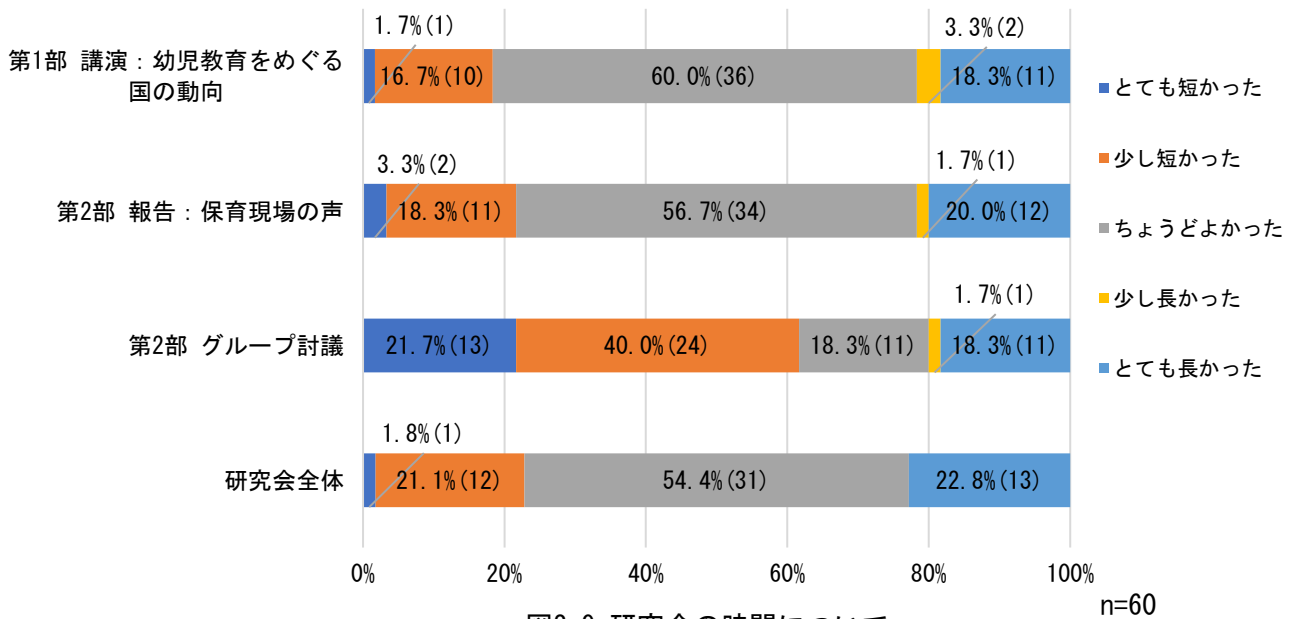


図2-9 研究会の時間について

図 2-9 は、研究会の時間について、「第 1 部 講演：幼児教育をめぐる国の動向」「第 2 部 報告：保育現場の声」「第 2 部 グループ討議」「研究会全体」それぞれについて尋ねた結果である。研究会の日程では、「第 1 部 講演：幼児教育をめぐる国の動向」が質疑応答を含め 55 分、「第 2 部 報告：保育現場の声」が 20 分、「第 2 部 グループ討議」が振り返りも含め 30 分、「研究会全体」は 120 分であった。

「第 1 部 講演：幼児教育をめぐる国の動向」と「第 2 部 報告：保育現場の声」については共通に、「ちょうどよかった」が約 60% で最も多かった。また、約 20% の回答者が「とても短かった」「少し短かった」と回答している一方で、残りの約 20% の回答者が「少し長かった」「とても長かった」と回答しており、感想が分散した結果となった。

「第 2 部 グループ討議」については、「とても短かった」21.7% (13 名)「少し短かった」40% (24 名) と約 6 割の回答者がもっと討議をしたいと感じていたことがうかがえる。次いで「ちょうどよかった」「とても長かった」それぞれ 18.3% (11 名) であった。

「研究会全体」としては、「第 1 部 講演：幼児教育をめぐる国の動向」と「第 2 部 報告：保育現場の声」とほぼ同様に、「ちょうどよかった」54.4% (31 名) が半数を占め、次いで「とても長かった」22.8% (13 名)、「少し短かった」21.1% (12 名) であり、やや感想が分散した結果となった。

この結果から、特に「第 2 部 グループ討議」に関しては、より長く時間を取り、余裕のある進行とすることが望ましいと言える。また、「時間が長かった」「時間が短かった」とする意見の要因を検討し、今後の研究会等の日程の検討に生かしていきたい。

(3) 研究会の感想について

回答者の研究会の感想について、図 2-10 に示す。

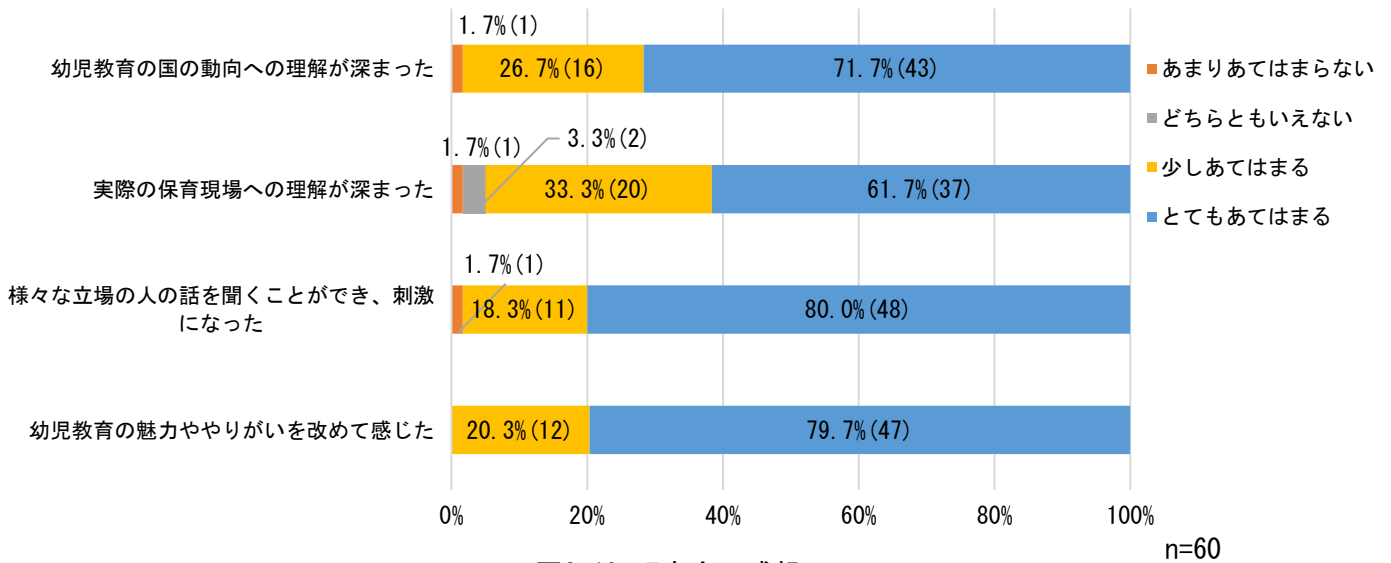


図2-10 研究会の感想について

図 2-10 は、研究会の感想について尋ねた結果である。「まったくあてはまらない」が選択された項目はなかった。4 項目を「とてもあてはまる」と「少しあてはまる」を合わせた割合の高い順に示すと、以下の通りとなった。「幼児教育の魅力ややりがいを改めて感じた」100% (59 名)、「様々な立場の人の話を聞くことができ、刺激になった」「幼児教育の国の動向への理解が深まった」それぞれ 98.3% (59 名)、「実際の保育現場への理解が深まった」95% (57 名) であった。

この結果から、研究会を通して回答者は幼児教育の魅力ややりがいを再確認していたと言える。「多層・交流型研究会」という本研究会の特徴により、様々な立場・層の人の話を聞いて良い刺激を受けられたことがうかがえる。また、ほとんどの回答者が講演・報告の内容について理解を深めていた。

(4) 保育者養成校学生・大学院生にのみに尋ねた研究会の感想

回答者のうち保育者養成校学生・大学院生にのみに尋ねた研究会の感想を、図 2-11 に示す。

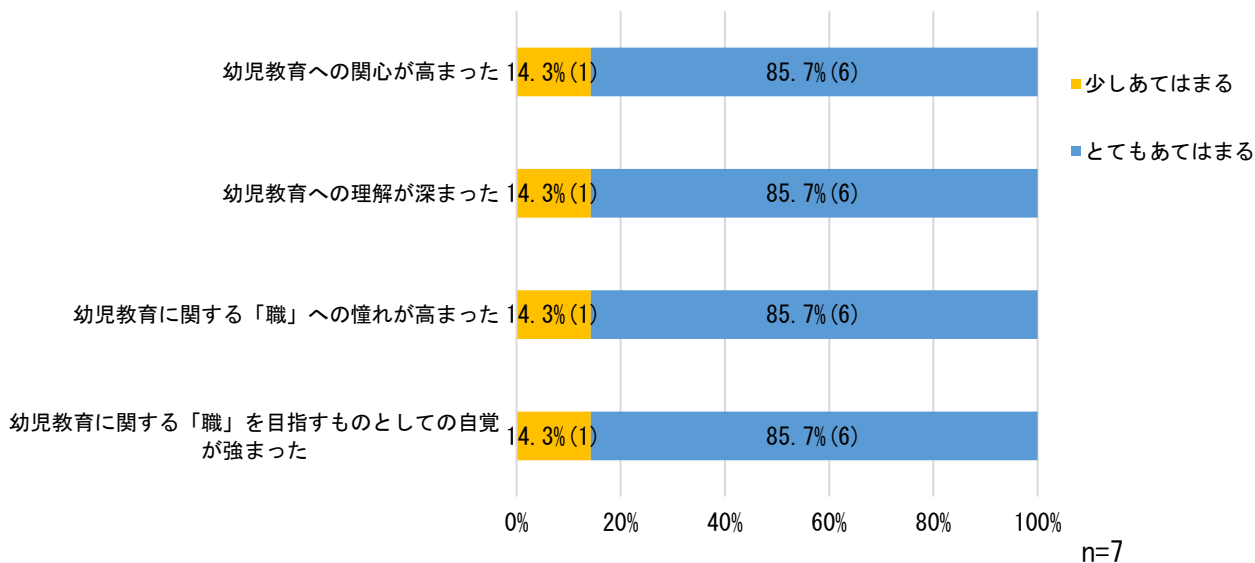


図2-11 研究会の感想について（保育者養成校の学生・院生）

図 2-11 は、保育者養成校学生・大学院生にのみに、研究会の感想として、幼児教育への関心や幼児教育に関する「職」への憧れ等を尋ねた結果である。「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」が選択された項目はなかった。また、いずれの項目も、「とてもあてはまる」85.7%（6名）、「少しあてはまる」14.3%（1名）であった。

この結果から、研究会への参加を通して幼児教育への関心が高まったり理解が深まったりし、また「職」への憧れや「職」を目指すものとしての自覚が強まったことがうかがえた。このことには、「第2部 グループ討議」等を通して、現職の保育者や幼児教育関係者と直接語り合えたことが影響していると考えられる。

IV 自由記述

(1) 保育者養成校学生や現職保育者、大学教員等、様々な立場の参加者による研究会の感想

保育者養成校学生や現職保育者、大学教員等、様々な立場の参加者による研究会の感想を、表 2-1-①②に示す。

表 2-1-① 保育者養成校学生や現職保育者、大学教員等、様々な立場の参加者による研究会の感想

立場	役職等	経験年数	自由記述	有意義だった内容	学び・気づき	意欲	要望・その他	
保育者養成校学生	大学生		いろいろな方の意見や体験などを聞くことが出来、いろいろな視点に気づくことが出来ると感じました。	色々な人の意見や体験談				
			現場ではたらい回しされている方や行政にたずさわっている方の話をきくことができ、とてもためになった。また参加したいと思った。	現場や行政の話				
			自分のこれからの学びにもつながるとともに、少子化などの変化していく状況に合わせた保育・教育を実践していくために今後の大学の学びを大切にしようと感じました。		今後の学び			
			こんなにたくさんの方が保育に携わっているのだと改めて感じた。		たくさんの方が保育に携わっていること			
			幼児教育の魅力を改めて感じる事ができた。		幼児教育の魅力			
	大学院生			とても楽しかったです！！すてきな先生方とディスカッションすることができて最高でした。	素敵な先生方とのディスカッション			
				研究会のさまざまな先生からのことをお聞いて、こどもの人生の幸せのため、交流会に多く参加して、交流したいと思った。	様々な先生の話		交流したい	
				様々な立場の方とお話できることがとても学びになります。開催にあたり先生方のご苦労(?)に感謝します。	様々な立場の人との意見交換			
				保育者のよさ、幼児教育の楽しさを改めて感じました。夏休み明けからまた頑張ろうという意欲につながりました。ありがとうございます。		幼児教育の楽しさ	夏休み明けからまた頑張りたい	
				いろいろな立場の方からの思いや意見をきくことができてよかったです。刺激になりました。	色々な立場の人の思いや意見		刺激になった	
現職保育者	教諭・保育士	1年未満	毎日現場で保育をしていて、10の姿など意識するように心がけているが、改めて解説を聞くことでこれからの保育で活かしていきたいと思いました	10の姿の解説				
			様々な立場、視点から保育について捉えるきっかけとなった。		様々な立場・視点から捉える保育			
			また開催してほしいです。				今後も研究会の開催希望	
			色々な立場の方と話せる機会はほとんどないので、とても学びになりました。	色々な立場の人との意見交換				
			さまざまな立場の方の、さまざまなお考えを聞くことができ、大変勉強になりました。	様々な立場の人の考え				
	教諭・保育士	1年以上7年未満		子どもの姿を引き算ではなく、成長している面を足し算するという考えがとってもすてきだと感じました。		子どもを捉える視点		
				自分と違う立場、また違う環境で保育をされている方のお話をきき、自分の園だけでは出ないようなアイデアをもらうことができてよかったです。改めて自園の課題にも気づけました。	自分と違う立場、違う環境で保育をしている人の話	アイデア・自園の課題		
				様々な状況はありますが、明日からまた子どもたちの笑顔や素敵な発見に共感して保育を楽しみたいと思いました。貴重な機会を設けて下さりありがとうございます。			保育を楽しみたい	
				大きな話(文科省からの講和・政策など)から小さな話(実際のとりくみ、現場の声)まですべてが互いにつながって支えあっているということを改めて感じられました。現実はずっとすまないものですが		政策と現場のつながり		
				様々な立場の先生からお話を聞き、同じ悩みを共有したり様々な実践法をきけたりすることができました。	様々な立場の先生の話 悩みの共有・実践法			
7年以上15年未満			とても学びになりました。もっと討議で語り合いたかったです		学び		もっと討議で語り合いたいです	
			普段の職場の研修とは違って様々な立場の方から新しい視点で話を聞くことができてとても勉強になりました。	様々な立場の人からの新しい視点の話				
			他園の話を聞けて良かったです。	他園の話				

表 2-1-② 保育者養成校学生や現職保育者、大学教員等、様々な立場の参加者による研究会の感想

立場	役職等	経験年数	自由記述	有意義だった内容	学び・気づき	意欲	要望・その他
	教諭・保育士	15年以上30年未満	やっぱりいろいろな先生とお話できると嬉しいです。園にもどったら、さっそく報告し、先生方と話し合いをもちます！	色々な先生との話		自園で報告し、話し合いしたい	
			様々な立場の方から様々な意見をきけるのは、とても貴重で有意義だと感じました。	様々な立場の人からの意見			
			改めて子どもの声にじっくり耳をかたむけたいな、と思いました			子どもの声に耳を傾けたい	
			様々な視点からの話がきけてとても有意義だった	様々な視点からの話			
現職保育者	主任保育士	7年以上15年未満	経験のある方、養成校の方の話もきけてよかったです！	経験者の話・養成校の話			
			様々な話が聞いて刺激になった。自身の現場でまた保育を楽しみたいと思った。	様々な話		保育を楽しみたい	
	15年以上30年未満	国の動向を知ることで考えることがあった。幼保小の連携を進めていきたい	国の動向に関する話		幼保小の連携を進めたい		
		様々な立場の方と交流出来て、楽しかったです。勉強になりました。	様々な立場の人との交流	勉強になった			
管理職	15年以上30年未満	いろいろな立場の方があるので、様々な視点からのお話を伺うことができ、ありがたいです。	様々な視点からの話				
		色々な地域の同じ職業に就いた方々とお話できるのはとても楽しい時間です。ありがとうございました。	色々な地域の人と話				
		いろいろな方々とのディスカッションはとてもよかったですし、学びになりました。	色々な人とのディスカッション	学び			
大学教員		30年以上	このように様々な立場で、幼児教育に携わっている人々が集い、話し合える場はとても貴重だと思います。このような機会をありがとうございます。	様々な立場の人との意見交換			
			学生さんが入るといことはとても貴重で重要と感じました。		学生の参加は貴重で重要		
			とても勉強になりました。また参加したいと思います。		勉強になった		
		話し合いの時間がとても短かったのが残念です。色々な立場の方と保育を語り合う場が、これからも楽しみです。	色々な立場の人との意見交換		話し合いの時間が短かった		
		自治体ごとの取組の違いを知ることができた。	自治体ごとの取組みの違い				
		様々な立場の方と意見交換できることが魅力です。	様々な立場の人との意見交換				
		第2部で事例をもっと詳しくお聞きしたいと感じました。グループの先生方も具体にご関心をお持ちのようでした。			自治体の取り組みをもっと聞きたい		
グループディスカッションも時間が足りない程 有意義でした。	時間が足りない程のグループディスカッション						
久々の対面の研究会に参加させて頂き、大変嬉しい気持ちでした。身近に相手の存在を感じられること、大事だと実感しました。		対面で身近に相手の存在を感じられることが大事					
保育を取りまくヒューマンリソースがつながっていく良い機会だと思います		ヒューマンリソースがつながっていく良い機会					
その他			学生、現職の方と話を聞け、よかった。	学生や現職の人の話			

表 2-1-①②は、保育者養成校学生や現職保育者、大学教員等、様々な立場の参加者による研究会の感想を、回答者の立場や現職保育者の役職・経験年数でまとめたものである。回答者の感想は、「有意義だった内容」「学び・気づき」「意欲」「要望・その他」の観点に分けて整理した。

「有意義だった内容」では、様々な立場の人の話を聞いたり討議をしたりしたことが、回答者の立場・現職保育者の役職・経験年数に関わらず多く挙げられていた。「保育者養成校学生」「現職保育者」「大学教員」に共通して「色々な人の意見や体験」「様々な立場の人の考えを聞いた」ことが挙げられていた。

Ⅲ (3) の結果同様、本研究会の「多層・交流型」という特徴に、回答者が意義と魅力を感じたと言える。

「学び・気づき」では、研究会を通して「幼児教育の魅力」を感じた保育者養成校学生の感想や、「子どもを捉える視点」や「政策・現場とのつながり」を感じた現職保育者の感想などがあつた。また、「学生の参加は貴重で重要」とする現職保育者（管理職）の感想もあつた。さらに、「ヒューマンリソースの繋がる機会」としての研究会の意義を述べた大学教員の感想もあつた。これらのことから、様々な立場や層の参加者との交流を通して、それぞれの立場や層での学びや気づきが得られていたと言える。

「意欲」では、「夏休み明けからまた頑張ろうという意欲」を述べた現職保育者（1年未満）の感想や、「保育を楽しみたい」（同様の回答 計2）という現職保育者（1年以上7年目、7年以上15年未満）の感想や、「幼保小の連携を進めたい」とする現職保育者（管理職）の感想などがあつた。研究会への参加を通して現職保育者は、研究会の講演や報告の内容等から、今後の保育への前向きな意欲を高めていたと言える。同時にその内容には、層による違いも見られた。

「要望・その他」では、「もっと討議で語り合いたかった」（同様の回答 計2）という意見や、「自治体の取組をもっと聞きたい」（同様の回答 計1）という意見があつた。これらは、Ⅲ (2) の結果とも共通しており、「多層・交流型」の研究会を通してさらに学びを深めたいという回答者の意欲を反映したものであると言える。

この結果から、研究会を通して、回答者は立場の違いに関わらず様々な立場の参加者の意見に触れる良さを感じ、幼児教育の魅力に気づき、実践への意欲を高めていたと言える。

(2) 研究会に参加して、特に印象に残ったことや要望等

研究会に参加して、特に印象に残ったことや要望等を、表 2-2-①②に示す。

表 2-2-① 研究会に参加して、特に印象に残ったことや要望等

立場	役職等	経験年数	自由記述	1部 講演	2部 報告	2部 討議	意欲	要望・その他
保育者養成 校学生	大学生		それぞれの地域の園には特色があるうえに、子どもの成長に関われることは素晴らしいと思いました。		地域の特色			
			様々な立場の人と話し合いを通して、普通の大学の授業だけでは得ることのできないことを知ることができ参加してよかったと思いました。			授業だけでは学べないことを知ることができた		
大学院生			先生たちのげん場の声を[聞いて]、日本のこどもの教育の動向少子化について気がついた。	少子化に気がついた				
			2部の構成がとてもよかったです					2部構成が良かった
現職 保育者	教諭・ 保育士	1年以上7年未満	大変勉強になりました。ありがとうございました				勉強になった	
			「今」の保育について、新鮮なものを知ることができて、有意義な時間になりました。	「今」の保育について知ることができた				
			グループで話せる時間がありがたかったです。			グループ討議が有意義だった		
			大学の先生方や先輩、附属幼稚園の先生方など、お会いすることができ嬉しかったです。開催していただきありがとうございました。					先生や先輩との再会できた
			グループ討議有意義でした ありがとうございました。			グループ討議が有意義だった		
		また見学させていただきたいなと思いました。見学会のお知らせありがとうございます。					また附属幼稚園の見学をしたい	
		行うだけでなく、発信していける保育者に。と目標・決意新たにすることができました。					発信していける保育者になるという目標・決意をもった	
		色々な地域、立場の先生方が、ともに保育について話せる場は貴重です。私もまた保育・研究とにもがんばりたいと思いました。				色々な地域・立場の保育者が話せる場は貴重だった		
		情勢や環境など時代によって変化はありますが、どの時代も子供は子供で、成長を見守り育てていくのが私たちの使命だと改めて感じました。本日はありがとうございました。					時代による変化はあるが、使命は変わらないと感じた	
		こどもは引き算でなくたし算で。ひびきました ありがとうございました	子どもは引き算ではなく足し算で理解する					
一人一人の子どもたちと、向き合えるよう改めて、意識して考えていきたいと思いました。					改めて1人1人の子どもと向き合う意識をもった			

表 2-2-② 研究会に参加して、特に印象に残ったことや要望等

立場	役職等	経験年数	自由記述	1部 講演	2部 報告	2部 討議	意欲	要望・その他	
現職保育者		15年以上30年未満	せっかくの文科省の話はもっと時間をかけて聞きたかったです。					文科省の話をもっと聞きたかった	
			たくさんの先生のお話を聞いて充実した時間となりました			たくさんの先生の話聞いた			
	主任教諭・主任保育士	7年以上15年未満	又、参加したいです。					また参加したい	
			子どもたちの感性を育てるため保育者の感性も豊かにしなければと思った。					保育者の感性を豊かにする	
		15年以上30年未満	やはり、色々な方の話しを聞くことは、参考になり、学びとなりました。もっと、子ども達の声に耳を傾けたいと思った。					子どもたちの声に耳を傾けたい	
		30年以上	横山先生の講演はととてもわかりやすく、学びになりました ありがとうございます	分かりやすかった					
	管理職	15年以上30年未満		・1部、早く進んでしまい難しく感じました。					1部が早く進んでしまい、難しかった
				頑張って発信したいと思いました。				発信したい	
			とても満足しています！有難うございました。						
		30年以上	ありがとうございました。自治体の理解を得ました。			自治体の特色を生かした保育			
大学教員			グループ討議がとても有意義で楽しかったです。ありがとうございました。				グループ討議が有意義だった		
			国の政策の話した後、現場の様子の事例があり、とても学びが深まりました。					研究会の構成が良かった	
			貴重なお話をありがとうございました。						
			「ちょっときて！！」で会うことのできる子どもの素晴らしい場面。幼児教育の醍醐味を再確認させて頂きました。ありがとうございました。			幼児教育の醍醐味を再確認した			
			日頃、実習生がお世話になっている園の先生方と違った場でお話しでき良かったと思います。幼稚園、保育園の先生方の悩み（交流でおわっている）や工夫（近隣の園をまきこんでいる）というお話が印象に残りました。				幼保小連携に関する実践・悩みが印象に残った	実習生がお世話になっている先生方と話せた	
その他							意見交換の時間がもっとあればよかった	討議の時間がもっとあればよかった	

表 2-2-①②は 保育者養成校学生や現職保育者、大学教員等、様々な立場の参加者による研究会の感想を、回答者の立場や現職保育者の役職・経験年数でまとめたものである。回答者の感想は「第1部 講演」「第2部 報告」「第2部 討議」「意欲」「要望・その他」の観点に分けて整理した。

「第1部 講演」については、「少子化」等の現在の国の動向だけでなく、「子どもは引き算ではなく足し算で」といった子どもの姿を捉える視点を学ぶきっかけにもなったことが分かる。

「第2部 報告」では、千葉県内の異なる地域のこども園の報告を通して、「地域の特色」「自治体の特色を生かした保育」を知り、具体的なエピソードから「幼児教育の醍醐味を再認識した」回答者がいた。

「第2部 討議」では、VI (1) の結果と同様に、様々な立場や層の人と語り合うことの良さに関する感想が、保育者養成校学生、現職保育者、大学教員等に共通して見られた。「授業では学べないことを知ることができた」とする保育者養成校学生の感想や、「色々な地域立場の保育者が話せる場は貴重」とする現職保育者（7年以上15年未満）などがあつた。

「意欲」では、VI (1) の結果と同様に、「発信していける保育者になるという目標・決意」という現職保育者（7年以上15年未満）の感想や、「子どもたちの声に耳を傾けたい」という現職保育者（7年以上15年未満）の感想など、研究会の内容が自分なりの目標を持つことに繋がったことがうかがえる。また、会場となった附属幼稚園の魅力に触れた感想もあつた。

「要望・その他」では、「第1部 講演」に関しては、「1部が早く進んでしまい、難しかった」という現職保育者（管理職）の意見などがあつた。また、「第2部 討議」に関しては、III (2)・VI (1) の結果と同様に「討議の時間をもっとあればよかった」という「その他」の回答者の意見などがあつた。同時に、「研究会の構成が良かった」という保育者養成校学生（大学院生）の感想もあつた。また、「実習生がお世話になっている先生方と話せた」という大学教員の感想や、「先生や先輩との再会」という現職保育者（1年以上7年未満）の感想からは、「多層・交流型研究会」が、保育・幼児教育に携わる様々な立場・層の人達の交流の機会としても機能していると言える。

この結果から、回答者は研究会の各内容に関して具体的な気付きを得るとともに、特にグループ討議に良さを感じていたと言える。同時に、時間配分に関する要望への対応が必要であると言える。

V まとめ

「幼児教育の『今』を語り合おう！—国の動向と保育現場の声—」の参加者アンケートの結果から、以下のことが言える。

- 「第1部 講演」「第2部 報告とディスカッション」のいずれも、有意義とする回答がほぼ100%または100%であつた。
- 養成校学生・大学院生の回答では、「幼児教育に関する『職』を目指す者としての自覚が強まった」等で、「少しあてはまる」と「とてもあてはまる」を合わせた割合が100%であつた。
- 「第1部 講演」「第2部 報告とディスカッション」では、様々な立場の参加者が熱心に耳を傾け、活発に討議していた。
- 様々な立場の参加者が交流する「多層・交流型研究会」は、幼児教育の魅力ややりがいを確認することに繋がつた。

なお、課題としては、「養成校学生、現職保育者への効果的な周知方法の検討」と「討議時間に関する感想（短い等）を踏まえた時程の検討」が挙げられる。

第3章 リトミックワークショップ参加者アンケート結果報告

【ワークショップ概要】

- ・日時：2023年11月11日（土）13:00～15:00
- ・場所：千葉大学ダンス場
- ・対象：保育者養成校に通う学生、現職保育者（幼稚園教諭・保育士等）、幼児教育関係者等
- ・内容： 第1部 リトミック体験
第2部 リトミックについての解説・実践例の体験
- ・講師：鈴木香代子（千葉大学特任研究員・國學院大學人間開発学部子ども支援学科兼任講師）



第1部 リトミック体験



第2部 リトミックについての解説と実践例の体験

- ・事前アンケート回答者：参加者20名中20名（回収率100%）、事後アンケート回答者：19名（回収率95%）

※ 以下の結果では「未記入」の回答は除いて分析を行った。各項目で「未記入」の数が異なり項目全体の回答数が異なることから、同じ回答人数であっても割合（%）が異なっている場合がある。また、割合は小数点第1位を四捨五入していることから回答人数が異なっても割合が同じ数値になっている場合がある。

I 回答者について

(1) 回答者の性別

ワークショップに参加した回答者の性別を図 3-1 に示す。

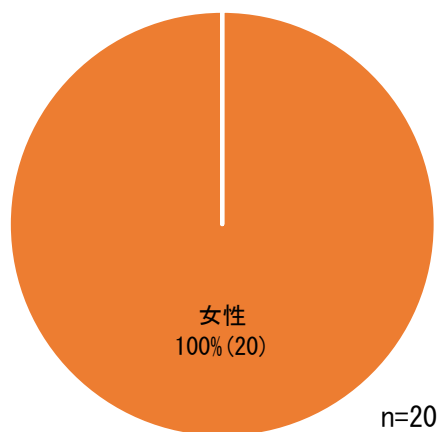


図3-1 回答者の性別

図 3-1 から、回答者は女性が 100% (20 名) であった

(2) 回答者の立場

ワークショップに参加した回答者の立場を図 3-2 に示す。

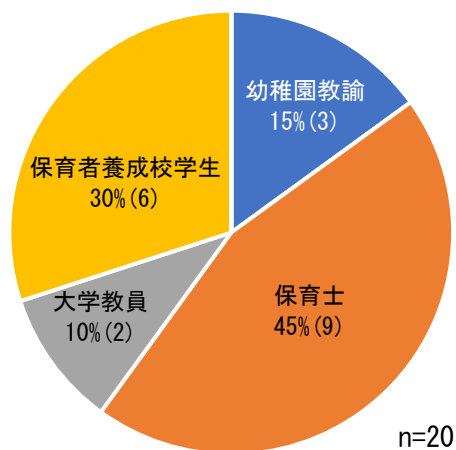


図3-2 回答者の立場

図 3-2 から、回答者の立場は、「保育士」が 45% (9 名) で最も多かった。その他は多い順に、「保育者養成校学生」 30% (6 名)、「幼稚園教諭」が 15% (3 名)、「大学教員」が 10% (2 名) であった。

(3) 保育者養成校学生の学年

回答した保育者養成校学生の学年を図 3-3 に示す。

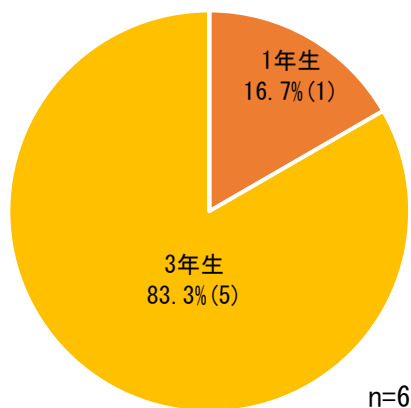


図3-3 保育者養成校学生の学年

図 3-3 から、回答した保育者養成校学生の学年は「3年生」が 83.3% (5名)、「1年生」が 16.7% (1名)であった。

(4) 保育者の勤務先での役職

回答した保育者の勤務先での役職を図 3-4 に示す。

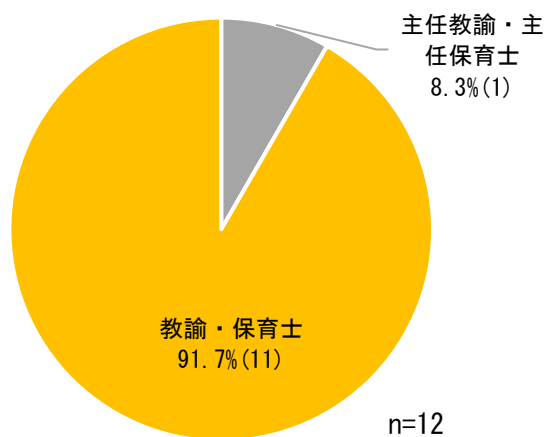


図3-4 保育者の勤務先での役職

図 3-4 から、回答した保育者の勤務先での役職は「教諭・保育士」91.7%(11名)が最も多く、「主任教諭・主任保育士」が 8.3%(1名)であった。

(5) 保育者の経験年数

回答した保育者の経験年数を図 3-5 に示す。

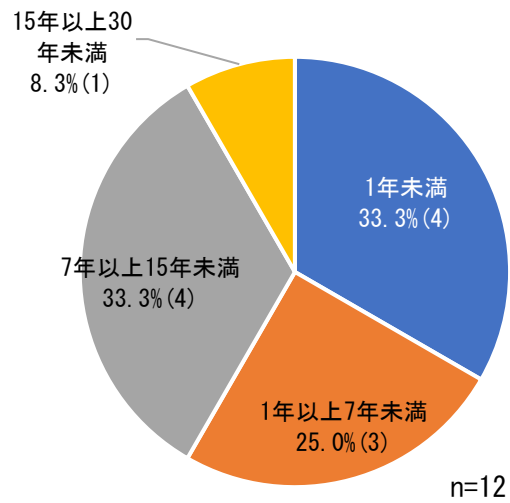


図3-5 保育者の経験年数

図 3-5 から、回答した保育者の経験年数は「1年未満」と「7年以上15年未満」がそれぞれ 33.3% (4名)、次いで「1年以上7年未満」が 25.0% (3名)、「15年以上30年未満」が 8.3% (1名)であった。新人から中堅までの保育者が多く参加していた。

Ⅱ ワークショップへの参加について

(1) ワークショップをどのように知ったか

回答者がワークショップを知った方法を図6に示す。

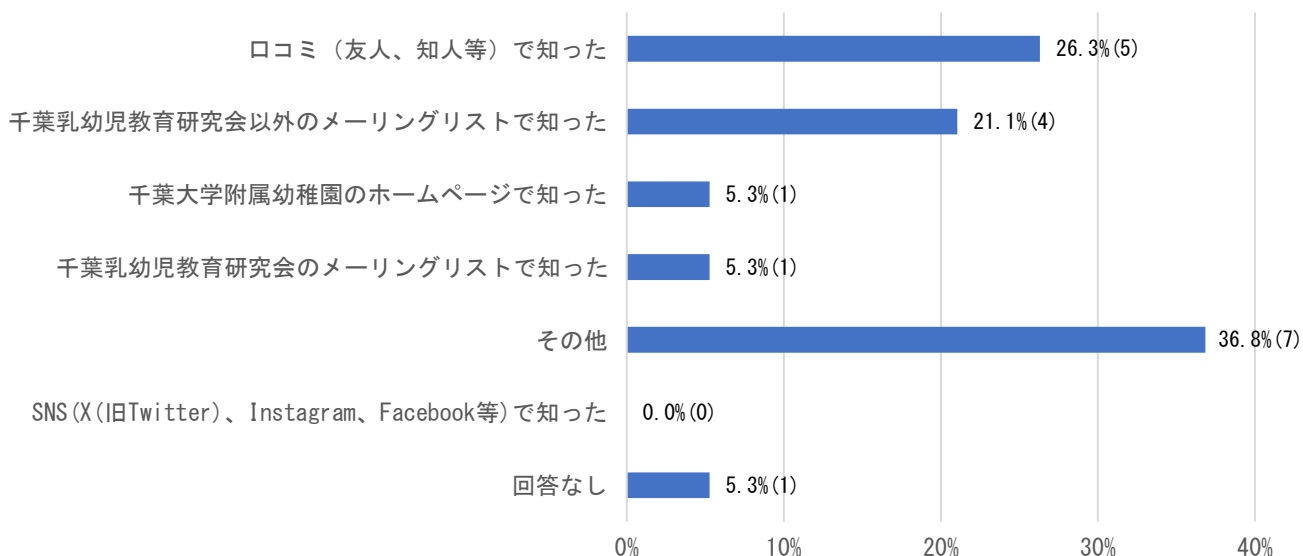


図3-6 ワークショップをどのように知ったか

※ 複数回答

図3-6から、ワークショップを知った方法として多かった順に示すと、「その他」36.8%（7名）、「口コミ（友人、知人等）で知った」26.3%（5名）、「千葉乳幼児教育研究会以外のメーリングリストで知った」21.1%（4名）、「千葉大学附属幼稚園のホームページで知った」「千葉乳幼児教育研究会のメーリングリストで知った」「回答なし」がそれぞれ5.3%（1名）であった。「その他」の回答の具体的な内容は「園の紹介」（2名）、「授業で聞いた」（2名）、「HPを見た主任のすすめ」（1名）、「職場の回覧板」（1名）、「紹介」（1名）であった。

この結果から、千葉乳幼児教育研究会以外のメーリングリストのほか、口コミや紹介による回答者が多かったと言える。

(2) ワークショップに参加した目的・理由

回答者がワークショップに参加した目的・理由を図 3-7 に示す。

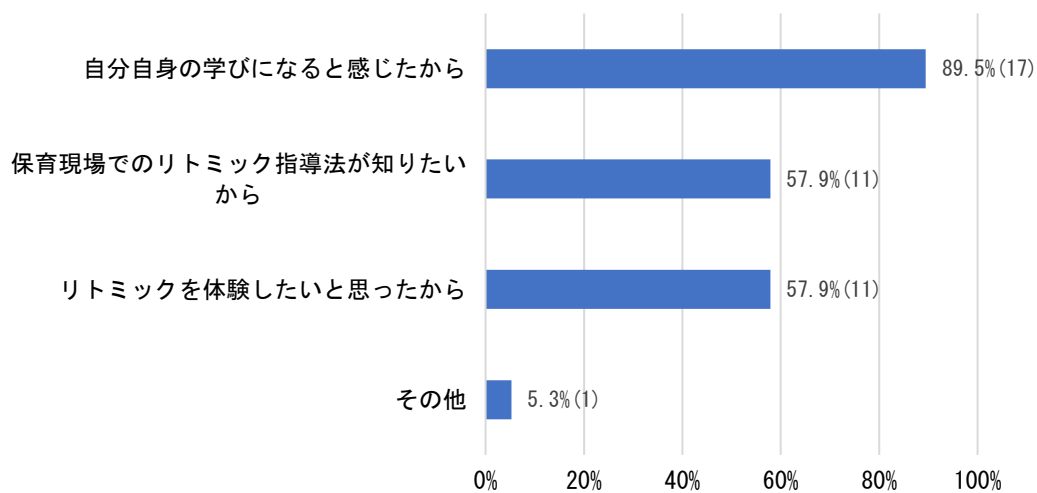


図3-7 ワークショップに参加した理由

※ 複数回答

図 3-7 から、ワークショップに参加した目的・理由として多かった順に示すと、「自分自身の学びになると感じたから」89.5%(17名)、「保育現場でのリトミック指導法が知りたいから」「リトミックを体験したいと思ったから」がそれぞれ57.9%(11名)、「その他」は5.3%(1名)であった。「その他」では「リトミックの内容をたくさん知りたかった」という理由が挙げられていた。

この結果から、リトミックそのものに対する関心の高さと、その指導法について学びたいという意欲が参加の目的・理由になっていたと言える。

Ⅲ ワークショップに参加した感想について

(1) ワークショップの内容

回答者の研究会の内容に関する感想の結果について、図 3-8 に示す。

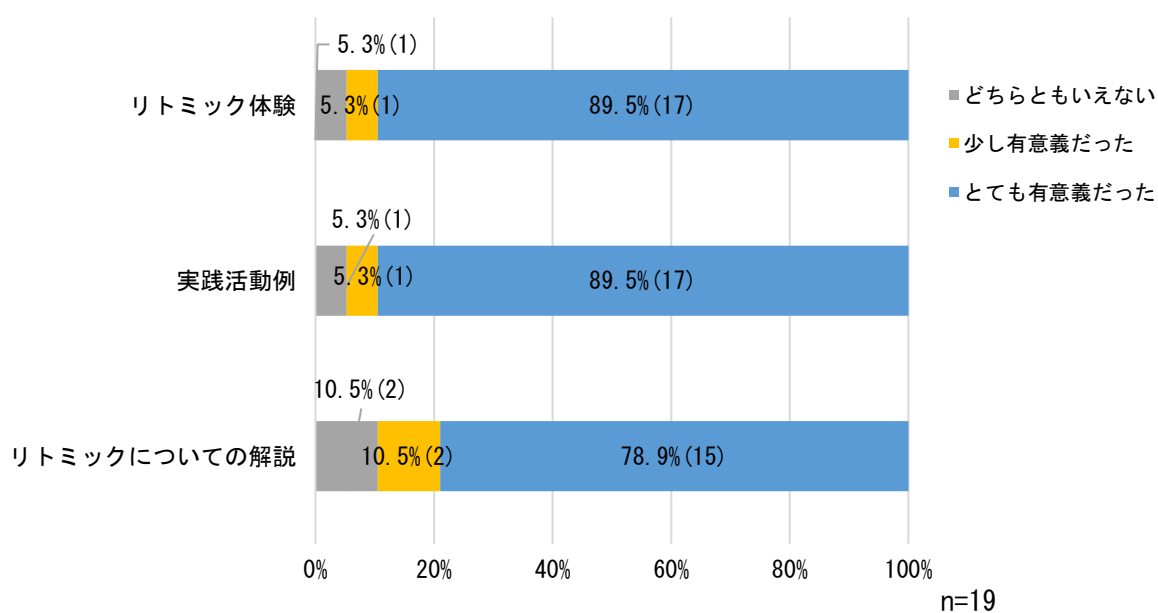


図8 ワークショップの内容について

図 3-8 は、ワークショップの内容がどのくらい有意義だったのかを、「リトミック体験」「実践活動例」「リトミックについての解説」それぞれについて尋ねた結果である。「まったく有意義でなかった」「あまり有意義でなかった」が選択された項目はなかった。選択肢の「とても有意義だった」と「少し有意義だった」を合わせた割合を高い順に示すと、「リトミック体験」と「実践活動例」はともに 95.3% (18 名)、「リトミックについての解説」は 89.4% (17 名) であった。

この結果から、ワークショップのいずれの内容に対しても、回答者のほとんどが満足し、高く評価していたと言える。

(2) ワークショップの時間について

回答者のワークショップの時間に関する感想の結果について、図 3-9 に示す。

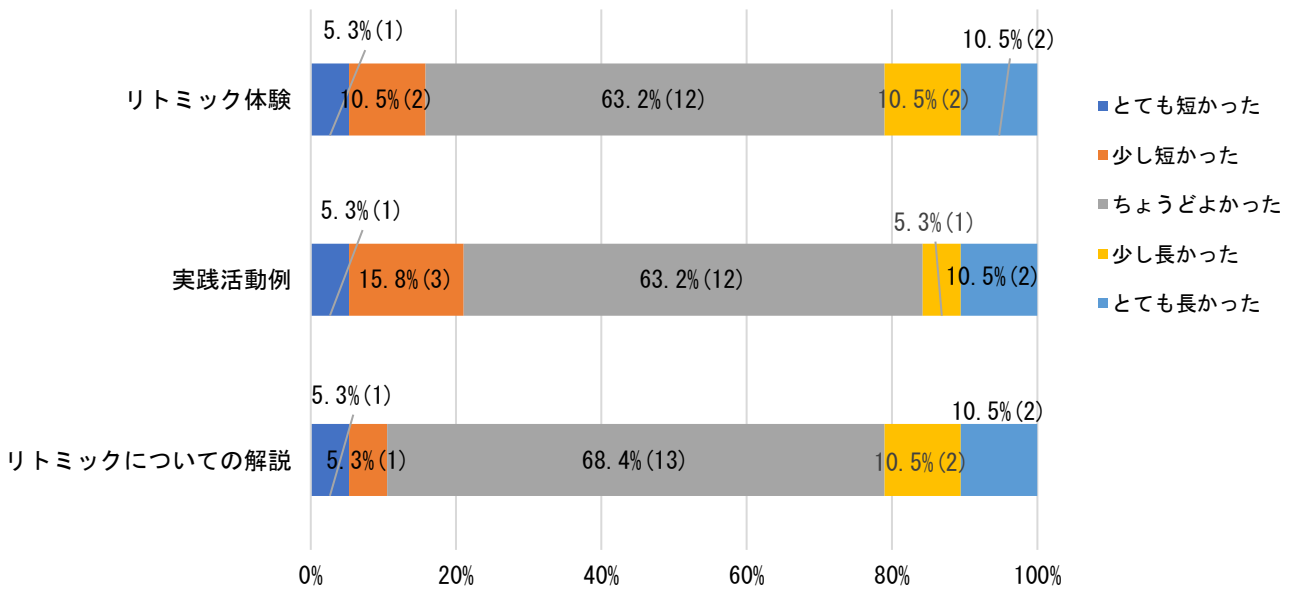


図3-9 ワークショップの時間について

n=19

図 3-9 は、ワークショップの時間について、第 1 部の「リトミック体験」、第 2 部の「実践活動例」と「リトミックについての解説」それぞれについて尋ねた結果である。ワークショップの時程では、第 1 部の「リトミック体験」が質疑応答を含め 60 分、第 2 部の「実践活動例」が 40 分、「リトミックについての解説」が 10 分、「ワークショップ全体」は 120 分であった。

第 1 部の「リトミック体験」については、「ちょうどよかった」が 63.2% (12 名) で最も多かった。また、「とても短かった」「少し短かった」が 15.8% (3 名)、「少し長かった」「とても長かった」が 21% (4 名) であった。

第 2 部の「実践例」については「ちょうどよかった」が 63.2% (12 名) で最も多かった。また、「とても短かった」「少し短かった」が 21.1% (4 名)、「少し長かった」「とても長かった」が 15.8% (3 名) であった。リトミック体験より時間が少し短かったのもっと実践例を学びたいと感じていたことがうかがえる。

「リトミックについての解説」については、「ちょうどよかった」が 68.4% (13 名) で最も多かった。また、「とても短かった」「少し短かった」が 10.6% (2 名)、「少し長かった」「とても長かった」が 21% (4 名) であった。

また、すべてに「とても短かった」と回答している現職保育者（7 年以上 15 年未満）が「もっと学びたいという意味で」という意見を書いていた。限られた時間内で十分に理解を図ることは困難ではあるが、効果的な学びが得られるように今後のワークショップの検討を行っていききたい。

(3) 保育者養成校学生にのみに尋ねた研究会の感想

回答者のうち保育者養成校学生にのみに尋ねた研究会の感想を、図 3-10 に示す。

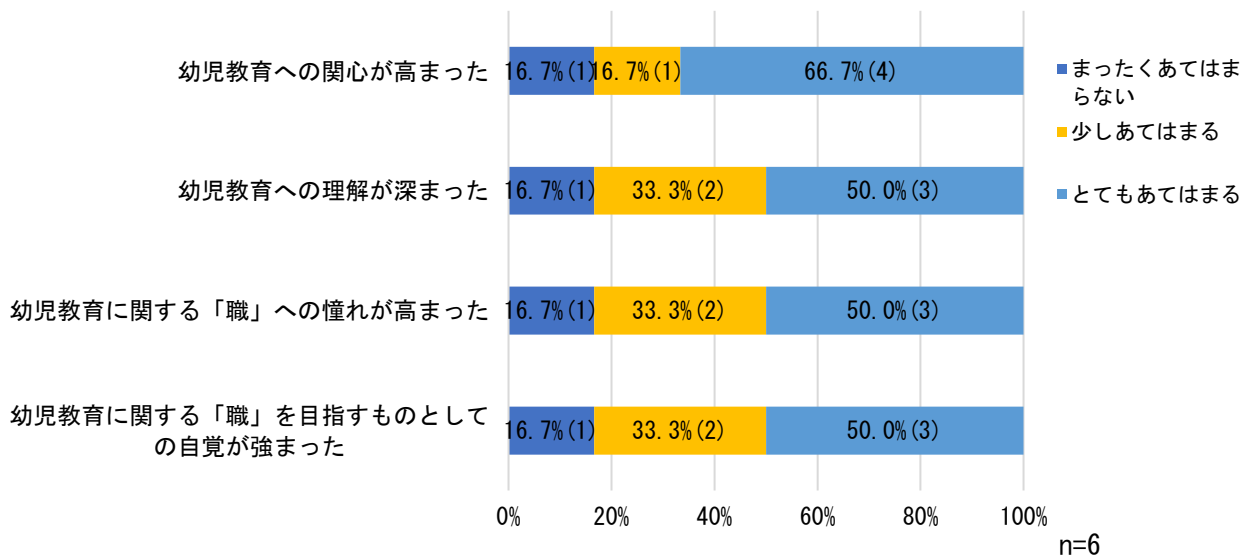


図3-10 ワークショップの感想について（保育者養成校の学生）

図 3-10 は、保育者養成校学生にのみに、ワークショップの感想として、幼児教育への関心や幼児教育に関する「職」への憧れ等を尋ねた結果である。「あまりあてはまらない」「どちらでもない」が選択された項目はなかった。またどの項目においても、「とてもあてはまる」「少しあてはまる」を合わせると 83.3%（5名）であった。

この結果から、ワークショップへの参加を通して保育者養成校学生の幼児教育への関心が高まったり「職」への憧れや「職」を目指すものとしての自覚が強まったことがうかがえた。

Ⅳ リトミックについて（事前アンケートより）

(1) リトミックを知っているか

回答者の「リトミック」の認知度を図 3-11 に示す。

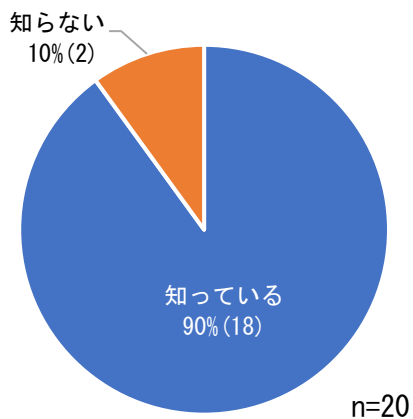


図3-11 「リトミックを知っているか」に対する回答

図 3-11 からリトミックを「知っている」が 90%(18 名)、「知らない」が 10%(2 名)であった。「知らない」と回答した 2 名は、保育者養成校学生の 1 年生と現職保育者（1 年以上 7 年未満）であった。

(2) リトミックと聞いてイメージすること

回答者がリトミックに対してどのようなイメージを持っているか、自由記述の内容を表 3-1 に示す。

表 3-1 リトミックに対するイメージ

動く	保育者養成校 1 年生	音楽に合わせて身体を楽しく動かす
	保育者養成校 3 年生	音楽に合わせて身体を動かす
	保育者養成校 3 年生	音楽に合わせてリズムを感じながら体を動かす
	保育者養成校 3 年生	音楽と動き
	幼稚園教諭 (1 年未満)	楽器 (音楽) に合わせて体を動かす
	幼稚園教諭 (1 年未満)	音楽やリズムに合わせて身体を動かすこと
	保育士 (1 年以上 7 年未満)	楽しい、リズムに合わせて身体を動かす
	保育士 (1 年以上 7 年未満)	音楽に合わせて体を動かす
	保育士 (7 年以上 15 年未満)	音楽に合わせて体を動かす
	大学教員	動く、聴覚、リズム、創作
表現	保育者養成校 3 年生	音楽、身体表現
	保育者養成校 3 年生	音楽、身体表現、スキップ
	幼稚園教諭 (1 年未満)	子ども達が曲に合わせて、自由に表現し、楽しむ姿
	主任保育士 (7 年以上 15 年未満)	リズム、ピアノ、表現
	保育士 (7 年以上 15 年未満)	身体全体を使って表現する楽しさを味わう
その他	大学教員	リズム運動、身体を通して音楽を感じる
	保育士 (1 年未満)	体操、音楽に合わせて自由に遊ぶ
	保育士 (1 年以上 7 年未満)	うたとダンス
	保育士 (7 年以上 15 年未満)	音楽
	保育士 (15 年以上 30 年未満)	楽しい、リズムあそび

表 3-1 から、回答者のイメージは「動く」「表現」「その他」の 3 種類に分類された。「(音楽・楽器・曲・リズムに合わせて) 動く」ということばが入っているものが一番多く (20 名中 12 名)、次に「表現」 (20 名中 5 名)、その他「うたとダンス」「体操、自由に遊ぶ」など (20 名中 5 名) であった。

この結果から、回答者がリトミックに対して抱くイメージは、「動き」を伴うものが多いと言える。

(3) リトミックについて知っていること

質問(1)でリトミックを「知っている」と回答した回答者が、「リトミックについて知っていること」として回答した自由記述の内容を表3-2に示す。

表3-2 リトミックについて知っていること

表現	幼稚園教諭(1年未満)	幼児の発達において、重要な関わりを持っていること。音楽を自由に表現したりすること。
	保育士(1年以上7年未満)	音楽にあわせて自己表現
	保育士(7年以上15年未満)	音楽(音)に合わせて自由に表現して楽しむこと
	保育士(7年以上15年未満)	自分の想いを表現する、自分の心を解放して相手も知ろうとする
	保育者養成校3年生	ピアノに合わせて行うことが多い。聞いたものを体で表現する
動く	保育士(1年以上7年未満)	リズムに合わせて身体を動かす
	保育士(7年以上15年未満)	音楽(ピアノをふくむ)に合わせて動く。なりきりあそび(カエルやウサギなど)
	幼稚園教諭(1年未満)	音に合わせて楽しく身体を動かすこと
	保育者養成校3年生	音楽に合わせて身体を動かす
	保育者養成校3年生	音楽に合わせて自由に身体を動かす活動
リズム	保育士(15年以上30年未満)	リズムあそび、即時反応
	大学教員	ダルクローズ、リズム、ソルフェージュ、即興創作
	保育者養成校3年生	ボールをリズムにあわせて転がす
遊ぶ	保育士(1年未満)	音楽に合わせて自由に遊ぶこと
教育	幼稚園教諭(1年未満)※	音楽を通して心と体を育む教育方法

表3-2から、「リトミックを知っている」回答者のリトミックについて知っていることの内容は、「表現」「動く」「リズム」「遊ぶ」「教育」の5種類に分類された。

この結果から、「リズム」の具体的な内容として、「即時反応」「即興創作」「ダルクローズ」という言葉が挙げられており、回答者がリトミックに関しての知識を持っていたことがうかがえる。

(4) リトミックの体験・実践について

回答者のリトミック体験や実践経験について、図 3-12 に示す。

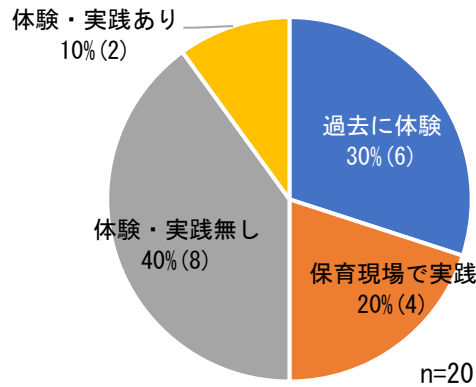


図3-12 リトミックの体験・実践経験について

図 3-12 から、回答者のリトミック経験は「過去に体験したことがある」30% (6 名)「保育現場で実践している・したことがある」20%(4 名)、「体験・実践両方あり」10% (2 名)、「体験も実践もしたことがない」40% (8 名) であった。

この結果から、回答者の60% (12 名) が体験・実践経験がある一方で、40%(8 名) が体験・実践経験が無かったことが分かった。また、「体験も実践もしたことがない」という8名の内訳は、大学教員1名、保育者養成校学生3名、現職保育者4名であった。

(5) リトミックの体験時期

質問 (4) で「過去に体験したことがある人」と回答した人の体験時期について図 3-13 に示す。

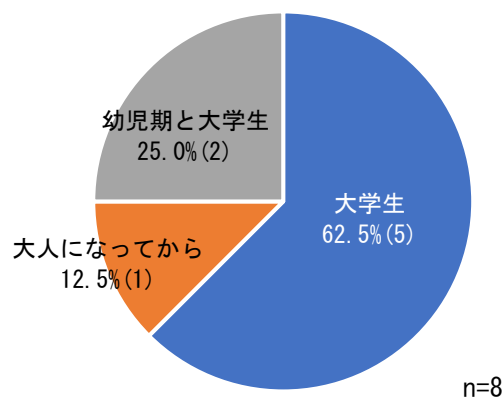


図3-13 体験したことがある、と答えた人の体験時期

図 13 から、リトミックを体験したのは「大学生」が62.5%(5 名)で最も多く、次いで「幼児期と大学生」が25.0%(2 名)、「大人になってから」が12.5%(1 名)であった。

この結果から、小学生から高校生の間にはリトミックを体験する機会は無かったことが分かる。

(6) 何歳から実践できると思うか

リトミックが実践できる年齢について、回答者の考えを図 3-14 に示す。

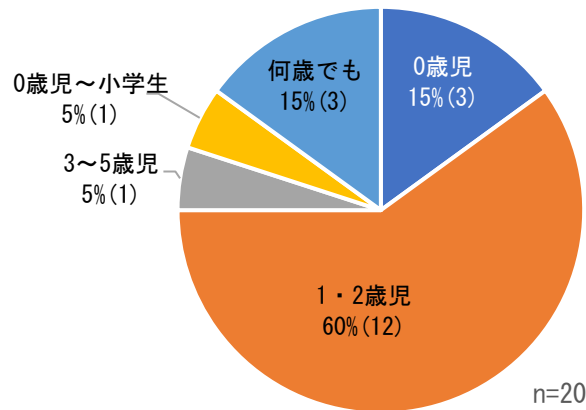


図14 何歳から実践できると思うか

図 3-14 から、リトミックが実践できると考えている年齢は「1・2歳児」が 60%(12名)で最も多く、次いで「0歳児」15%(3名)、「何歳でも」15%(3名)、「3~5歳児」5%(1名)、「0歳児~小学生」5%(1名)であった。

この結果から、リトミック実践の可能な年齢について、乳幼児期が一番多いが、大人になってから（高齢者を含む）も実践可能であると、回答者が幅広く考えていることがうかがえる。

(7) 指導者の専門性

リトミクの指導者としてどのような専門性を持った人がふさわしいと考えるかについて回答者の考えを図 3-15 に示す。

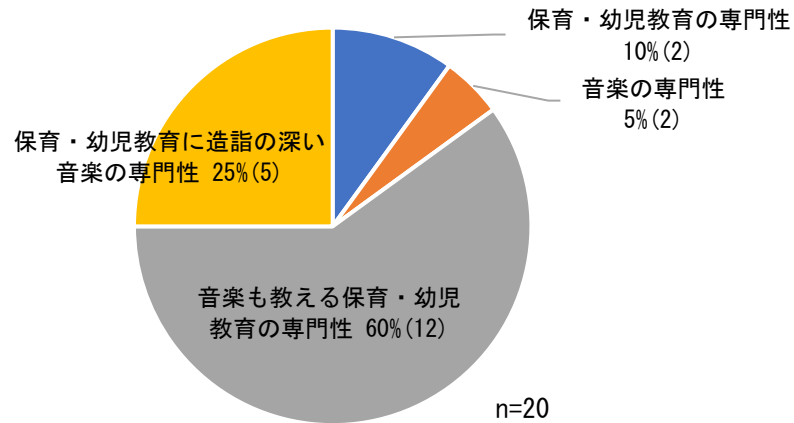


図3-15 指導者の専門性について

図 3-15 から、指導者の専門性について回答者の考えを多い順に示すと「音楽も教える保育・幼児教育の専門性を持った指導者」60%(12名)、「保育・幼児教育に造詣の深い音楽の専門性を持った指導者」25%(5名)、「幼稚園や保育所などの保育・幼児教育の専門性を持った指導者」10%(2名)であった。「体操を教える体育の専門性を持った指導者」を選択した人はいなかった。

この結果から、リトミクの指導者には、「保育・幼児教育」と「音楽」の両方の専門性が必要ではあるが、「音楽」の専門性よりも、「保育・幼児教育」の専門性を持った人が相応しいとする回答者が多いと言える。

V リトミック体験後の感想（事後アンケートより）

(1) 参加者のリトミックに対するイメージの変化

リトミックを体験したことによるイメージの変化について参加者のイメージの変化を図 3-16 に示す。

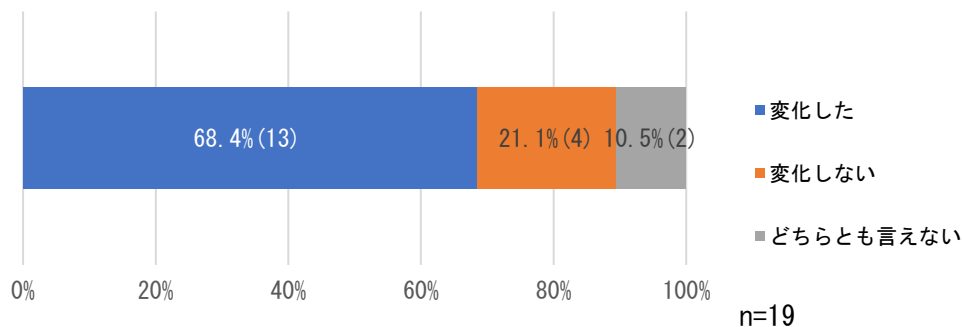


図3-16 リトミックに対するイメージの変化について

図 3-16 から、リトミックを体験したことによるイメージは、「変化した」が 68.4%(13 名)、「変化しない」21.1%(4 名)、「どちらとも言えない」10.5%(2 名)であった。「変化した」という回答者は「ばくぜんとしたイメージしかなかったので、どんな風を感じるか、空間やエネルギーを感じる、というのに意識が行くようになった」(現職保育者/1年以上7年未満)という意見があり、リトミックについての理解がより深まったことがうかがえる。

この結果から、回答者の約 7 割が、ワークショップでの体験によりリトミックに対するイメージを変化させていた。

(2) リトミックの解説から分かったこと

回答者がリトミックの解説から分かったことについて、図 3-17 に示す。

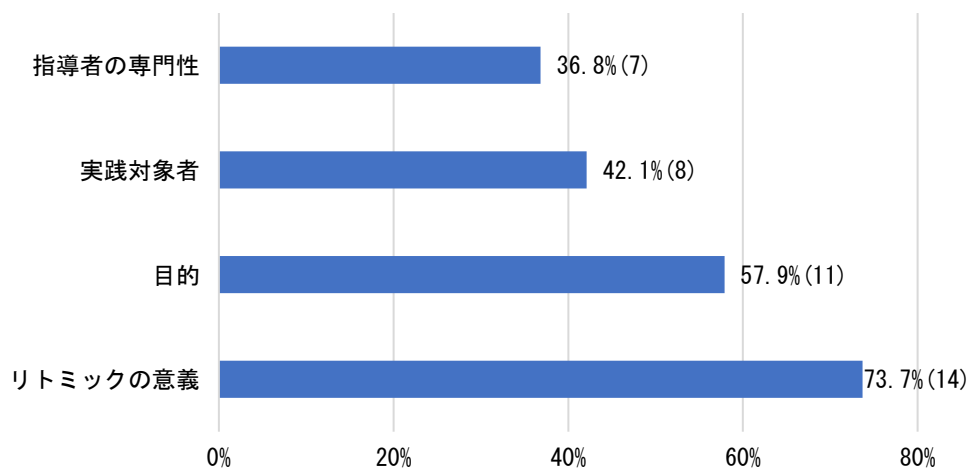


図3-17 解説から分かったこと

図 3-17 から、解説から分かったことを多かった順に示すと、「リトミックの意義」73.7%(14 名)、「目的」57.9%(11 名)、「実践対象者」42.1%(8 名)、「指導者の専門性」36.8%(7 名)であった。

この結果から、保育現場でリトミックを実践することの意義や目的についての理解が深まったことがうかがえる。

VI 自由記述

(1) 保育者養成校学生や現職保育者、大学教員等、様々な立場の参加者によるワークショップの感想

保育者養成校学生や現職保育者、大学教員等、様々な立場の参加者によるワークショップの感想を、表 3-3-①②に示す。

表 3-3-① ワークショップ体験後の感想

立場	役職等	経験年数	自由記述	有意義だった内容	学び・気づき	意欲	その他
保育者養成校学生	大学生		音楽に合わせて動けなかつた、人との関わりや記憶力など多くのことを育むことができるのだなと感じた。		人との関わり、記憶力		
			ただ手をたたいていても音楽が加わることで拍子になっていくことが楽しかった。ソルフェージュが面白かった。	ソルフェージュ			
			エネルギーが拍と通じると、自然と心や身体が動いていく感じがして楽しかったです。		エネルギー		
			ただの拍子を回すよりも、音楽をつけて活動することで、リズムや拍、空間を感じられると学んだ。		リズム、拍、空間		
			ボールやスカーフを使った活動が楽しかったです。リズムに合う、という感覚がわかったような気がします。	ボールやスカーフを使った活動	リズムに合う		
			1人で動くだけではなくて、周りの人と一緒に体を動かすのが楽しかった。	周りの人と一緒に体を動かす			
			リトミックと1つでくっつけていても、年齢によってやり方は多様であり、年齢や発達に応じて工夫することが大切だと気付いた。		年齢や発達に応じて工夫すること		
			年齢や発達によって活動を組み立てることの大切さがよくわかった。		年齢や発達に応じて活動を組み立てる		
			それぞれの年齢や発達によって、活動を変化させることが大切であると気付きました。		年齢や発達によって活動を変化させる		
			子どもに対しては「お散歩」や「落ち葉」などイメージを伴わせて導入することで子どもたちも取り組みやすくなる感じた。		イメージを伴わせる		
保育者が意図をもって実践することの大切さを感じました。楽しい雰囲気があることで動きやすくなりました。		意図をもって実践する					
保護者の方とのふれあいから始まることで安心して活動をスタートできると思った。		保護者とのふれあいから始まる					
現職保育者	幼稚園教諭・保育士	1年未満	体で拍を感じるのが楽しく時間があっというまでした。	体で拍を感じる			
			園で行うにはもう少し簡単にアレンジする必要があると思った。動きの目的を考える参考にしたいと思いました。			動きの目的を考える	
			私が想像していたよりも、大人でも楽しんでリトミックに取り組むことができた。初対面の人とも楽しむことができたのがリトミックの良さだと思った。	大人でも楽しめる・初対面でも楽しめる			
			年齢にあわせた指導の仕方がとても勉強になりました。		年齢に合わせた指導		
			園と同じような動きもあれば、初めての動きもあって楽しかった。自由に動くことが以外と難しい子が多いと感じているので、言葉を少し増やして伝えていきたいと思いました。			言葉を少し増やして伝えていきたい	自由に動くことが難しい子が多いと感じている
私自身、ピアノが苦手なので、1曲をアレンジするという意見にとっても嬉しく感じた。				1曲をアレンジする			

3-3-② ワークショップ体験後の感想

立場	役職等	経験年数	自由記述	有意義だった内容	学び・気づき	意欲	その他	
現職保育者	幼稚園教諭・保育士	1年以上7年未満	集中力がなくて大変と感じたが、リズムにあった時の楽しさを感じることができ、とても興味深いと思いました。		集中力が必要			
			音の早さ遅さだけでなく、高い低いでも表現が変わる。先生に言われたことだけでなく、自分でアレンジする力が育つ。		自分でアレンジする力			
			拍が変わるなど、頭もとても使った。		頭を使った			
			実際に子どもになりきりおこなうことで、リトミックのおもしろさや楽しさ、普段あまりしないうごき、自分にまかせて自己を表現する楽しさを感じることができた。		自己を表現する楽しさ			
			同じ拍子でも、きざむ音や数が違うだけで色々な遊びができる。		色々な遊び			
				一つ曲をマスターするというのもさんこうになった。子どもの姿が浮かんだ。Go Stop、しかんの大切さ、理解できた。		Go&Stop・弛緩		
		7年以上15年未満	音楽経験0だったので、とても難しく感じた。					難しく感じた
	音楽を感じながら頭で考え、体を動かす（エネルギー）ということが大切なのだと学びになった。			頭で考える・エネルギー				
			もっと難しいものをイメージしていたが、こどもにもわかりやすい単純なもので実践につながる（つなげやすい）。明日からの保育に活用していきたい。				明日からの保育に活用していきたい	
		15年以上30年未満	道具を使った活動は、子どもたちも興味を持ち、より楽しみやすいと感じた。				道具を使った活動は子どもたちも興味を持ち、より楽しみやすい	
保育士自身も楽しむことが大切だと感じた。恥ずかしがらず、色々なアイデアがあることが大切。					色々なアイデアがあることが大切			
	主任保育士	15年以上30年未満	リズム感がなく、少し難しいところもあった。				難しいところもあった	
散歩、子どもも自由にイメージしたり表現したり、とても素晴らしかった。				自由にイメージ、表現				
大学教員			多様な感覚を用い、発達を総合的に促すものであると感じた		多様な感覚、発達を総合的に促す			
			音楽や動きを通していろいろな人と出会えることが楽しかった	いろいろな人と出会える				
			創造的な要素もかなり含まれることを知った		創造的な要素			
			子どもの年齢別実践例が分かりやすく勉強になった		年齢別実践例			

表 3-3-①②は、ワークショップ体験後の回答者の感想を回答者の立場や現職保育者の役職・経験年数でまとめたものである。回答者の感想を「有意義だった内容」「学び・気づき」「意欲」「その他」の観点に分けて整理した。

「有意義だった内容」としては、「ソルフェージュが面白かった」（保育者養成校学生）という意見のように、声で高低を表し、それを聴いて身体表現するソルフェージュの活動において、ピアノを使わずに声で表現し、他者と高低を共有する活動が珍しく、活動に面白さと意義を感じていたことがうかがえる。また「ボールやスカーフを使った活動が楽しかった」（保育者養成校学生）という意見は、参加者同士でボールやスカーフを介在として色々な人と応答しながらリトミック活動を行ったことに魅力と意義を感じていたことがうかがえる。

「学び・気づき」としては、「音楽に合わせて動くなかで、人との関わりや記憶力など多くのことを育むことができるのだと感じた」（保育者養成校学生）「多様な感覚を用い、発達を総合的に促すものであると感じた」（大学教員）ということが挙げられており、リトミックの活動には子どもの様々な能力に働きかける視点がある、ということの学びや気づきが得られていることがうかがえる。「集中力が必要」（現職保育者・1年以上7年未満）「頭を使った」（現職保育者・1年以上7年未満）という意見のように、音楽に合わせて動きながら、絶えず思考するということが、リトミックの大切な部分であるということに気付くことができたと思われる。その中で「自由に動くことが難しい子が多いと感じている」（現職保育者・1年未満）という意見のように、決められた動きはできても、自由に表現することに戸惑いがある子どもに対して、どのように言葉がけをして導いていくのか、悩みを抱えていることがうかがえる。保育現場で子どもの表現力を引き出すために、リトミックをどのように活用していくのか、今後の課題であると言える。

「意欲」としては「動きの目的を考える参考にしたい」（現職保育者・1年未満）「明日からの保育に活用していきたい」（現職保育者7年以上15年未満）という意見のように今後の保育への前向きな意欲を高めていたと言える。

この結果から、リトミックワークショップを通して、回答者はグループで一緒に体を動かすこと等の楽しさを感じ、リズムや拍や子どもの年齢に応じた変化等多様な学びや気づきを得ていた。また、現職保育者の回答では実際の保育にワークショップの内容を活かす意欲が見られた。

(2) ワークショップで特に印象に残ったこと等

ワークショップで特に印象に残ったことや要望等を、表 3-4 に示す。

表 3-4 ワークショップで特に印象に残ったことや要望等

立場	役職等	経験年数	自由記述	有意義だった内容	学び・気づき	意欲
保育者養成校学生	大学生		音楽に合わせて動く中で人間関係や記憶力など1つの活動から複数の能力を育むことができるということが印象に残りました。		人間関係や記憶力など1つの活動から複数の能力を育むことができる	
			リトミックって難しいのかな、という印象が少しあったのですが、実際にやってみてとても楽しく自然と音楽に乗れる楽しさに気付くことができました。貴重なワークショップに参加させていただきありがとうございました。	自然と音楽に乗れる楽しさ		
			貴重な体験をさせていただき、とても勉強になりました。ありがとうございました。			
現職保育者	幼稚園教諭・保育士	1年未満	初めて会った方でも楽しく参加することができ、とても良い経験をさせていただきました。ピアノ1つでたくさんの楽しみ方があり、自分でも試してみたいと思うことばかりでした。ありがとうございました。	始めて会った方でも楽しく参加		自分でも試してみたい
		1年以上7年未満	「ラララ」とピアノではなく、声に合わせてでもリトミックはできるのだということに感動した。初対面の人とでも、この音は山かな？今下がった？というように、和気あいあいと音を楽しむことができ、ぜひ保育の現場でも取り入れていきたいと思った。	声に合わせてリトミック		保育の現場でも取り入れていきたい
		15年以上30年未満	今回2回目のリトミックでした。用語もはじめて聞くことばかりでした。体験できて、体と音、リズムなど、また明日からの保育に役立ちます。もりだくさんでありがとうございました。			明日からの保育に役立つ
		年齢ごとの、実践的な活動をたくさん知りたいです。			年齢ごとの、実践的な活動をたくさん知りたい	

表 3-4 は、ワークショップで特に印象に残ったことや要望等を、回答者の立場や現職保育者の役職・経験年数でまとめたものである。自由記述の内容を「有意義だった内容」「学び・気づき」「意欲」の観点に分けて整理した。

「有意義だった内容」としては、「初めて会った方とでも楽しく参加することができた」（現職保育者・1 年未満）「自然と音楽に乗れる楽しさ」（保育者養成校学生）という意見のように、参加者が共に笑顔で接することができ、そのやりとりの中で楽しく学べたことに意義を感じていることがうかがえる。

「学び・気づき」としては、「人間関係や記憶力など1つの活動から複数の能力を育むことができる」（保育者養成校学生）という意見のように、活動においてリトミックの意義や効果を実感することができたことがうかがえる。

「意欲」としては「自分でも試してみたい」（現職保育者・1 年未満）「保育の現場でも取り入れていきたい」（現職保育者・1 年未満）「年齢ごとの、実践的な活動をたくさん知りたい」（現職保育者 15 年以上 30 年未満）のように、現職保育者の意欲的な姿勢が読み取れる。

この結果から、「特に印象に残ったことや要望等」として、他者とともにリトミックの活動を行う楽しさや、実践に取り入れたいという意欲が見られたと言える。

(3) リトミックに対するイメージの変化

ワークショップ体験後のリトミックに対するイメージの変化についての自由記述の内容を、表 3-5 に示す。

表 3-5 ワークショップ体験後のリトミックに対するイメージの変化

立場	役職等	経験年数	自由記述	学び・気づき	その他
保育者養成校学生	大学生		今までは、音楽に身体の動きを合わせるというアバウトなイメージだったが、体験を通して、音楽の拍に合わせてという、より具体的になったから。	より具体的になった	
			楽しいもの、音楽を感じられるものという印象は変化していないから。		楽しいもの、音楽を感じられるものという印象の変化は無い
			リトミックでは「3拍子・4拍子」のような拍などを説明するのではなく、リズムに合わせて体感することで学んでいくのだと分かったから。	体感することで学んでいくのだと分かった	
			自分が幼い頃にやったことがあったので、当時の印象がありました。		幼い頃の印象
			より楽しく、簡単（すぐにできるもの）だと思った。	より楽しく、簡単	
現職保育者	幼稚園教諭・保育士	1年未満	初めて会った方でもこんなにも楽しく参加できるものだと思っておらず、教育というイメージだったが、子ども目線になると遊び感覚で行えたから。	遊び感覚で行えた	
			大きな道具などは必要なく、自分の身体を使って楽しむことができるのだと気付いた。簡単なドレミとかピアノの音や歌う音に合わせても。リトミックはできるのだと思った。	大きな道具は必要ない・簡単なドレミやピアノの音や歌う音に合わせる	
		1年以上7年未満	うたとダンスと思っていたが、集中力がとともいる。	うたとダンスと思っていたが集中力が必要	
			リズムや音楽によって体を動かす心地良さや、できた！という喜びを感じることができたから。	心地よさ・できたという喜び	
			ばく然としたイメージしかなかったので、どんな風を感じるか、「空間やエネルギーを感じる」というのに意識が行くようになった。	空間やエネルギーに意識が行く	漠然としたイメージしかなかった
		7年以上15年未満	こどもの学び、そして身体の発達に必要なものだと感じた。	こどもの学び、身体の発達に必要	
			ピアノを上手にひけないと難しいというイメージだったが、簡単な曲やリズムでもできることを知り、取り入れやすいイメージになった。	簡単な曲やリズムでもできる	ピアノを上手に弾けないと難しいというイメージ
15年以上30年未満	楽しさの中に難しさがある。考えることが必要。	楽しさの中に難しさ			
主任保育士	15年以上30年未満	自由に表現するって楽しいと感じた。	自由に表現		
大員学教			気負わずに実践して良いものであることが体験してわかった	気負わずに実践して良い	
			学生時代の勉強を思い出したように感じたから		学生時代の勉強を思い出した

表 3-5 は、ワークショップ体験後のリトミックに対するイメージの変化の自由記述の内容をまとめたものである。「学び・気づき」「その他」の観点に分けて整理した。

「学び・気づき」では、「より具体的になった」（保育者養成校学生）「体感することで学んでいくのだと分かった」（保育者養成校学生）「うたとダンスと想っていたが集中力が必要」（現職保育者・1年以上7年未満）「こどもの学び、身体の発達に必要」（現職保育者・7年以上15年未満）という意見のように、リトミックに対するイメージが大きく変化していることがうかがえる。音楽に合わせて動くという活動により、ダンスやお遊戯との違いが良く分からないという人も一般的には多いため、回答者が今回実際に体験したことによって、気づきを得ることができたということが分かる。

「その他」では、「ピアノを上手に弾けないと難しいというイメージだったが、簡単な曲やリズムでもできることを知り、取り入れやすいイメージになった」（現職保育者／7年以上15年未満）という意見から、ピアノの即興演奏に壁を感じていた現職保育者が、簡単な曲で実践してみよう、という気持ちを獲得できたことがうかがえる。

この結果から、リトミックワークショップを体験することにより、回答者のイメージはより具体的になり、楽しく簡単に行えるものである等の変化が見られた。

Ⅶ まとめ

「リトミックワークショップ」の事前・事後アンケートの結果から、以下のことが言える。

- 事後アンケートでは、「リトミック体験」と「実践活動例」で、「とても有意義だった」と「少し有意義だった」を合わせた割合が約 95%であった。
- 養成校学生の回答では、「幼児教育に関する『職』への憧れが強まった」など、どの項目も、「少しあてはまる」と「とてもあてはまる」を合わせた割合が 80%を超えていた。
- ワークショップでは、養成校学生、現職保育者、大学教員がエクササイズ等で交流しながら楽しく学ぶ姿が見られた。
- 保育者養成校学生、現職保育者、大学関係者等のさまざまな立場・層の参加者にとって共通に有意義であったと言える。その理由には、初対面の参加者同士が心を通わせ、笑顔で活動することができたのは、リトミックに対する関心の高さだけではなく、様々な人と応答しながら音楽と共に動き、個々の表現を共有するリトミックの特徴に挙げられる。
- 実際に動くことでリトミックの意義や効果を身体感覚で捉えることができたため、子どもの成長と発達に活かしていきたいという意欲が高まり、幼児教育の魅力ややりがいを再確認することにつながったと言える。

なお、課題としては、「想定より養成校学生の参加者が少なかったこと」「養成校学生、現職保育者等が参加しやすい日時の設定」が挙げられる。さらに、リトミックは理論だけではなく、実際に動いて体験することで理解が深まるため、継続的な学びが大切である。そのため課題としては、単発のワークショップでは十分な学びが得られない可能性も考えられる。今回の成果と課題を踏まえ、より有意義なリトミックワークショップの実施に繋げていきたい。

千葉乳幼児教育研究会 オペラシアターこんにゃく座うたのワークショップ
参加者アンケート結果報告

【ワークショップ概要】

- ・日時：2023年11月25日（土）1回目13:00～14:45 2回目15:30～17:15
- ・場所：千葉大学教育学部附属幼稚園
- ・対象：幼児教育に関心のある高校生、現職保育者（幼稚園教諭・保育士等）、保育者養成校学生等
- ・内容：アイスブレーキング 円になって

1回目 好きな物とともに自己紹介し、それを繋げる
2回目 ショックだった出来事
こんにゃく体操で身体と心をとほぐす
オペラ「ピノッキオ」の歌い合い

まずは、参加者は半円状になって座り、参加者と講師、そして参加者同士がお互いを知るアイスブレーキングから始まった。1回目のワークショップでは、自分の好きな人・モノ・コトをエピソードを通して紹介する。隣に座る参加者は、それを受けて隣の人を再度紹介しながら、自分も自己紹介していく。例えば、「〇〇が好きな□□さんの隣の△△が好きな◇◇です」、といった感じである。それが次々と続いたため、「〇〇が好きな□□さんの隣の△△が好きな◇◇さんの隣の××が好きな▽▽です」、と隣の人の紹介が増えていくため、参加者は好きな人・モノ・コトを手がかりにお互いのことを認識して覚えていくのである。一般的に一度名前を聞いただけでは、なかなか覚えることが難しい。それが各自の好きな人・モノ・コトについて、エピソードを交えて聞くことによって、印象に残りお互いを認識し合うことができ、すでに参加者は一体感を持ってこの時間を楽しみ、心をとほぐしているのである。

続くこんにゃく体操では、からだを揺らしながら余計な力を抜いて脱力することを体感し、大地に対して「まっすぐ立つ」ことを目指した。こうして、心もからだもときほぐされた状態で、いよいよ「ピノッキオ」のテーマを歌う。ホワイトボードに書かれた歌詞を音読する。言葉なりに音読すると、それがすでにテーマ曲のリズムとなっている。そのリズムに今度はメロディをのせていく。あっという間に歌えるようになる。しかし、ただ「声を出して歌う」だけでなく、その言葉に表されている意味や気持ちを伝えるために、どうやって「歌う」か、それを表すひとつの手段として、からだの動きと合わせて表現を楽しんでいく。保育歴ベテラングループ、保育歴若手グループ、養成校学生・高校生グループと分かれて、お互いに歌い合い表現を聴き合い、見合う。同じ曲を歌っているのに、表現の仕方は様々であり、お互いの表現を尊重したり、時には憧れたり、真似たりと歌い合うことを楽しんだ。

- ・講師：オペラシアターこんにゃく座 岡原真弓氏・入江茉奈氏
ピアニスト 湯田亜希氏
- ・アンケート回答者：参加者23名中22名（回収率95.7%）

※ 以下の結果では「未記入」の回答は除いて分析を行った。各項目で「未記入」の数が異なり項目全体の回答数が異なることから、同じ回答人数であっても割合（%）が異なっている場合がある。また、割合は小数点第1位を四捨五入していることから回答人数が異なっても割合が同じ数値になっている場合がある。

【オペラシアターこんにゃく座 概要】

オペラシアターこんにゃく座は、[新しい日本のオペラの創造と普及]を目的に掲げ、1971年に創立されました。母体となったのは、東京芸術大学内で1965年から12年間にわたって活動が続いた学生たちのサークル「こんにゃく体操クラブ」です。このクラブでは、故宮川睦子氏（元東京芸術大学名誉教授）指導のもとに、身体訓練と演技の基礎訓練が行われました。この「こんにゃく体操クラブ」出身者たちにより、自国語のオペラ作品をレパートリーとし、恒常的にオペラを上演する専門のオペラ劇団としてオペラシアターこんにゃく座は設立され、巡回公演を開始しました。

日本にオペラが紹介されてから今日に至るまで、日本では、ヨーロッパで通用するオペラ歌手の育成に力を注いでいます。その結果、日本語を歌う技術がなおざりにされ、観客は聞き取れない日本語の歌を聞かされ続けています。そのなかで、こんにゃく座はよく聞き取れる、すなわち内容の伝わる歌唱表現を獲得することを、創立当初からの目的とし、その成果は各方面からの評価を得るに至っています。

こんにゃく座はまた、オペラの演劇性を重視し、こんにゃく体操で培われた身体性を駆使し、演出面にも斬新な発想を提示し続けています。そして大掛かりなグランド・オペラの方角とはらず、ピアノのみ、あるいは小編成のアンサンブルの演奏と少人数の出演者による作品を創作し、数多くの上演を重ねています。

作曲家・林光（1931-2012）は1975年より音楽監督、座付作曲家を、1997年より芸術監督を務めました。現在、萩京子を代表・音楽監督とし、約40名の歌手を擁し、年間およそ250公演の上演活動を続けています。

（オペラシアターこんにゃく座 ホームページより）



アイスブレイキング



こんにゃく体操



講師による実演



グループごとの発表
(養成校学生・高校生グループ)



グループごとの発表
(現職保育者グループ)



参加者全員での表現

I 回答者について

(1) 回答者の性別

ワークショップに参加した回答者の性別を図 4-1 に示す。

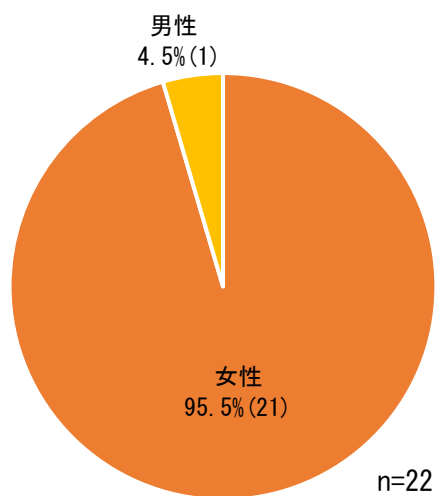


図4-1 回答者の性別

図 4-1 から、回答者は女性が 95.5% (21 名) で、男性が 4.5% (1 名) であった。

(2) 回答者の立場

研究会に参加した回答者の立場を図 4-2 に示す。

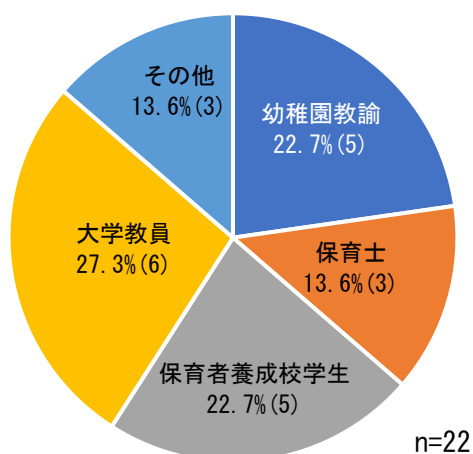


図4-2 回答者の立場

図 4-2 から、回答者の立場は、大学教員が 27.3% (6 名) で最も多かった。その他は多い順に、「幼稚園教諭」が 22.7% (5 名)、保育者養成校学生 22.7% (5 名)、「保育士」「その他」がそれぞれ 13.6% (3 名) であった。「その他」の内訳は、高校生 2 名、高校教員 1 名であった。

(3) 保育者養成校学生の学年

回答した保育者養成校学生の学年を図3に示す。

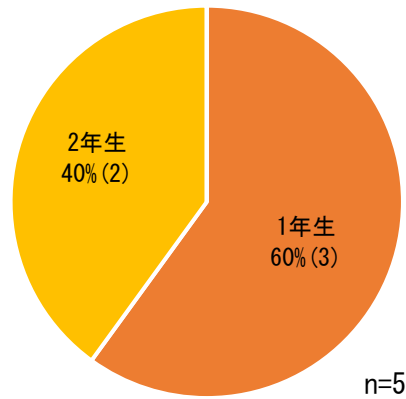


図4-3 保育者養成校学生の学年

図3から、回答した保育者養成校学生の学年は1年生が60%（3名）、2年生が40%（2名）であった。また、1年生は4年制大学の学生、2年生は短期大学の学生であった。

(4) 保育者の勤務先での役職

回答した保育者の勤務先での役職を図4-4に示す。

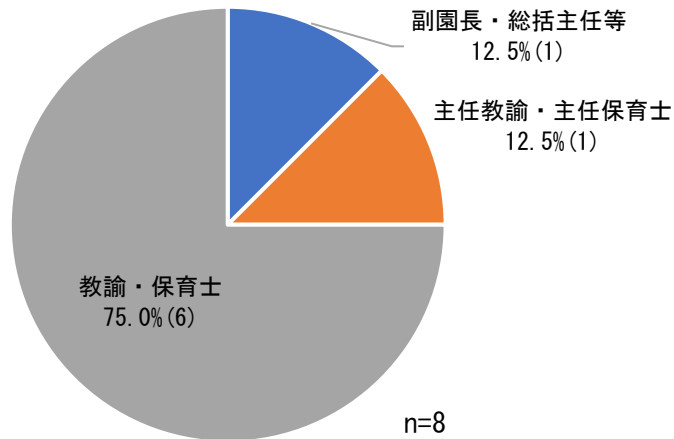


図4-4 保育者の勤務先での役職

図4-4から、回答した保育者の勤務先での役職は「教諭・保育士」75.0%（6名）が最も多く、次いで、「主任教諭・主任保育士」「副園長・総括主任等」がそれぞれ12.5%（1名）であった。

(5) 保育者の経験年数

回答した保育者の経験年数を図 4-5 に示す。

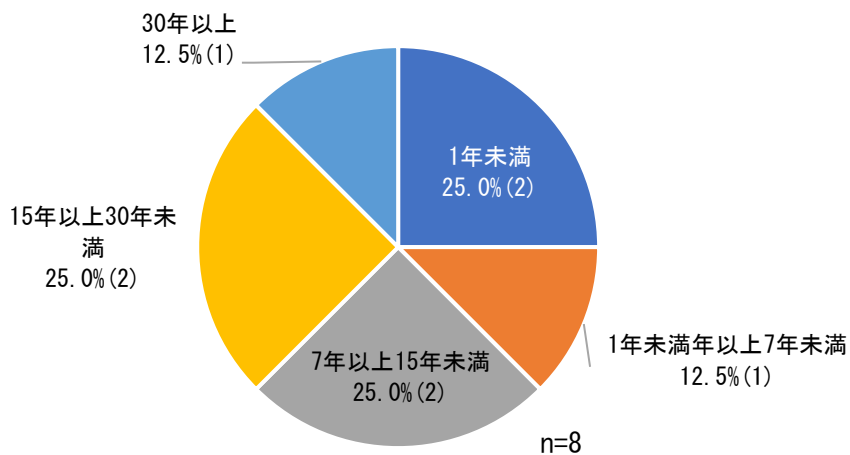


図4-5 保育者の経験年数

図 4-5 から、回答した保育者の経験年数は「1年未満」「7年以上15年未満」「15年以上30年未満」がそれぞれ 25.0%（2名）、「1年以上7年未満」「30年以上」がそれぞれ 12.5%（1名）であった。

Ⅱ ワークショップへの参加について

(1) ワークショップをどのように知ったか

回答者がワークショップを知った方法を図4-6に示す。

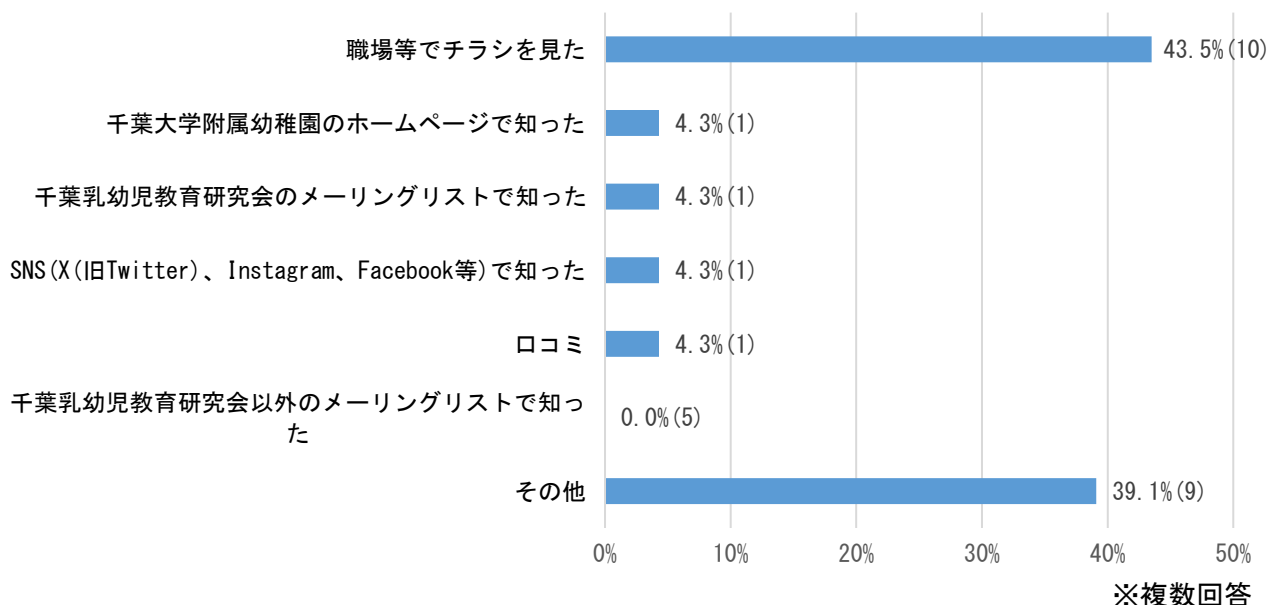


図4-6 ワークショップをどのように知ったか

図4-6から、ワークショップを知った方法として多かった順に示すと、「職場等でチラシを見た」43.5% (10名)、「その他」39.1% (9名)、「千葉大学附属幼稚園のホームページで知った」「千葉乳幼児教育研究会のメーリングリストで知った」「千葉乳幼児教育研究会以外のメーリングリストで知った」「SNS(X(旧Twitter)、Instagram、Facebook等)で知った」「口コミで知った」がそれぞれ4.3% (1名)であった。「その他」の回答の具体的な内容は、「大学教員からの紹介」(同様の回答計6)、「主催していたから」(同様の回答計2)、「同僚から情報が届いた」(同様の回答計1)であった。職場等に配布されたチラシを見たり、知己のある大学教員から紹介されたりしてワークショップを知った回答者が多いと言える。

この結果から、チラシの配布だけでなく、個人的な紹介等もワークショップの周知に有効であると言える。

(2) ワークショップに参加した目的・理由

回答者がワークショップに参加した目的・理由を図 4-7 に示す。

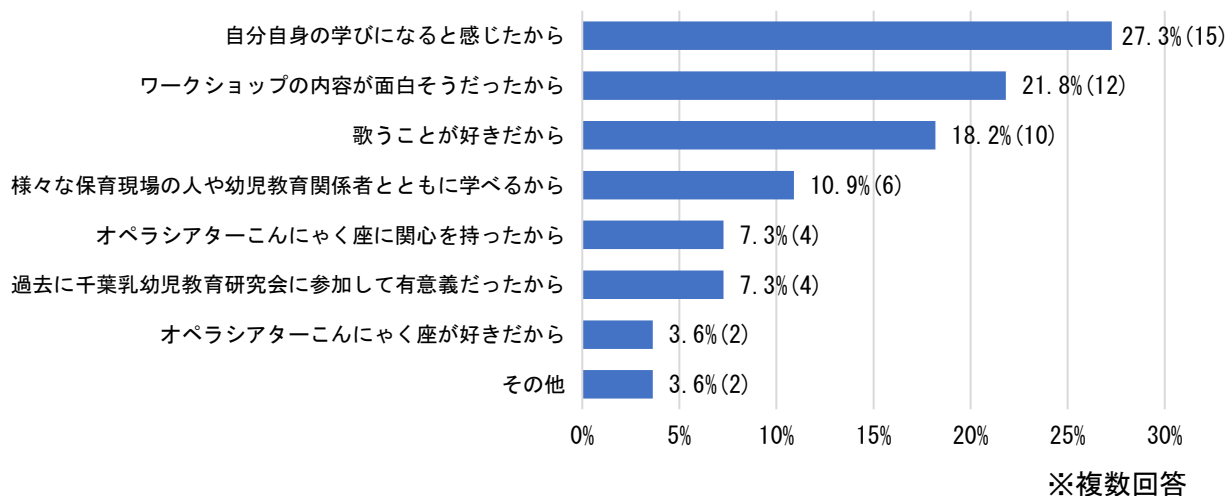


図4-7 ワークショップに参加した目的・理由

図 4-7 から、ワークショップに参加した目的・理由として多かった順に示すと、「自分自身の学びになると感じたから」27.3% (15 名)、「ワークショップの内容が面白そうだったから」21.8% (12 名)「歌うことが好きだから」18.2% (10 名)、「様々な保育現場の人や幼児教育関係者ととともに学べるから」10.9% (6 名)、「オペラシアターこんにゃく座に関心を持ったから」「過去に千葉乳幼児教育研究会に参加して有意義だったから」それぞれ 7.3% (4 名)、「オペラシアターこんにゃく座が好きだから」「その他」それぞれ 3.6% (2 名) であった。「その他」では「日本語の歌に強い関心があるから。身体と心の関係に興味をもっているから」「園長からすすめられたから」という理由が挙げられていた。ワークショップの内容が自分自身の学びにつながる・面白いと感じたりして参加することにした回答者が多いことが分かる。また、「うたのワークショップ」であったことから、回答者自身が「歌うことが好き」ということも参加理由の 1 つとして挙げられていた。

この結果から、自己研鑽を目的にワークショップの内容にひかれ回答者した人が多かったと言える。

Ⅲ ワークショップに参加した感想について

(1) ワークショップの内容

回答者のワークショップの内容に関する感想の結果について、図 4-8 に示す。

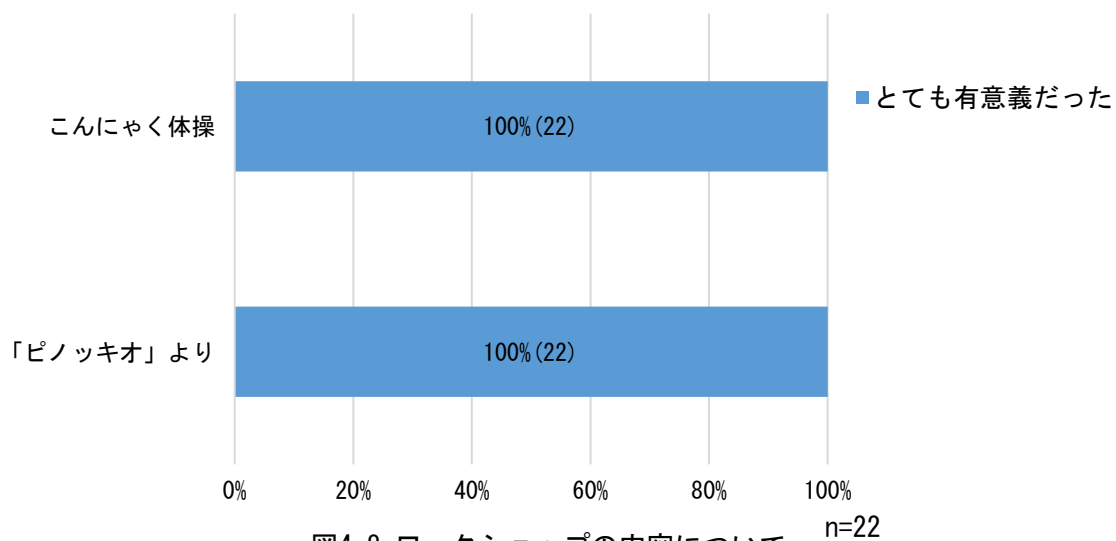


図4-8 ワークショップの内容について n=22

図 4-8 は、ワークショップの内容がどのくらい有意義だったのかを、「こんにやく体操」「ピノッキオより」それぞれについて尋ねた結果である。全員が「とても有意義だった」と回答していた。

この結果から、回答者はワークショップの独創的な内容に満足し、高く評価していたと言える。

(2) ワークショップの時間について

回答者のワークショップの時間に関する感想の結果について、図 4-9 に示す。

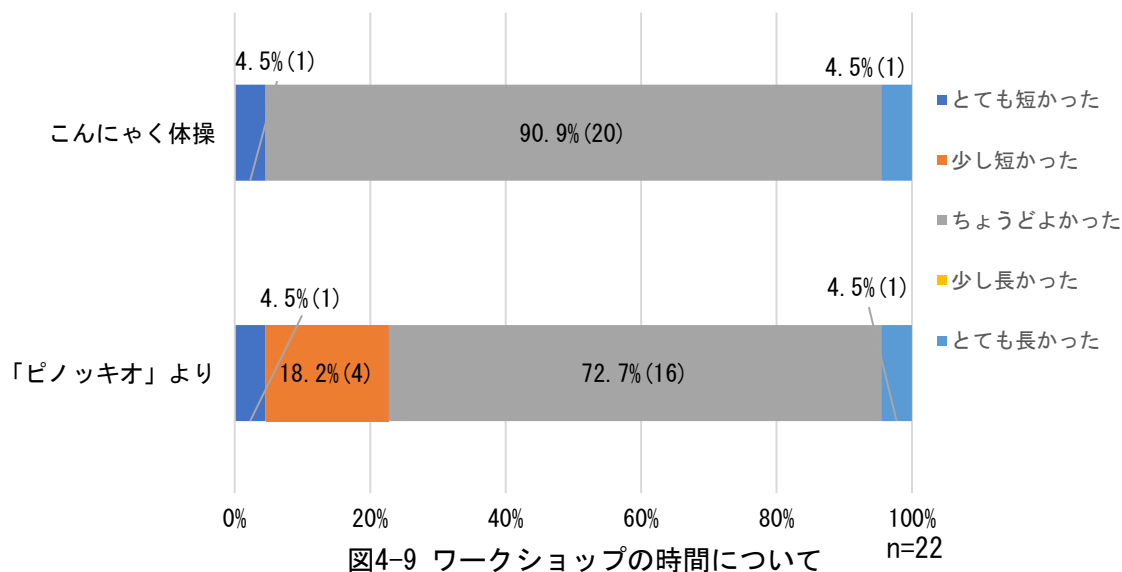


図 4-9 は、ワークショップの時間について、「こんにやく体操」「ピノッキオより」それぞれについて尋ねた結果である。時程では、ワークショップ 1 回につき 105 分であった。

こんにやく体操については、「ちょうどよかった」が 90.9% (20 名) であった。「とても長かった」と回答した回答者は 1・2 回目両方のワークショップに参加したことが理由として考えられる。

「ピノッキオ」よりについては、「ちょうどよかった」が 72.7% (16 名)、「少し短かった」18.2% (4 名)、「とても長かった」4.5% (1 名)、「とても短かった」4.5% (1 名) であった。こんにやく体操と比較すると、もっと歌い合いをしたかったと感じた回答者がいたことがうかがえる。

この結果から、ワークショップ全体としては時間的に「ちょうどよかった」と感じている回答者が多く、適切だったと言える。

(3) ワークショップの感想について

回答者のワークショップの感想について、図 4-10 に示す。

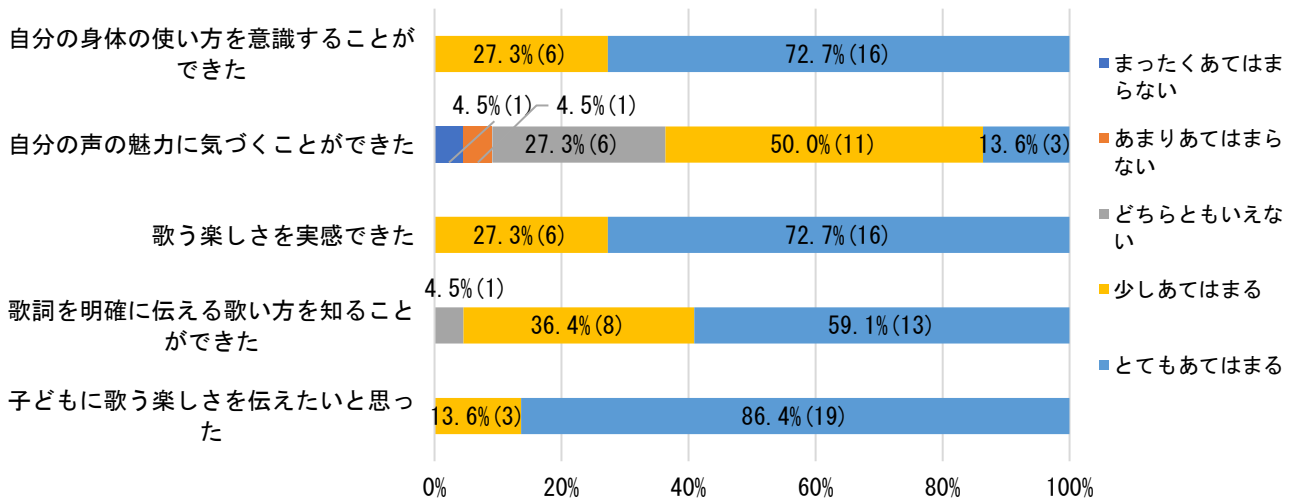


図4-10 ワークショップの感想について n=22

図 4-10 は、ワークショップの感想について尋ねた結果である。5 項目中 4 項目は「とてもあてはまる」「少しあてはまる」がほとんどを占めていて、「とてもあてはまる」の回答の割合の高い順に示すと「子どもに歌う楽しさを伝えたいと思った」86.4%(19 名)、「自分自身の身体の使い方を意識することができた」「歌う楽しさを実感できた」それぞれ 72.7%(16 名)、「歌詞を明確に伝える歌い方を知ることができた」59.1%(13 名)であった。ワークショップで回答者自身が「ピノッキオの歌」を歌ったり、「こんにやく体操」で色々な身体の動きを経験したりして楽しんだことで、子どもたちにも伝えたいという思いにつながっていったと考えられる。また、「ピノッキオ」の歌を参加者で歌い合う際に、講師の方が実際に実演したことが「歌詞を明確に伝える歌い方を知ることができた」と感じたのと推察される。

「自分の声の魅力に気づくことができた」については結果が分散し、回答が多い順に示すと「少しあてはまる」50%(11 名)、「どちらともいえない」27.3%(6 名)、「とてもあてはまる」13.6%(3 名)、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」それぞれ 4.5%(1 名)であった。1 回目のワークショップでは、ピノッキオの歌を参加者がグループに分かれて表現した為、自分の声を意識する場面が少なかったと思われる。また、2 回目のワークショップには 1 回目にも参加したり 1 回目の様子を見ていたりした回答者が多く、歌を歌うよりも自分の表現を楽しむ時間が多かったことが影響した結果と思われる。

(4) ワークショップでの経験を、自分の立場で今後どのように活かしていくか

ワークショップでの経験を、自分の立場で今後どのように活かしていくかについての自由記述の回答を、表 4-1 に示す。

表 4-1 ワークショップでの経験を、自分の立場で今後どのように活かしていくか

立場	経験年数	自由記述	保育者が表現する	表現を楽しむ機会を作る	子どもと表現を楽しむ	保育者養成で活かす	高校で活かす
保育者養成校学生		これから幼児教育を学ぶにあたって、楽しさを感じながら行っていきたいと思った。	楽しさを感じながら行う				
		音楽と言葉をそれぞれ大切に、歌っていきたい。	音楽と言葉を大切に歌う				
		授業などで体を動かして表現する機会があったときに、恥ずかしがらずに思いきって表現したいと思う。	思い切り表現する				
		子ども達と楽しむためには、自分も楽しむことが大事だとわかりました。これから、保育者になったときに活かしたいと思います。	子どもと楽しむには自分も楽しむ				
	保育の現場で、歌うだけではなく、身体を使う楽しさを、自分が手本になるように、伝えていきたい。	身体を使う楽しさを自分が手本になるように伝えていく					
幼稚園教諭 ・ 保育士	1年未満	子どもとダンスを考えて踊りたいと思いました！ 歌うことや身体を動かすこと、表現することの楽しさを子どもたちにも伝えていきたい。		子どもとダンスを考えて踊る			
	1年以上7年未満	自らの表現で音を楽しめるように活用していきたい。			自らの表現で音を楽しめるようにする		
	7年以上15年未満	現場ではポップな音楽に合わせて身体を動かす体操をすることが多いので、身体を柔らかく使ったり脱力したりするこんにやく体操の動きを子ども達と一緒に楽しみたいと思いました。			こんにやく体操の動きを楽しめるようにする		
	15年以上30年未満	体を自由に動かしながら歌うことで心が解放されると感じました。子どもたちとやる時に「歌うこと」を考えてしまうとどうしても動くということを同時に行えないのですが時には動きながら歌うこともよいと思いました。	動きながら歌う		身体を動かしながら歌うことで心が解放される		
主任教諭	7年以上15年未満	歌うことが大好きだと徐々に実感し、子どもたちと一緒に歌いたいなと感じた。 人前に出ることや自分を表現することが苦手な子が多いので、自分なりに歌に振つけをつけてみんなで踊ったり、ポーズを真似っこしたりと楽しく表現できる時間を作ってみたいと思います。		子ども達と一緒に歌う			
管理職	30年以上	活かす機会の少ない立場であり残念ですが、子どもたちに伝えたり、一緒に歌う場面で活かせればとおもいます。ことばを大切に伝えていきたいです。このことについて余り考えたことがありませんでした。	言葉を大切に伝えていく				
大学教員		歌を指導することも多くありますので、これまでよりも心と身体の関係に着目し、たのしく、教えることに生かしたいと思います。ピアノの指導にも、身体について、よりイメージと結びつけていきたいと思いました				心と身体の関係に着目するピアノの指導の際に身体イメージと結びつける	
		学生たちに歌う楽しさを伝えていきたいです				歌う楽しさを伝える	
		学生とミュージカル製作中なので身体の使い方を教えない				ミュージカルの際、身体の使い方を伝える	
高校教諭		幼児教育における表現の楽しさの経験が大切であることを学生に伝えたい				表現する楽しさを経験する大切さを伝える	
高校生		人前で発表する際、はずかしがらずにできるよう指導していきたい				人前で恥ずかしがらずに発表できるようにする	
		教員基礎コースの活動で子どもと関わる機会がすごくあるのでその計画とか、歌とか振りとかで活かしていきたいです。 私はまだ保育の経験をしたことが少なく、わからないことが沢山ある中で子どもに歌う楽しさの伝え方を今回の体験をもとに伝えていきたいと思いました。					高校の活動で子どもと関わるときに、歌や振りで活かす 歌う楽しさを伝える

表 4-1 は、ワークショップでの経験を自分の立場で今後どのように活かしていくかについての自由記述の内容を、回答者の立場や現職保育者の役職・経験年数でまとめたものである。今後の活かし方については「保育者が表現する」「表現を楽しむ機会を作る」「子どもと表現を楽しむ」「保育者養成で活かす」「高校で活かす」の観点に分けて整理した。

立場によって、感想に違いがみられた。保育者養成校学生はすべて「保育者が表現する」に該当する感想になっている。現職保育者は「保育者が表現する」「表現を楽しむ機会を作る」「子どもと表現を楽しむ」の3つに該当する。大学教員と高校教諭は「保育者養成で活かす」に当てはまる。また、高校生は「高校で活かす」に該当する。

「保育者が表現する」では、「音楽と言葉を大切に歌う」という気づきを得た保育者養成校学生がいるなど、ワークショップで表現を経験する中で保育者養成校学生が保育者になったときのことを想像していた。また、現職保育者は改めて表現活動を行う上で大切にすることを意識していたことが分かる。

「子どもと表現を楽しむ機会を作る」では、現職保育者がワークショップで歌って楽しんだことで、子どもと一緒に楽しみたいという思いを新たにしていた。

「子どもと表現を楽しむ」では、ワークショップの内容をふまえて、「こんにやく体操」の動きや自分なりに表現する経験をできるようにして、「心が解放される」(現職保育者/15年以上30年未満)喜びを子ども達に味わってほしいという思いを抱いていた。

「保育者養成で活かす」では、「ピアノの指導の際に身体のイメージと結びつける」「ミュージカルの際、身体の使い方を伝える」など、大学教員が学生への具体的な指導場面と結びつけながら、表現する楽しさを伝えていこうとしていた。また、保育を担当している高校教諭は、「人前で発表する際、恥ずかしながらにできるよう指導していきたい」と高校生の表現活動への臨み方について感想を述べていた。

「高校で活かす」では、参加した高校生が学校の活動で子どもと関わる際に、今回のワークショップで味わった、歌う楽しさを伝えたいという感想があった。

この結果から、「オペラシアターこんにやく座」のワークショップの経験は、保育実践において保育者自身が言葉を大切に表現することや子どもと一緒に楽しむこと等に生かしたいという意欲に繋がったと言える。また、歌う楽しさを伝える等保育者養成に生かすことに繋がっていた。

(5) 保育者のみに尋ねた、保育現場で歌唱活動を行うにあたって、悩んだり困ったりしていること

保育者のみに尋ねた、保育現場で歌唱活動を行うにあたって、悩んだり困ったりしていることの自由記述の内容を、表 4-2 に示す。

表 4-2 保育現場で歌唱活動を行うにあたって、悩んだり困ったりしていること

立場	経験年数	自由記述	歌唱活動の目的	演奏技術	子どもの姿	環境
幼稚園教諭	1年未満	決められた歌を歌うべき、歌詞通りに歌うべきという歌唱の時間が多く、自由に即興的に音楽を楽しむことがもっと広まってほしいと思います！	決められた歌を歌詞通りに歌うことに費やされる時間の多さ			
	7年以上15年未満	・歌う目的が行事の為になってしまう場合があり、それに合わせて練習することに少し疑問を感じることもある。(日数が足りず、かけ足気味になることも) ・一部の子だけ大きな声で歌い、他の子は口パクになるなど、周りに任せきり？になる子が多い。(歌えないわけではないのに…)	行事の為の歌唱練習		意欲的に歌う子と周りに任せる子の差	
	15年以上30年未満	歌をうまくうたう、よりも、楽しく歌えるようにしたいです。が、歌の技術的なところを伝えることも必要なのか—どうなのか—いつも迷います。	歌の技術的な部分を伝えることへの躊躇			
		ピアノ等伴奏が苦手			ピアノ伴奏への苦手意識	
保育士	7年以上15年未満	教室にピアノ(やキーボード)が無いのでアカペラ？での歌唱になる。3歳児にふさわしい歌とは？歌唱に求めるものとは？(楽しさ？正しさ？)	担当年齢にあった歌や歌唱の目的			クラスにピアノ等が無いこと
		歌声が正しい音程に合わないことが気になって自信をもって歌うことが難しい。ピアノが苦手なので弾き歌いをしようとしても集中できない。			ピアノ伴奏への苦手意識	

表 4-2 は保育者のみに尋ねた、保育現場で歌唱活動を行うにあたって、悩んだり困ったりしていることの自由記述の内容を、経験年数でまとめたものである。悩みや困りごとは、「歌唱活動の目的」「演奏技術」「子どもの姿」「環境」の観点に分けて整理した。

参加した現職保育者の内 8 人中 6 人が回答しており、経験年数によらず歌唱活動に難しさを感じていることが分かる。

「歌唱活動の目的」では、行事の為であったり、保育者が選んだ歌を正しく歌ったりするなど保育者主導の活動になりがちな点に疑問を抱いていた。また、担当している子どもの発達に合った歌がどのようなものか、歌唱活動の際に技術的な部分について伝えるべきか迷うという悩みがあることが分かる。

「演奏技術」については、ピアノ伴奏への苦手意識が挙げられていた。

「子どもの姿」では、子どもの取り組み方に差があることに悩んでいることが分かる。

「環境」としては、クラスにピアノが無く、歌唱活動を行う際に正確な音程を知らせることが難しい状況がうかがえる。

この結果から、保育現場の現状においては、歌唱活動の目的に対する葛藤があると言える。

(6) 保育者養成校学生にのみ尋ねたワークショップの感想

回答者のうち保育者養成校学生にのみ尋ねたワークショップの感想を、図 4-11 に示す。

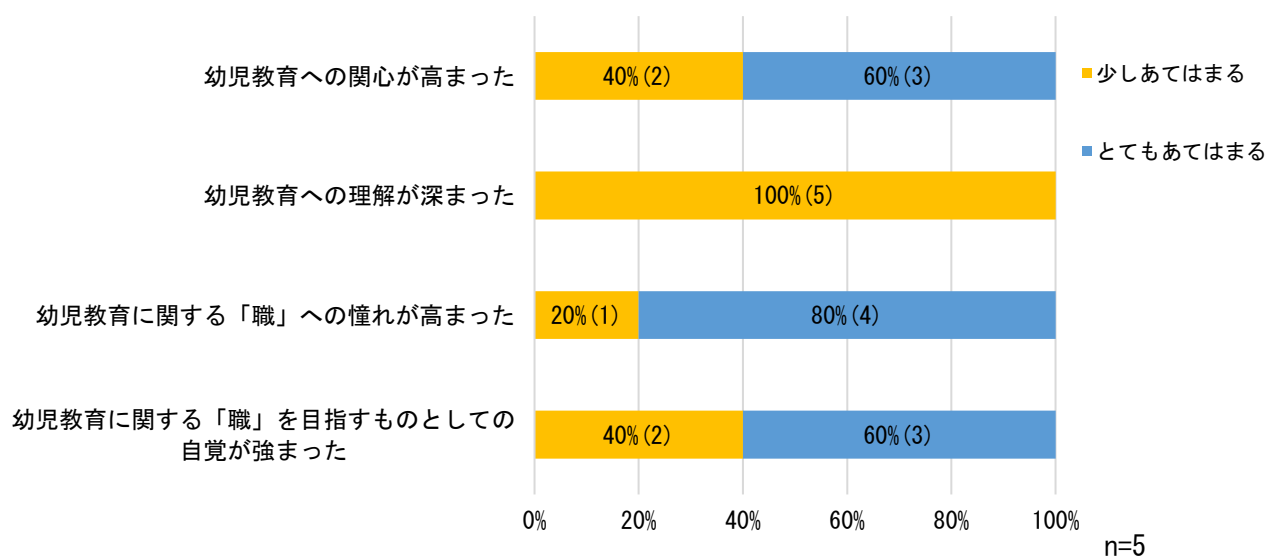


図4-11 ワークショップの感想について（保育者養成校の学生・院生）

図 4-11 は、保育者養成校学生にのみ、ワークショップの感想として、幼児教育への関心や幼児教育に関する「職」への憧れ等を尋ねた結果である。「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」「どちらともいえない」が選択された項目はなかった。

「とてもあてはまる」の回答が多かった順に示すと「幼児教育に関する『職』への憧れが高まった」80% (4 名)、「幼児教育への関心が高まった」「幼児教育に関する『職』を目指すものとしての自覚が強まった」60% (3 名ずつ)であった。

この結果から、ワークショップを通して、保育者養成校学生は特に幼児教育に関する「職」への憧れを高めていたと言える。この背景としては、保育者養成校学生は全員 1 回目のワークショップに参加し

た。1 回目のワークショップでグループ毎にピノッキオの歌を歌いながら表現する際に、同じグループの中に現役保育者がいたりベテラン保育者のグループが発表したりした。そのことにより、保育者の表現を間近で見たことが憧れの気持ちにつながっていったことが推察される。

(7) ワークショップに参加して、特に印象に残ったことや要望等

ワークショップに参加して特に印象に残ったことや要望等を、表 4-3 に示す。

表 4-3 ワークショップに参加して特に印象に残ったことや要望等

立場	経験年数	自由記述	学び・気づき	意欲	有意義だった内容	要望・その他
保育者養成校学生		講師の方々の話がとてもおもしろかったし、保育者の方々のダンスが見ている側もすごく楽しかった。自分もあのようになりたいと思った。		講師のように話したり、保育者のように表現できるようになったりしたい		
		先生方の歌が聞きやすいのは、言葉や歌詞の雰囲気や大切にしているからなのかと思った。大工の頭領の歌のときのかんながけの音が本物のようで、聞いていて楽しかった。	言葉や歌詞を大切にしているから、歌が聞きやすいということ			
		グループごとに分かれて表現を見てみると、人によって様々でベテランの先生方の表現は1つ1つがはっきりしていて、いつか自分もあのように思いきって表現できるようになりたいと感じた。		ベテラン保育者のように表現できるようになりたい		
		こんなにやく体操がとても印象に残り、自分の体がかたいことに気が付きました。	自分の身体の固さ			
		恥をすてて楽しむことが大事だと感じた。	恥を捨てて楽しむことが大事であること			
幼稚園教諭 ・ 保育士	1年未満	たのしくたい踊ることができかったです。踊りも即興でこうやって考えられることを体験的に学ぶことができ有意義な時間になりました。ありがとうございました！	踊りを即興で考えられること			
	1年以上7年未満	楽しかったです。ありがとうございました。				
	7年以上15年未満	岡原さんの歌声の通り方・響き方がとてもクリアで鳥肌が立ちました。岡原さんも入江さんも表情や動きが大きくコロコロかわって自分も同じようにできたら子どもたちの表現が大きくなるのだろうなと思いました。	保育者の表現で子どもの表現が変わること			
	15年以上30年未満	個の力が小集団にいかされたり、他の方の力に影響を受けよりよいものになったりするのが面白かったです。	個の力が集団に活かされたり、他の人に影響を受けたりしてより良い表現になること			
主任教諭	7年以上15年未満	何も特別なことでなくても、人からほめてもらおうと大人でも嬉しいなと感じました。子ども達にもたくさんほめながら保育していきたいと思えます。(気になる言動などがどうしても目につき、注意することが多くなりがちなので)		子どもをたくさんほめながら保育していきたい		
管理職	30年以上	笑顔で表現することや歌うことの楽しさを改めて感じることができました。大人でもいろいろな刺激を頂けて、こんなにやく座の皆様へ感謝です。	笑顔で表現することの楽しさ			
大学教員		とてもたのしいひとときでした。身体を動かしながら歌うことはあまりなかったので自分の身体の不自由さに気付いた時間となりました。きもち心はつながっていると改めて感じました!!	自分の身体の不自由さ 気持ちと心のつながり	声だけにしない指導を心がけていきたい		
		同じ曲(1回目と2回目)でも、いろいろなアプローチの仕方があるのだな、と勉強になりました。	同じ題材への色々なアプローチの仕方			
		こんなにやく座さんのWSの進め方、内容とてもテンポよく、たのしめました。リラックスして参加できました。			テンポの良いWSの進め方・内容	
高校教諭		身体をほぐし方や歌ってアクションするまでの過程がスムーズで流れに乗って参加することができました。また機会があれば参加してみたいと思えます。＊パネルシアターやペープサートをやっているの、それらの講座も興味あります。あったら参加したい!			身体をほぐしてから歌うまでの流れ	パネルシアターやペープサートについての講座を開いてほしい
高校生		1つのふりつけにこだわらず、自分の頭を回転させて様々なふりつけを考えることがすごく楽しかったけど、楽しかったです。新しい自分を発見できると思いました。	柔軟な発想で振付を考えることの難しさ 新しい自分			
		参加者のみなさんが楽しく接してくれて、歌も表現も恥しがらず、楽しく行うことの大切さを知ることが出来ました。また、保育経験がある方は表現の工夫や発表の仕方にすごく魅力があるなと思いました。	保育者の表現の工夫や発表の仕方の魅力			

表 4-3 は、ワークショップに参加して印象に残ったことや要望等を、回答者の立場や現職保育者の役職・経験年数でまとめたものである。回答者の感想は「学び・気づき」「意欲」「有意義だった内容」「要望・その他」の観点に分けて整理した。

全体として、立場によらず、「学び・気づき」「意欲」の感想が多かった。

「学び・気づき」では、保育養成校学生と大学教員の中に、こんにやく体操を通して自分の身体の固さや不自由さに気付いた回答者がいた。また、別の保育者養成校学生は、講師の歌が聞きやすい理由として「言葉や歌詞を大切にしているから」という気づきを得ていた。現職保育者は、自身が「笑顔で表現する楽しさ」(管理職/30年以上)だけでなく、「個の力が集団に活かされたり、他の人に影響を受けたりしてより良い表現になる」(幼稚園教諭/15年以上 30年未満)という相互作用の過程を目の当たりにしたことが分かる。1回目と2回目両方に参加した大学教員からは、「同じ題材への色々なアプローチの仕方」を学んだという感想があった。高校生は、即興で動きを考える難しさを経験しながらも新しい自分に気づいたり、現職保育者の表現や発表の仕方に魅力を感じたりしていた。

「意欲」では、保育者養成校学生が講師や現職保育者の表現を間近に見て、憧れの気持ちを抱いたことが分かる。現職保育者は、講師の「自らの中に表現がある」という言葉に感銘を受けて、様々な表現をしていきたいと感じたり、ワークショップで自分の表現を認められた嬉しさから、子ども達のことをほめていきたいという思いに繋がったりしていた。

「有意義だった内容」としてはワークショップの進行の仕方が挙げられ、アイスブレイクをしてからこんにやく体操をして心身をほぐし、「ピノッキオの歌」を歌うという流れが参加者にとって無理のない流れだったことが分かる。

「要望・その他」としては、保育を担当する高校教諭から「パネルシアターやペープサートについての講座を開いてほしい」という今回とは異なった表現活動について取り上げてほしいという意見があった。

この結果から、「特に印象に残ったことや要望等」として、自分の身体に対する気づきや講師やベテラン保育者のような表現への憧れや、表現活動における指導への意欲等が見られたと言える。

V まとめ

「オペラシアターこんにやく座うたのワークショップ」の参加者アンケートの結果から、以下のことが言える。

- 様々な立場の参加者が交流して活動し、身体や声で表現したりして気持ちを伝えることの大切さを、グループで交流しながら楽しく学ぶ姿が見られた。
- 事後アンケートでは、それぞれの立場から、型にとらわれずに表現する楽しさと幼児教育における表現活動への示唆を得たことに関する感想が多くみられた。
- 「オペラシアターこんにやく座」によるワークショップは、養成校学生の幼児教育に対する理解や憧れ、現職保育者の実践への意欲等に繋がった。

なお、課題としては、「想定より養成校学生の参加者が少なかったこと」と「高校生、養成校学生、現職保育者等が参加しやすい日時の設定」が挙げられる。

資料

千葉大学教育学部学校教員養成課程乳幼児教育コース「幼児教育☆サマーセミナー」

チラシ

高校生アンケート用紙

在校生アンケート用紙

附属幼稚園教諭アンケートフォーム

千葉乳幼児教育研究会 幼児教育の「今」を語り合おう！—国の動向と保育現場の声—

チラシ

参加者アンケート用紙

リトミックワークショップ

チラシ

事前アンケート用紙

事後アンケート用紙

千葉乳幼児教育研究会 オペラシアターこんにやく座うたのワークショップ

チラシ

参加者アンケート用紙」

文部科学省「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業
（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」

千葉大学教育学部学校教員養成課程 乳幼児教育コース

幼児教育☆サマーセミナー

千葉大学教育学部附属幼稚園で、園見学・在校生との交流を通して
「幼児教育」の魅力に触れてみませんか？



- 日時：2023年7月29日（土） 1回目：13:00～14:50 2回目：14:30～16:20
- 場所：千葉大学教育学部附属幼稚園
（JR西千葉駅北口から徒歩1分、京成線みどり台駅から徒歩10分、千葉大学南門を入れて右手）
- 対象：幼児教育に関心のある高校2年生、3年生、既卒者の方。
※保護者のご参加は受け付けておりません。
- 定員：80名（各回40名）先着順。定員に達した時点で申込受付を終了します。
- 内容：乳幼児教育コース教員の研究紹介・附属幼稚園見学・在校生との交流。

参加費:無料

1回目	12:30	13:00	13:05	13:15	13:30	13:40	14:10	14:40	14:50
活動	受付	開会・説明等	教員研究紹介	附属幼稚園紹介	移動	園見学	在校生との交流	諸連絡・解散	
2回目	14:00	14:30	14:35	14:45	15:00	15:10	15:40	16:10	16:20

- 申込方法：以下のURLまたは2次元バーコードから
申込フォームで申し込んでください。

<https://forms.gle/Cjk1hEK9dxkfmv9V6>



- お問合せ先：千葉大学教育学部入試係
hai2514@office.chiba-u.jp

後援：千葉県教員委員会 千葉大学は、千葉県教育委員会と協働して様々な連携事業を行っています。

「幼児教育☆サマーセミナー」参加者アンケート（高校生）



このアンケートは、文部科学省『大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）』の一環として実施される「幼児教育☆サマーセミナー」の参加者の感想等を検討することを目的としています。

まず、以下の点をご確認の上、アンケートに回答していただける場合は、下の欄にチェック（☑）と日付を記入してください。

1. 調査で得られた結果を研究以外の目的で使用することは一切ありません。
2. 今回のアンケートの回答内容から個人が特定されることはありません。ご協力いただいた方のデータは匿名で扱い、秘密やプライバシーは厳守します。
3. アンケートの中で、答えたくない質問にはお答えいただかなくて結構です。アンケートの回答を途中でやめることもできます。それらによって、アンケート回答者に不利益が生じることはありません。
4. アンケートによって得られたデータは、研究終了後には責任をもって適切に処分します。

「私は上記の説明を読んだ上で、このアンケートに回答することに同意します。」

チェック欄

20 年 月 日

チェック（☑）と日付を記入されましたら、以下の質問に答えてください。

1. あなた自身のことについてお尋ねします。

(1) あなたの性別について、あてはまるものに○をつけてください。

- ① 女 ② 男 ③ 無回答

(2) あなたの学年について、あてはまるものに○をつけてください。

- ① 高校2年生 ② 高校3年生 ③ 既卒者

(3) あなたは将来、幼稚園教諭や保育士等の幼児教育に関する職業に就きたいと思っていますか。

- ① 就きたい ② 将来の選択肢の1つである ③ わからない ④ 就きたくない

(4) (3)で「①就きたい」「②将来の選択肢の1つである」と回答した人にお尋ねします。幼児教育に関する職業に関心をもったきっかけは何ですか。あてはまるものに○をつけてください。（複数回答可）

- ① きょうだいや親戚で幼い子どもと関わる機会が多かったから。
- ② 自分の通った幼稚園、保育所等の先生に憧れたから。
- ③ 自分の通った幼稚園や保育所等が楽しかったから。
- ④ 親族に幼稚園教諭や保育士がいるから。
- ⑤ 中学・高校の職場体験等で幼稚園や保育所で活動した経験から。
- ⑥ 幼児教育に関する本や記事を読んだから。
- ⑦ その他【具体的には：

】

次のページの質問に続く

2. 「幼児教育☆サマーセミナー」への参加についてお尋ねします。

(1) 「幼児教育☆サマーセミナー」をどうやって知りましたか。あてはまるものに○をつけてください。
(複数回答可)

- ① 通っている高校でチラシをもらった。
- ② 通っている高校で掲示されたチラシを見た。
- ③ 千葉大学教育学部のホームページを見た。
- ④ 千葉大学教育学部の見学時にチラシをもらった。
- ⑤ SNS (Twitter, Instagram, Facebook 等) で知った。
- ⑥ 口コミ (友人、家族等) で知った。
- ⑦ その他【具体的には： 】

(2) 「幼児教育☆サマーセミナー」に参加したのはなぜですか。あてはまるものに○をつけてください。
(複数回答可)

- ① 将来、幼稚園教諭や保育士になりたいから。
- ② 幼児教育に関心があるから。
- ③ 千葉大学教育学部乳幼児教育コースに関心があるから。
- ④ 教員研究紹介を聞けるから。
- ⑤ 附属幼稚園の見学ができるから。
- ⑥ 乳幼児教育コースの在校生と交流ができるから。
- ⑦ その他【具体的には： 】

3. 「幼児教育☆サマーセミナー」に参加した感想についてお尋ねします。

(1) 「幼児教育☆サマーセミナー」の内容について、1(まったく満足していない)～5(とても満足した)のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	1	2	3	4	5				
①教員研究紹介	1	—	2	—	3	—	4	—	5
②附属幼稚園紹介	1	—	2	—	3	—	4	—	5
②附属幼稚園見学	1	—	2	—	3	—	4	—	5
③在校生との交流	1	—	2	—	3	—	4	—	5

次のページの質問に続く

(2) 「幼児教育☆サマーセミナー」に参加した感想として、1(まったくあてはまらない)～5(とてもあてはまる)のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	あてはまらない まったく		あてはまらない あまり		どちらとも いえない		少し あてはまる		とても あてはまる
① 幼児教育への関心が高まった。	1	—	2	—	3	—	4	—	5
② 幼児教育への理解が深まった。	1	—	2	—	3	—	4	—	5
③ 幼児教育に関する「職」への憧れが強まった。	1	—	2	—	3	—	4	—	5
④ 千葉大学乳幼児教育コースへの関心が高まった。	1	—	2	—	3	—	4	—	5

(3) 「幼児教育☆サマーセミナー」に参加して、特に印象に残ったことや要望等あれば、書いてください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

《お願い》

今後、本セミナーの参加者に関するアンケート調査を実施予定です。協力してもよいという人は、以下にお名前、ご住所、メールアドレスを書いてください。協力は任意です。

氏名 (ふりがな) :

住所 :

メールアドレス :

「幼児教育☆サマーセミナー」参加者アンケート（在校生）



このアンケートは、文部科学省『大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）』の一環として実施される「幼児教育☆サマーセミナー」の参加者の感想等を検討することを目的としています。

まず、以下の点をご確認の上、アンケートに回答していただける場合は、下の欄にチェック（☑）と日付を記入してください。

1. 調査で得られた結果を研究以外の目的で使用することは一切ありません。
2. 今回のアンケートの回答内容から個人が特定されることはありません。ご協力いただいた方のデータは匿名で扱い、秘密やプライバシーは厳守します。
3. アンケートの中で、答えたくない質問にはお答えいただくことなく結構です。アンケートの回答を途中でやめることもできます。それらによって、アンケート回答者に不利益が生じることはありません。
4. アンケートによって得られたデータは、研究終了後には責任をもって適切に処分します。

「私は上記の説明を読んだ上で、このアンケートに回答することに同意します。」

チェック欄

20 年 月 日

チェック（☑）と日付を記入されましたら、以下の質問に答えてください。

1. あなた自身のことについてお尋ねします。

(1) あなたの性別について、あてはまるものに○をつけてください。

- ① 女 ② 男 ③ 無回答

(2) あなたの学年について、あてはまるものに○をつけてください。

- ① 大学1年生 ② 大学4年生

(3) あなたは将来、幼稚園教諭や保育士等の幼児教育に関する職業に就きたいと思っていますか。

- ① 就きたい ② 将来の選択肢の1つである ③ わからない ④ 就きたくない

(4) (3)で「①就きたい」「②将来の選択肢の一つである」と回答した人にお尋ねします。幼児教育に関する職業に関心をもったきっかけは何ですか。あてはまるものに○をつけてください。（複数回答可）

- ① きょうだいや親戚で幼い子どもと関わる機会が多かったから。
- ② 自分の通った幼稚園、保育所等の先生に憧れたから。
- ③ 自分の通った幼稚園や保育所等が楽しかったから。
- ④ 親族に幼稚園教諭や保育士がいるから。
- ⑤ 中学・高校の職場体験等で幼稚園や保育所で活動した経験から。
- ⑥ 幼児教育に関する本や記事を読んだから。
- ⑦ その他【具体的には：】

次のページの質問に続く

3. 「幼児教育☆サマーセミナー」に参加した感想についてお尋ねします。

(1) 「幼児教育☆サマーセミナー」の内容について、1(まったく満足していない)～5(とても満足した)のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	満足して いない	ま った く 満 足 し て い な い	1	—	2	—	3	—	4	—	5
① 教員研究紹介			1	—	2	—	3	—	4	—	5
② 附属幼稚園紹介			1	—	2	—	3	—	4	—	5
③ 附属幼稚園見学			1	—	2	—	3	—	4	—	5
④ 高校生との交流			1	—	2	—	3	—	4	—	5

(2) 「幼児教育☆サマーセミナー」に参加した感想として、1(まったくあてはまらない)～5(とてもあてはまる)のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	あては まら ない	ま った く あ て は ま ら な い	1	—	2	—	3	—	4	—	5
① 幼児教育への関心が高まった。			1	—	2	—	3	—	4	—	5
② 幼児教育への理解が深まった。			1	—	2	—	3	—	4	—	5
③ 幼児教育に関する「職」への憧れが強まった。			1	—	2	—	3	—	4	—	5
④ 幼児教育に関する「職」を目指す者としての自覚が強まった。			1	—	2	—	3	—	4	—	5
⑤ 千葉大学乳幼児教育コースへの愛着が増した。			1	—	2	—	3	—	4	—	5

(3) 「幼児教育☆サマーセミナー」に参加して、特に印象に残ったことや要望等あれば、書いてください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。



「幼児教育☆サマーセミナー」振り返り

「幼児教育☆サマーセミナー」（2023年7月29日実施）では附属幼稚園の先生方に大変お世話になりました。ありがとうございました。

附属学校園連携研究及び文科省事業の報告等のため、当日を振り返っていただき、以下の質問にご回答をお願いいたします。お忙しいところ恐れ入りますが8月6日（日）頃までにいただくと大変有難いです。

[Google にログイン](#)すると作業内容を保存できます。[詳細](#)

高校生等を対象にした「幼児教育サマーセミナー」を【附属幼稚園で開催したこと】について、ご意見等をお聞かせください。

回答を入力

附属幼稚園紹介、教員からの一言、園見学等で意識したこと等をお聞かせください。

回答を入力

園見学時等の参加者や在校生の様子からお感じになったこと等をお聞かせください。

回答を入力

セミナーの運営等においてお気づきになったことや今後に向けてのご意見等をお聞かせください。

回答を入力

送信

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは千葉大学 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム

文部科学省「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業
（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」



第48回千葉乳幼児教育研究会 幼児教育の「今」を語り合おう！

—国の動向と保育現場の声—

8.26(土)
開催

幼児教育の重要性がこれまで以上に認識され、新たな政策が次々と実行されています。同時に、少子化、コロナ禍などの急激な社会の変化とともに、幼稚園、保育所、認定こども園等の保育現場はさまざまな課題に対応しながら、子ども達の生活と育ちを支えています。

千葉乳幼児教育研究会では、文部科学省の委託事業の一環として、保育者を目指す養成校学生と保育現場で日々奮闘する現職者等が共に学び合う「多層・交流型研究会」を企画しました。

第1部では文部科学省幼児教育課の横山真貴子先生に国の動向についてご講演いただきます。第2部ではお二人の園長先生に自園の保育を語っていただき、参加者同士で幼児教育のやりがいや大切にしていることなどを語り合いたいと思います。

幼児教育をめぐる近年の動向

- 2015年（平成27年）子ども・子育て支援新制度開始
- 2017年（平成29年）幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領改訂
- 2019年（平成31/令和元年）幼児教育の無償化開始
- 2020年（令和3）幼児教育スタートプラン発表
- 2023年（令和5年）こども家庭庁発足

◎日時：2023年8月26日（土）14～16時（受付：13時30分より）

◎場所：千葉大学教育学部附属幼稚園

◎対象：保育者養成校に通う学生、現職保育者（幼稚園教諭・保育士等）、幼児教育関係者等

◎定員：80名（先着順。定員に達した時点で申込受付を終了します。）

◎内容

第1部 講演：幼児教育をめぐる国の動向

・横山真貴子先生（文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課 幼児教育調査官）

第2部 報告とディスカッション：保育現場の声

・鎌田悦子先生（鴨川市立長狭認定こども園 園長）

・高梨智子先生（浦安市立堀江認定こども園 園長）

参加者によるグループ討議

参加費：無料

◎申込方法：URL または2次元バーコードから、
申込フォームで申し込んでください。

<https://forms.gle/jcL5nomlrfo5fqHt7>



◎問合せ先：千葉大学教育学部幼児教育教室 砂上史子 sgfk@faculty.chiba-u.jp



主催：千葉大学教育学部幼児教育教室・千葉大学教育学部附属幼稚園

千葉乳幼児教育研究会『幼児教育の「今」を語り合おう！』

参加者アンケート

このアンケートは、文部科学省『大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）』の一環として実施される千葉乳幼児教育研究会『幼児教育の「今」を語り合おう！』の参加者の感想等を検討することを目的としています。

まず、以下の点をご確認の上、アンケートに回答していただける場合は、下の欄にチェック（☑）と日付を記入してください。

1. 調査で得られた結果を研究以外の目的で使用することは一切ありません。
2. 今回のアンケートの回答内容から個人が特定されることはありません。ご協力いただいた方のデータは匿名で扱い、秘密やプライバシーは厳守します。
3. アンケートの中で、答えたくない質問にはお答えいただかなくて結構です。アンケートの回答を途中でやめることもできます。それらによって、アンケート回答者に不利益が生じることはありません。
4. アンケートによって得られたデータは、研究終了後には責任をもって適切に処分します。

「私は上記の説明を読んだ上で、このアンケートに回答することに同意します。」

チェック欄

20 年 月 日

チェック（☑）と日付を記入されましたら、以下の質問に答えてください。

1. あなた自身のことについてお尋ねします。

(1) あなたの性別について、あてはまるものに○をつけてください。

- ① 女 ② 男 ③ 無回答

(2) あなたのお立場について、あてはまるものに○をつけてください。①は学年を記入し、②～⑤は勤務先での役職をa～eのうちから選択し○をつけてください。

- ① 保育者養成校学生（ ）年生 ② 大学院生
③ 幼稚園教諭【役職：a.理事長・園長 b.副園長等 c.主任教諭 d.教諭 e.その他（ ）】
④ 保育士 【役職：a.理事長・園長 b.統括主任等 c.主任保育士 d.保育士 e.その（ ）】
⑤ 保育教諭 【役職：a.理事長・園長 b.副園長等 c.主任教諭 d.教諭 e.その他（ ）】
⑥ 大学教員 ⑦行政関係者 ⑧ その他（ ）

(3) (2) で③～⑥を選択した方にお尋ねします。保育者としての経験年数について、あてはまるものに○をつけてください。

- ① 1年未満 ② 1年以上7年未満 ③ 7年以上15年未満 ④ 15年以上30年未満
⑤ 30年以上

(4) 本日の第2部で参加したグループのアルファベット等に、○をつけてください。

A B C D E F G H I J K L M N 参加せず

次のページの質問に続く

2. 本日の研究会への参加についてお尋ねします。

(1) 本日の研究会をどのように知りましたか。あてはまるものに○をつけてください。(複数回答可)

- ① 千葉大学附属幼稚園のホームページで知った。
- ② 千葉乳幼児教育研究会のメーリングリストで知った。
- ③ ②以外のメーリングリストで知った。
- ③ 勤務園の自治体の担当部署からの案内で知った。
- ④ 勤務園が所属する幼児教育関係の団体からの案内で知った。
- ④ 勤務園で紹介されて知った。
- ⑤ SNS (Twitter, Instagram, Facebook 等) で知った。
- ⑥ 口コミ (友人、知人等) で知った。
- ⑦ その他【具体的には： _____】

(2) 本日の研究会に参加したのはなぜですか。あてはまるものに○をつけてください。(複数回答可)

- ① 第1部「幼児教育をめぐる国の動向」を聞きかかったから。
- ② 第2部「報告とディスカッション：保育現場の声」を聞きかかったから。
- ③ さまざまな保育現場の人や幼児教育関係者とともに学べるから。
- ④ 過去に千葉乳幼児教育研究会に参加して有意義だったから。
- ⑤ 自分自身の学びになると感じたから。
- ⑦ その他【具体的には： _____】

3. 本日の研究会に参加した感想についてお尋ねします。

(1) 本日の研究会の内容について、1(まったく満足していない)～5(とても満足した)のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	1	2	3	4	5				
① 第1部 講演：幼児教育をめぐる国の動向	1	—	2	—	3	—	4	—	5
② 第2部 報告：保育現場の声 (2園の発表)	1	—	2	—	3	—	4	—	5
③ 第2部 グループ討議	1	—	2	—	3	—	4	—	5

次のページの質問に続く

(2) 本日の研究会の時間について、1(まったくあてはまらない)～5(とてもあてはまる)のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	とても短かった		少し短かった		ちょうどよかった		少し長かった		とても長かった
① 第1部 講演：幼児教育をめぐる国の動向	1	—	2	—	3	—	4	—	5
② 第2部 報告：保育現場の声(2園の発表)。	1	—	2	—	3	—	4	—	5
③ 第2部 グループ討議	1	—	2	—	3	—	4	—	5
④ 研究会全体	1	—	2	—	3	—	4	—	5

(3) 本日の研究会に参加した感想として、1(まったくあてはまらない)～5(とてもあてはまる)のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	まったくあてはまらない		あまりあてはまらない		どちらともいえない		少しあてはまる		とてもあてはまる
① 幼児教育の国の動向への理解が深まった。	1	—	2	—	3	—	4	—	5
② 実際の保育現場への理解が深まった。	1	—	2	—	3	—	4	—	5
③ さまざまな立場の人の話を聞くことができ、刺激になった。	1	—	2	—	3	—	4	—	5
④ 幼児教育の魅力ややりがいを感じた。	1	—	2	—	3	—	4	—	5

(4) この質問は、保育者養成校の学生・大学院生の方のみにお聞きします。本日の研究会に参加した感想として、1(まったくあてはまらない)～5(とてもあてはまる)のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	まったくあてはまらない		あまりあてはまらない		どちらともいえない		少しあてはまる		とてもあてはまる
① 幼児教育への関心が高まった。	1	—	2	—	3	—	4	—	5
② 幼児教育への理解が深まった。	1	—	2	—	3	—	4	—	5
③ 幼児教育に関する「職」への憧れが高まった。	1	—	2	—	3	—	4	—	5
④ 幼児教育に関する「職」を目指す者としての自覚が強まった。	1	—	2	—	3	—	4	—	5

次のページの質問に続く

(5) 本日の研究会のように、保育者養成校学生や現職保育者、大学教員等、さまざまな立場の参加者による研究会の感想として、お感じになったことをお書きください。

(6) 本日の研究会に参加して、特に印象に残ったことや要望等あれば、お書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

文部科学省「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業
（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」

リトミック ワークショップ

2023.11.11（土）

13:00-15:00

受付開始12:30

 内容

参加費
無料

- リトミック体験
音楽を身体で感じて動きます
- 実践例
子どもになって動きます

場所

千葉大学教育学部ダンス場

対象/定員

保育者養成校学生・現職保育者等
30名

服装/持ち物

- ・動きやすい服装
 - ・筆記用具
- 活動は素足で行います（スリッパ不可）

申込方法



URLまたは2次元コードからお申込ください
URL:<https://forms.gle/sk6VKNqNtzVjYstq9>
※定員に達し次第メ切ます

【問合せ】千葉大学教育学部幼児教育教室
事業係：koyoikuyoji-jim@chiba-u.jp

主催：千葉大学教育学部幼児教育教室

リトミックとは

リトミックは、スイスの作曲家、音楽教育家である エミール・ジャック＝ダルクローズ（1865年～1950年）によって創られた、音楽を総合的にそして合理的に学ぶための音楽教育法です。

全身を使って音楽を動きで表現するリトミックと、音楽を聴く耳を育てるソルフェージュ、即興演奏を組み合わせ、音楽の諸要素を体験する事を教育法の原点に置き、音楽理解を深め、動きによって得た筋肉感覚を生かし、その積み重ねにより自己を開放し、磨かれた感性をもとに、自己音楽表現を可能にする事がこの教育法の目的です。

リトミックは、大変柔軟で多面的である為に、音楽教育の分野に留まらず、一般教育（特に幼児教育）表現活動（演劇、オペラ、ダンス等）音楽療法等、多岐にわたり影響を及ぼします。とりわけ聴覚は脳の成長に大変大きな影響がある事が生理学的にも実証されており幼児期にリトミックのレッスンを受け、身体と聴覚を育てる事は、幼児の成長に非常に大切な事です。

ダルクローズが自分の教育法を説明するように頼まれた時、彼は、「ある生徒がレッスンで得た印象と成果を基に、リトミックの意義を説明する事はたやすい事だが、より深いリトミックの理解の為には、自身がレッスンを通してリトミックを体験する事が不可欠である」と言っています。

リトミックを学ぶ唯一の方法は、自分自身が経験を積み重ね習得していかななくてはならないと言う事です。音楽家、音楽教育者、一般教育者、表現活動を目指す方々、音楽療法士等様々な方々がリトミックを体験する事により、それぞれの現場における新たな発見をしていただけると確信しております。
（ダルクローズ協会ホームページより）



講師：鈴木 香代子 千葉大学教育学部特任研究員

國學院大學人間開発学部子ども支援学科兼任講師

リトミック研究センター指導者会員（ディプロマA取得）

日本ダルクローズ音楽教育学会正会員，日本ジャック＝ダルクローズ協会正会員

日本音楽教育学会正会員，音楽鑑賞振興財団 音楽鑑賞教育マイスター会員

一般社団法人関東子ども福祉教育学院代表理事

港区子育てひろば「あい・ぽーと青山」リトミック講師

千代田区子育てひろば「あい・ぽーと麹町」リトミック講師

墨田区東向島児童館，墨田区東駒形コミュニティ会館リトミック講師

子育てひろばや児童館では20年以上、のべ500人以上の子どもたちにリトミックを指導している。

千葉大学教育学部幼児教育教室『リトミックワークショップ』 事前アンケート

このアンケートは、文部科学省『大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）』の一環として実施される千葉大学教育学部幼児教育教室『リトミックワークショップ』の参加者の受講前の意識等を調査することを目的としています。

まず、以下の点をご確認の上、アンケートに回答していただける場合は、下の欄にチェック（☑）と日付を記入してください。

1. 調査で得られた結果を研究以外の目的で使用することは一切ありません。
2. 今回のアンケートの回答内容から個人が特定されることはありません。ご協力いただいた方のデータは匿名で扱い、秘密やプライバシーは厳守します。
3. アンケートの中で、答えたくない質問にはお答えいただかなくて結構です。アンケートの回答を途中でやめることもできます。それらによって、アンケート回答者に不利益が生じることはありません。
4. アンケートによって得られたデータは、研究終了後には責任をもって適切に処分します。

「私は上記の説明を読んだ上で、このアンケートに回答することに同意します。」

チェック欄

20 年 月 日

チェック（☑）と日付を記入されましたら、以下の質問に答えてください。

◆あなた自身のことについてお尋ねします。

(1) あなたの性別について、あてはまるものに○をつけてください。

- ① 女 ② 男 ③ 無回答

(2) あなたのお立場について、あてはまるものに○をつけてください。①は学年を記入し、③～⑤は勤務先での役職を a～e のうちから選択し○をつけてください。（現在保育者ではないが過去に保育経験がある場合は③④⑤も選択してください。）

- ① 保育者養成校学生（ ）年生 ② 大学院生
- ③ 幼稚園教諭【役職：a.理事長・園長 b.副園長等 c.主任教諭 d.教諭 e.その他（ ）】
- ④ 保育士 【役職：a.理事長・園長 b.統括主任等 c.主任保育士 d.保育士 e.その他（ ）】
- ⑤ 保育教諭【役職：a.理事長・園長 b.副園長等 c.主任教諭 d.教諭 e.その他（ ）】
- ⑥ 大学教員 ⑦ 行政関係者 ⑧ その他（ ）

(3) (2) で③～⑤を選択した方にお尋ねします。保育者としての経験年数について、あてはまるものに○をつけてください。

- ① 1年未満 ② 1年以上7年未満 ③ 7年以上15年未満 ④ 15年以上30年未満
- ⑤ 30年以上

裏面の質問に続く

1. 「リトミック」を知っていますか？あてはまるものに○をつけてください。

- ① 知っている。 ② 知らない。

2. 「リトミック」と聞いてイメージすることを自由にお書きください。

[]

3. 1.の質問について【①知っている】と回答した方にお尋ねします。

リトミックについて知っていることを自由にお書きください。

[]

4. リトミックを体験あるいは実践したことがありますか？あてはまるものに○をつけてください。

- ① 過去に体験したことがある ② 保育現場で実践している・したことがある
③ 体験も実践もしたことがない

5. 4.の質問について【①過去に体験したことがある】と回答した方にお尋ねします。いつ頃体験しましたか？あてはまるものに○をつけてください。

- ① 幼児期 ② 小学生 ③ 中学生 ④ 高校生 ⑤ 大学生
⑥ 大人になってから ⑦ その他（具体的に： ）

6. リトミックはどのくらいの年齢から実践できると思いますか？（複数回答可）

- ① 0歳児 ② 1・2歳児 ③ 3～5歳児 ④ 小学生 ⑤ 中学生 ⑥ 高校生
⑦ 18歳以上 ⑧ 65歳以上の高齢者 ⑨ その他（ ） ⑩ わからない

7. リトミックの指導者として、どのような専門性を持った人がふさわしいと思いますか？（1つ選択）

- ① 幼稚園や保育所などの「保育・幼児教育」の専門性を持った指導者
② 音楽教室やプライベートで音楽を教える「音楽」の専門性を持った指導者
③ 「音楽」も教えることができる「保育・幼児教育」の専門性を持った指導者
④ 「保育・幼児教育」に造詣の深い「音楽」の専門性を持った指導者
⑤ 体操を教える「体育」の専門性を持った指導者
⑥ その他（具体的に： ）

8. その他、質問があればこちらにお書きください。ワークショップにて可能な限り回答致します。

[]

質問は以上です。有難うございました。

千葉大学教育学部幼児教育教室『リトミックワークショップ』

参加者アンケート

このアンケートは、文部科学省『大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）』の一環として実施される千葉大学教育学部幼児教育教室『リトミックワークショップ』の参加者の感想等を検討することを目的としています。

まず、以下の点をご確認の上、アンケートに回答していただける場合は、下の欄にチェック（☑）と日付を記入してください。

1. 調査で得られた結果を研究以外の目的で使用することは一切ありません。
2. 今回のアンケートの回答内容から個人が特定されることはありません。ご協力いただいた方のデータは匿名で扱い、秘密やプライバシーは厳守します。
3. アンケートの中で、答えたくない質問にはお答えいただかなくて結構です。アンケートの回答を途中でやめることもできます。それらによって、アンケート回答者に不利益が生じることはありません。
4. アンケートによって得られたデータは、研究終了後には責任をもって適切に処分します。

「私は上記の説明を読んだ上で、このアンケートに回答することに同意します。」

チェック欄

20 年 月 日

チェック（☑）と日付を記入されましたら、以下の質問に答えてください。

1. あなた自身のことについてお尋ねします。

(1) あなたの性別について、あてはまるものに○をつけてください。

- ① 女 ② 男 ③ 無回答

(2) あなたのお立場について、あてはまるものに○をつけてください。①は学年を記入し、③～⑤は勤務先での役割をa～eのうちから選択し○をつけてください。（現在保育者ではないが過去に保育経験がある場合は③④⑤も選択してください。）

- ① 保育者養成校学生（ ）年生 ② 大学院生
③ 幼稚園教諭【役職：a.理事長・園長 b.副園長等 c.主任教諭 d.教諭 e.その他（ ）】
④ 保育士【役職：a.理事長・園長 b.統括主任等 c.主任保育士 d.保育士 e.その他（ ）】
⑤ 保育教諭【役職：a.理事長・園長 b.副園長等 c.主任教諭 d.教諭 e.その他（ ）】
⑥ 大学教員 ⑦ 行政関係者 ⑧ その他（ ）

(3) (2)で③～⑤を選択した方にお尋ねします。保育者としての経験年数について、あてはまるものに○をつけてください。

- ① 1年未満 ② 1年以上7年未満 ③ 7年以上15年未満 ④ 15年以上30年未満
⑤ 30年以上

次のページの質問に続く

2. 本日のワークショップへの参加についてお尋ねします。

(1) 本日のワークショップをどのように知りましたか。あてはまるものに○をつけてください。

(複数回答可)

- ① 千葉大学教育学部附属幼稚園のホームページで知った。
- ② 千葉乳幼児教育研究会のメーリングリストで知った。
- ③ ②以外のメーリングリストで知った。
- ④ SNS (X (旧 Twitter), Instagram, Facebook 等) で知った。
- ⑤ 口コミ (友人、知人等) で知った。
- ⑥ その他【具体的には： 】

(2) 本日のワークショップに参加したのはなぜですか。あてはまるものに○をつけてください。

(複数回答可)

- ① リトミックを体験したいと思ったから。
- ② 保育現場でのリトミック指導法が知りたいから。
- ③ 自分自身の学びになると感じたから。
- ④ その他【具体的には： 】

3. 本日のワークショップに参加した感想についてお尋ねします。

(1) 本日の内容について、1(まったく有意義でなかった)～5 (とても有意義だった)のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	1	2	3	4	5				
	有意義で なかった	まったく 有意義で なかった	あまり 有意義で なかった	どちらとも いえない	少し 有意義だった	とても 有意義だった			
① リトミック体験 (第1部)	1	—	2	—	3	—	4	—	5
② 実践活動例 (第2部)	1	—	2	—	3	—	4	—	5
③ リトミックについての解説	1	—	2	—	3	—	4	—	5

(2) 本日のワークショップの時間について、1(とても短かった)～5 (とても長かった)のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	1	2	3	4	5				
	とても短 かった	少し短 かった	よか った ちよ うど	少し長 かった	とても長 かった				
① リトミック体験 (第1部)	1	—	2	—	3	—	4	—	5
② 実践活動例 (第2部)	1	—	2	—	3	—	4	—	5
③ リトミックについての解説	1	—	2	—	3	—	4	—	5

次のページの質問に続く

(3) 本日のワークショップに参加して、リトミックに対するイメージは変化しましたか？

- ① 変化した ② 変化しない ③ どちらとも言えない

(4) (3)でそのように回答した理由を自由にお書きください。

[]

(5) 第1部のリトミック体験で、感じたことを自由にお書きください。

[]

(6) 第2部の実践活動例から、気付いたことを自由にお書きください。

[]

(7) リトミックの解説から分かったことは、どのようなことですか？あてはまるものに○をつけてください。(複数回答可)

- ① リトミックの意義 ② 目的 ③ 実践対象者 ④ 指導者の専門性
④ その他【具体的には：

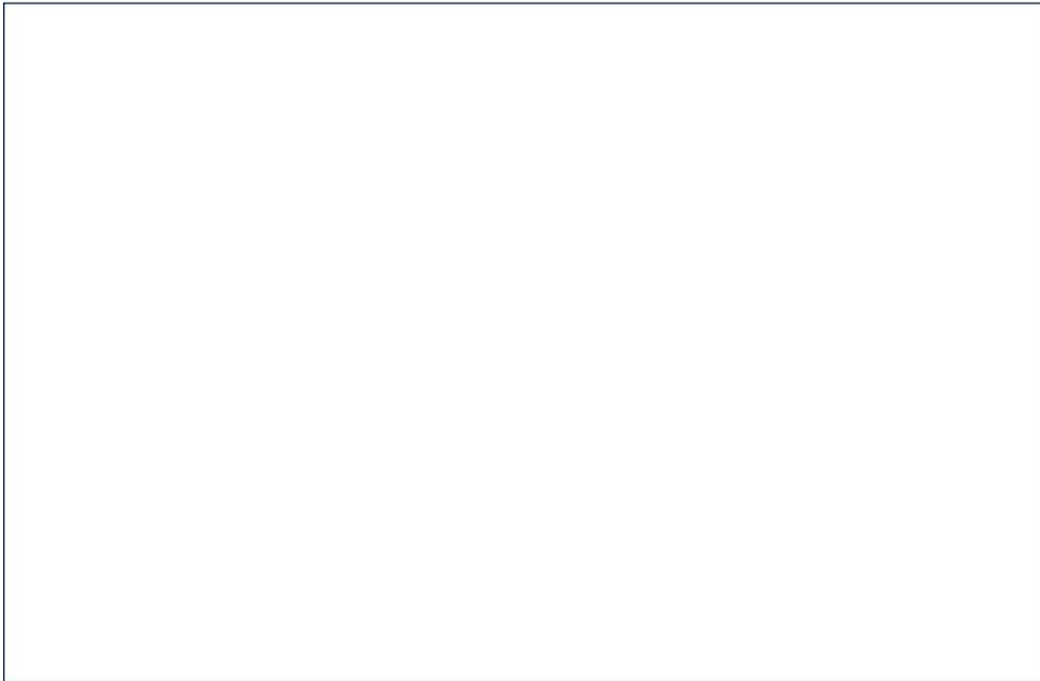
】

4. この質問は、保育者養成校の学生・大学院生の方のみにお聞きします。本日のワークショップに参加した感想として、1(まったくあてはまらない)～5(とてもあてはまる)のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	あてはまらない まったく		あてはまらない あまり		いえない どちらとも		あてはまる 少し		あてはまる とても
① 幼児教育への関心が高まった。	1	—	2	—	3	—	4	—	5
② 幼児教育への理解が深まった。	1	—	2	—	3	—	4	—	5
③ 幼児教育に関する「職」への憧れが高まった。	1	—	2	—	3	—	4	—	5
④ 幼児教育に関する「職」を目指す者としての自覚が強まった。	1	—	2	—	3	—	4	—	5

次のページの質問に続く

5. 本日のワークショップに参加して、特に印象に残ったことや要望等あれば、お書きください。



質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

文部科学省「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業
（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」

第51回千葉乳幼児教育研究会

オペラシアター

こんにやく座 うたのワークショップ

2023.11.25（土）

1回目：受付開始12:30

13:00-14:45

2回目：受付開始15:00

15:30-17:15

内容

参加費
無料

○こんにやく体操

からだと心のときほぐし

○オペラ「ピノッキオ」（萩京子作曲）

みんなでたくさん歌い合います

場所

千葉大学教育学部附属幼稚園

対象/定員

幼児教育に関心のある高校生・現職保育者

保育者養成校学生等

各回30名

服装/持ち物

・動きやすい服装

・バスタオル（こんにやく体操で使用）

・上履き（スリッパ不可）

申込方法

URLまたは二次元コードからお申込ください

URL:<https://forms.gle/JfTFbBcdSaxRHduK9>

※定員に達し次第メ切ます



【問合せ】千葉大学教育学部幼児教育教室

事業係：kyoikuyoji-jim@chiba-u.jp

主催：千葉大学教育学部幼児教育教室/千葉大学教育学部附属幼稚園

オペラシアターこんにゃく座

オペラシアターこんにゃく座は、[新しい日本のオペラの創造と普及]を目的に掲げ、1971年に創立されました。母体となったのは、東京芸術大学内で1965年から12年間にわたって活動が続いた学生たちのサークル「こんにゃく体操クラブ」です。このクラブでは、故宮川睦子氏（元東京芸術大学名誉教授）指導のもとに、身体訓練と演技の基礎訓練が行われました。この「こんにゃく体操クラブ」出身者たちにより、自国語のオペラ作品をレパートリーとし、恒常的にオペラを上演する専門のオペラ劇団としてオペラシアターこんにゃく座は設立され、巡回公演を開始しました。

日本にオペラが紹介されてから今日に至るまで、日本では、ヨーロッパで通用するオペラ歌手の育成に力を注いできています。その結果、日本語を歌う技術がなおざりにされ、観客は聞き取れない日本語の歌を聞かされ続けています。そのなかで、こんにゃく座はよく聞き取れる、すなわち内容の伝わる歌唱表現を獲得することを、創立当初からの目的とし、その成果は各方面からの評価を得るに至っています。

こんにゃく座はまた、オペラの演劇性を重視し、こんにゃく体操で培われた身体性を駆使し、演出面にも斬新な発想を提示し続けています。そして大掛かりなグランド・オペラの方向はとらず、ピアノのみ、あるいは小編成のアンサンブルの演奏と少人数の出演者による作品を創作し、数多くの上演を重ねています。

作曲家・林光（1931-2012）は1975年より音楽監督、座付作曲家を、1997年より芸術監督を務めました。現在、萩京子を代表・音楽監督とし、約40名の歌手を擁し、年間およそ250公演の上演活動を続けています。（ホームページより）

講師紹介



岡原 真弓（1988入座）

大阪芸術大学卒業

〈主な出演作品・役名〉

オペラ『口はロボットの口』ノーマ役ほか

オペラ『おぐりとてるて』大蛇役ほか

オペラ『森は生きている』9月+おっ母さん役

オペラ『ピノッキオ』キツネ役ほか

オペラ『ゼロ弾きのゴーシュ』楽長役 等多数

入江 茉奈（2020入座）

エリザベト音楽大学大学院修了

〈主な出演作品・役名〉

オペラ『浮かれのひょう六機織唄』村の娘たち役

コンサート『こんにゃくざのおんがくかい』

オペラ『タングーまほうをかけられた舌』クミン役

オペラ『アイツは賢い女のキツネ』少女ピストロウシカ役ほか

オペラ『森は生きている』5月+ウサギ役



◎湯田亜希（ピアニスト）

東京音楽大学器楽科卒業。東京コンセルヴァトワール尚美ディプロマコース修了。ピアノを森恵子、関根優子、藤本優子、山下郁代の各氏に師事。オペラシアターこんにゃく座『口はロボットの口』『タングーまほうをかけられた舌』等の公演、また「第五福竜丸・新たな出航のコンサート」や『原爆の図』、丸木美術館でのコンサート「きょうだいを殺しに」に参加。音楽とパフォーマンスの融合をめざすアンサンブル・ポアール、篠笛とピアノによるユニットSynopiaでも活動。

「オペラシアターこんにゃく座・うたのワークショップ」

参加者アンケート

このアンケートは、文部科学省『大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）』の一環として実施される「オペラシアターこんにゃく座・うたのワークショップ」の参加者の感想等を検討することを目的としています。

まず、以下の点をご確認の上、アンケートに回答していただける場合は、下の欄にチェック（☑）と日付を記入してください。

1. 調査で得られた結果を研究以外の目的で使用することは一切ありません。
2. 今回のアンケートの回答内容から個人が特定されることはありません。ご協力いただいた方のデータは匿名で扱い、秘密やプライバシーは厳守します。
3. アンケートの中で、答えたくない質問にはお答えいただかなくて結構です。アンケートの回答を途中でやめることもできます。それらによって、アンケート回答者に不利益が生じることはありません。
4. アンケートによって得られたデータは、研究終了後には責任をもって適切に処分します。

「私は上記の説明を読んだ上で、このアンケートに回答することに同意します。」

チェック欄

20 年 月 日

チェック（☑）と日付を記入されましたら、以下の質問に答えてください。

1. あなた自身のことについてお尋ねします。

(1) あなたの性別について、あてはまるものに○をつけてください。

- ① 女 ② 男 ③ 無回答

(2) あなたのお立場について、あてはまるものに○をつけてください。①は学年を記入し、③～⑤は勤務先での役職をa～eのうちから選択し○をつけてください。

- ① 保育者養成校学生（ ）年生 ② 大学院生

③ 幼稚園教諭【役職：a.理事長・園長 b.副園長等 c.主任教諭 d.教諭 e.その他（ ）】

④ 保育士【役職：a.理事長・園長 b.統括主任等 c.主任保育士 d.保育士 e.その他（ ）】

⑤ 保育教諭【役職：a.理事長・園長 b.副園長等 c.主任教諭 d.教諭 e.その他（ ）】

⑥ 大学教員 ⑦その他（ ）

(3) (2)で③～⑤を選択した方にお尋ねします。保育者としての経験年数について、あてはまるものに○をつけてください。

- ① 1年未満 ② 1年以上7年未満 ③ 7年以上15年未満 ④ 15年以上30年未満
⑤ 30年以上

次のページの質問に続く

2. 本日のワークショップへの参加についてお尋ねします。

(1) 本日のワークショップをどのように知りましたか。あてはまるものに○をつけてください。

(複数回答可)

- ① 千葉大学教育学部附属幼稚園のホームページで知った。
- ② 千葉乳幼児教育研究会のメーリングリストで知った。
- ③ ②以外のメーリングリストで知った。
- ④ 職場等でチラシを見た。
- ⑤ SNS (X (旧 Twitter)、Instagram、Facebook 等) で知った。
- ⑥ 口コミ【具体的には： 】
- ⑦ その他【具体的には： 】

(2) 本日のワークショップに参加したのはなぜですか。あてはまるものに○をつけてください。

(複数回答可)

- ① 歌うことが好きだから。
- ② ワークショップの内容が面白そうだったから。
- ③ オペラシアターこんにゃく座に関心を持ったから。
- ④ オペラシアターこんにゃく座が好きだから。
- ⑤ さまざまな保育現場の人や幼児教育関係者とともに学べるから。
- ⑥ 過去に千葉乳幼児教育研究会に参加して有意義だったから。
- ⑦ 自分自身の学びになると感じたから。
- ⑧ その他【具体的には： 】

3. 本日のワークショップに参加した感想についてお尋ねします。

(1) 本日の内容について、1(まったく有意義でなかった)～5(とても有意義だった)のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	まったく有意義 でなかった		あまり有意義 でなかった		どちらとも いえない		少し 有意義だった		とても 有意義だった
① こんにゃく体操	1	—	2	—	3	—	4	—	5
② 「ピノッキオ」より	1	—	2	—	3	—	4	—	5

(2) 本日のワークショップの時間について、1(とても短かった)～5(とても長かった)のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	とても 短かった		少し 短かった		ちょうど よかった		少し 長かった		とても 長かった
① こんにゃく体操	1	—	2	—	3	—	4	—	5
② 「ピノッキオ」より	1	—	2	—	3	—	4	—	5

次のページの質問に続く

(3) 本日のワークショップに参加した感想として、1(まったくあてはまらない)～5(とてもあてはまる)のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	あてはまらない まったく		あまり あてはまらない		どちらとも いえない		少し あてはまる		とても あてはまる
① 自分の身体の使い方を意識することができた	1	—	2	—	3	—	4	—	5
② 自分の声の魅力に気づくことができた	1	—	2	—	3	—	4	—	5
③ 歌う楽しさを実感できた	1	—	2	—	3	—	4	—	5
④ 歌詞を明瞭に伝える歌い方を知ることができた	1	—	2	—	3	—	4	—	5
⑤ 子どもに歌う楽しさを伝えたいと思った	1	—	2	—	3	—	4	—	5

(4) 本日のワークショップの経験を、ご自身のお立場で今後どのように活かしていきたいですか？自由に記述してください。

(5) この質問は、保育者の方のみにお聞きします。保育現場で歌唱活動を行うにあたって、悩んだり困ったりしていることはありますか？自由に記述してください。

(6) この質問は、保育者養成校の学生・大学院生の方のみにお聞きします。本日のワークショップに参加した感想として、1(まったくあてはまらない)～5(とてもあてはまる)のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	あてはまらない まったく		あまり あてはまらない		どちらとも いえない		少し あてはまる		とても あてはまる
① 幼児教育への関心が高まった	1	—	2	—	3	—	4	—	5
② 幼児教育への理解が深まった	1	—	2	—	3	—	4	—	5
③ 幼児教育に関する「職」への憧れが高まった	1	—	2	—	3	—	4	—	5
④ 幼児教育に関する「職」を目指す者としての自覚が強まった	1	—	2	—	3	—	4	—	5

(7) 本日のワークショップに参加して、印象に残ったことや要望等ありましたら回答してください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

令和5年度 文部科学省

「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業」

(「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業)

アンケート報告書

令和6年2月

千葉大学 教育学部 幼児教育教室